茨城県教育財団文化財調査報告第159集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

中原遺跡 2
（上　巻）

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

210.231
T586
2-1
NK

茨城県教育財団文化財調査報告第159集

中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

中原（なかはら）遺跡 2
（上　巻）

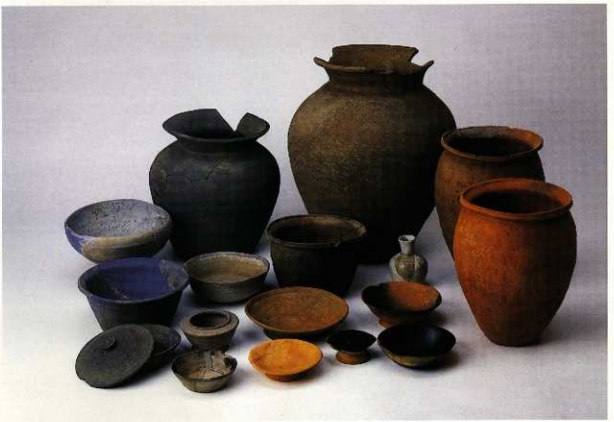
寄贈
歴史・人類学系
平成　年　月　日

平成 12 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

00605676

中原遺跡全景



中原遺跡出土遺物

序

つくば市は，国際交流の拠点にふさわしい町づくりを進めております。この町づくりの一環として，つくば市と都市基盤整備公団茨城地域支社は，市と東京圏を直結する常磐新線の開発と同時に，沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

財団法人茨城県教育財団は，都市基盤整備公団茨城地域支社から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成８年４月から平成９年７月までは中谷津遺跡の発掘調査を，平成９年８月からは中原遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部はすでに当財団の文化財調査報告第139集及び第155集として報告したところであります。

本書は，中原遺跡の平成10年度における調査の成果を収録したものであります。本書が，研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である都市基盤整備公団茨城地域支社から賜りました多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導・御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成12年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，都市基盤整備公団茨城地域支社の委託により財団法人茨城県教育財団が平成10年４月から平成11年３月まで発掘調査を実施した，つくば市大字東岡に所在する中原遺跡ⅡＢ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区の発掘調査報告書である。なお，住宅・都市整備公団茨城地域支社は，平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更した。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　　査　　平成10年４月１日～平成11年３月31日

整　　理　　平成11年４月１日～平成12年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査課第二課長小泉光正の指揮のもと，調査課第一班長横堀孝徳，主任調査員白田正子，副主任調査員宮田和男が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一，首席調査員荻野谷悟の指揮のもと，主任調査員成島一也，副主任調査員宮田和男が担当した。第３章第３節３・４の調査Ⅲ・Ⅳ区に関する部分及び写真図版に関しては成島が，第１～第３章第２節，第３章第３節３・４の調査ⅡＢ・Ⅴ区に関する部分及び第４節に関しては宮田が担当した。

5　本書の作成にあたり，墨書・刻書土器の判読については国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に，旧石器時代の器種の判定及び石材の鑑定については千葉県立中央博物館上席研究員の橋本勝雄氏に，灰釉陶器・緑釉陶器の鑑定に関しては愛知県陶磁資料館主任学芸員の井上喜久男氏に，律令期の集落構造については埼玉県埋蔵文化財調査事業団の田中広明氏に御指導をいただいた。

6　当遺跡から出土した金属製品の金属学的保存処理については財団法人岩手県文化振興事業団に，石器の実測業務については株式会社アルカに委託した。

7　発掘調査及び整理に際し，御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋10,480m，Y＝＋26,040mの交点を基準点（A1a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C‥‥，西から東へ1，2，3‥‥とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c‥‥j，西から東へ1，2，3‥‥0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A1a1区」，「B2b2区」のように呼称した。

その他，調査年次等による調査区の名称は第1図に示した。

2　遺構番号は平成9年度調査からの継続である。

3　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

4　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用したアルファベット記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　掘立柱建物跡－SB　溝－SD　土坑－SK　柱穴群－Pg　柱穴列－Pr

土層　撹乱－K

遺物　土器・陶磁器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品－M　拓本記録土器－TP

瓦－T　自然遺物－N

遺物計測　口径－A　器高－B　底径－C　高台（脚）径－D　高台（脚）高－E　つまみ径－F

つまみ高－G

5　遺構・遺物実測図の表示は，次のとおりである。

●土器　▲土製品　■石器・石製品　△金属製品　★瓦　□自然遺物　☆骨　○拓本土器　----硬化面

6　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の1，各遺構の平面図は原則として60分の1に縮尺して掲載した。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

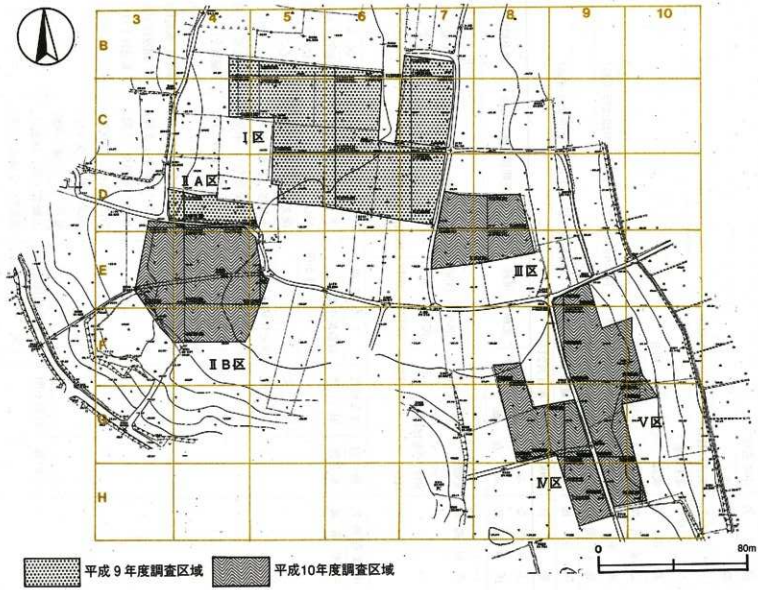
(3)　遺構の計測値については，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

7　「主軸」は，竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を「主軸」とみなした。「主軸方向」は，主軸が座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを，「N－10°－E」や「N－10°－W」のように表示した。なお，［　］を付したものは推定である。

8　遺物観察表の記載方法については，次のとおりである。

(1)　計測値については，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。単位はcmである。

(2)　備考の欄は，残存率，実測番号（P，Qほか），出土位置，その他必要と思われる事項を記した。



第１図　中原遺跡調査区設定図

抄　　録

ふりがな	なかね・こんだいとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	中原遺跡　2
巻次	Ⅲ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第159集
著者名	成島　一也　　宮田　和男
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL　029-225-6587
発行日	2000（平成12）年3月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
なかはら 中原遺跡	いばらきけん　しおおみず 茨城県つくば市大字 ひがしおおあらかはら　ばんち 東岡字中原187番地 ほか	08220 ｜ 222	36度 05分 38秒	140度 07分 29秒	23.4m ～ 25.3m	19980401 ～ 19990331	10,389㎡	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中原遺跡	集落跡	旧石器	石器集中地点 3か所	ナイフ形石器，彫刻刀形石器，掻器，剥片	奈良時代から平安時代の集落跡が中心。 ほとんどの住居跡が北廂で，棚状施設を持つものがある。河内郡衙跡（推定地）との関連性が高い集落跡と思われる。
		縄文		縄文土器片，石鏃，剥片	
		奈良・平安	竪穴住居跡　134軒 掘立柱建物跡　37棟 土坑　19基 柱穴群　2群 柱穴列　4条	土師器（墨書土器・風字硯を含む），須恵器（墨書土器・刻書土器・円面硯）を含む，灰釉・緑釉陶器，瓦，土製品（紡錘車・支脚），石製品（紡錘車・支脚），石器（砥石），金属製品（鉄鏃・刀子・帯金具・鉄斧・釘・手鎌・銅銙）	
	その他	時期不明	掘立柱建物跡　1棟 土坑　242基 柱穴群　3群 溝　10条	土師質土器，陶器片，磁器片，金属製品（簪）	

目　　次

—上　巻—

序
例言
凡例
抄録
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経過 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　調査の成果 …… 9
　第1節　遺跡の概要 …… 9
　第2節　基本層序 …… 9
　第3節　遺構と遺物 …… 11
　　1　旧石器時代の遺構と遺物 …… 11
　　(1)　調査の概要と方法 …… 11
　　(2)　出土遺物 …… 11
　　ア　第1調査区の出土遺物 …… 11
　　イ　第2調査区の出土遺物 …… 15
　　ウ　その他の出土遺物 …… 15
　　2　縄文時代の遺構と遺物 …… 23
　　3　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 27
　　(1)　竪穴住居跡 …… 27

—下　巻—

　　3　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 373
　　(1)　竪穴住居跡 …… 373
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 401
　　(3)　土坑 …… 460
　　(4)　柱穴列・柱穴群 …… 477
　　(5)　遺構外出土遺物 …… 483
　　4　その他の遺構と遺物 …… 485
　　(1)　掘立柱建物跡 …… 485
　　(2)　土坑 …… 487
　　(3)　柱穴群 …… 516

(4) 溝 ……521
(5) 遺構外出土遺物 ……523
第4節 まとめ ……523
中原遺跡遺構一覧 ……534
写真図版

挿図目次

第1図 中原遺跡調査区設定図
第2図 周辺遺跡位置図…… 7
第3図 基本土層図…… 10
第4図 第1調査区出土石器分布図（器種）…… 12
第5図 第1調査区出土石器分布図（石材）…… 13
第6図 第2調査区出土石器分布図（器種）…… 15
第7図 第2調査区出土石器分布図（石材）…… 16
第8図 旧石器時代の遺物実測図(1)…… 18
第9図 旧石器時代の遺物実測図(2)…… 19
第10図 旧石器時代の遺物実測図(3)…… 20
第11図 旧石器時代の遺物実測図(4)…… 21
第12図 縄文時代の遺物実測図1（土器）…… 24
第13図 縄文時代の遺物実測図2（土器）…… 25
第14図 縄文時代の遺物実測図3（石器）…… 26
第15図 第91号住居跡実測図…… 28
第16図 第91号住居跡出土遺物実測図…… 29
第17図 第92号住居跡実測図…… 31
第18図 第92号住居跡出土遺物実測図…… 32
第19図 第93・96号住居跡実測図…… 34
第20図 第93号住居跡出土遺物実測図…… 35
第21図 第94・99号住居跡実測図…… 36
第22図 第94号住居跡出土遺物実測図…… 37
第23図 第95号住居跡実測図…… 39
第24図 第95号住居跡出土遺物実測図…… 39
第25図 第96号住居跡出土遺物実測図…… 41
第26図 第97号住居跡実測図…… 43
第27図 第97号住居跡出土遺物実測図…… 44
第28図 第98号住居跡実測図…… 46
第29図 第98号住居跡出土遺物実測図…… 48
第30図 第100号住居跡実測図 …… 50
第31図 第100号住居跡出土遺物実測図 …… 51
第32図 第101号住居跡実測図 …… 51
第33図 第101号住居跡出土遺物実測図 …… 52
第34図 第102号住居跡実測図 …… 53
第35図 第102号住居跡出土遺物実測図 …… 54
第36図 第103号住居跡実測図 …… 55
第37図 第103号住居跡出土遺物実測図 …… 57
第38図 第104号住居跡実測図 …… 59
第39図 第104号住居跡出土遺物実測図 …… 60
第40図 第105号住居跡実測図 …… 62
第41図 第105号住居跡出土遺物実測図 …… 63
第42図 第106号住居跡実測図 …… 65
第43図 第106号住居跡出土遺物実測図 …… 66
第44図 第107号住居跡実測図 …… 67
第45図 第107号住居跡出土遺物実測図 …… 69
第46図 第108号住居跡実測図(1) …… 72
第47図 第108号住居跡実測図(2) …… 73
第48図 第108号住居跡出土遺物実測図 …… 73
第49図 第109号住居跡実測図 …… 74
第50図 第109号住居跡出土遺物実測図 …… 75
第51図 第110号住居跡実測図(1) …… 78
第52図 第110号住居跡実測図(2) …… 79
第53図 第110号住居跡出土遺物実測図(1) …… 80
第54図 第110号住居跡出土遺物実測図(2) …… 81
第55図 第111号住居跡実測図 …… 82
第56図 第111号住居跡出土遺物実測図 …… 83
第57図 第112号住居跡実測図 …… 84
第58図 第112号住居跡出土遺物実測図 …… 85
第59図 第113号住居跡実測図(1) …… 88
第60図 第113号住居跡実測図(2) …… 89

第 61 図　第113号住居跡出土遺物実測図 …… 90
第 62 図　第114号住居跡実測図 …… 91
第 63 図　第114号住居跡出土遺物実測図 …… 91
第 64 図　第115号住居跡実測図 …… 93
第 65 図　第115号住居跡出土遺物実測図 …… 94
第 66 図　第116号住居跡実測図 …… 97
第 67 図　第116号住居跡出土遺物実測図 …… 98
第 68 図　第117号住居跡実測図 …… 100
第 69 図　第117号住居跡出土遺物実測図 …… 101
第 70 図　第118号住居跡実測図 …… 102
第 71 図　第118号住居跡出土遺物実測図 …… 103
第 72 図　第119号住居跡実測図 …… 104
第 73 図　第119号住居跡出土遺物実測図 …… 105
第 74 図　第120号住居跡実測図 …… 107
第 75 図　第120号住居跡出土遺物実測図 …… 108
第 76 図　第121号住居跡実測図 …… 110
第 77 図　第121号住居跡出土遺物実測図 …… 111
第 78 図　第122号住居跡実測図 …… 112
第 79 図　第122号住居跡出土遺物実測図 …… 113
第 80 図　第123号住居跡実測図 …… 115
第 81 図　第123号住居跡出土遺物実測図 …… 115
第 82 図　第124号住居跡実測図 …… 117
第 83 図　第124号住居跡出土遺物実測図 …… 118
第 84 図　第125号住居跡実測図 …… 119
第 85 図　第125号住居跡出土遺物実測図 …… 120
第 86 図　第126号住居跡実測図 …… 122
第 87 図　第126号住居跡出土遺物実測図 …… 122
第 88 図　第127号住居跡実測図 …… 124
第 89 図　第127号住居跡出土遺物実測図 …… 125
第 90 図　第128号住居跡実測図 …… 126
第 91 図　第128号住居跡出土遺物実測図 …… 127
第 92 図　第129号住居跡実測図 …… 129
第 93 図　第129号住居跡出土遺物実測図 …… 129
第 94 図　第130号住居跡実測図 …… 131
第 95 図　第130号住居跡出土遺物実測図 …… 132
第 96 図　第131号住居跡実測図 …… 134
第 97 図　第131号住居跡出土遺物実測図 …… 135
第 98 図　第132号住居跡実測図 …… 136
第 99 図　第132号住居跡出土遺物実測図 …… 136
第100図　第133号住居跡実測図 …… 137
第101図　第133号住居跡出土遺物実測図 …… 138
第102図　第134号住居跡実測図 …… 140
第103図　第134号住居跡出土遺物実測図 …… 141
第104図　第135号住居跡実測図 …… 143
第105図　第135号住居跡出土遺物実測図 …… 143
第106図　第136号住居跡出土遺物実測図 …… 145
第107図　第136・137・144号住居跡実測図(1) …… 146
第108図　第136・137・144号住居跡実測図(2) …… 147
第109図　第137号住居跡出土遺物実測図(1) …… 150
第110図　第137号住居跡出土遺物実測図(2) …… 151
第111図　第138号住居跡実測図 …… 153
第112図　第138号住居跡出土遺物実測図 …… 154
第113図　第139・140号住居跡実測図 …… 155
第114図　第139号住居跡出土遺物実測図 …… 156
第115図　第140号住居跡出土遺物実測図 …… 157
第116図　第141号住居跡実測図 …… 158
第117図　第141号住居跡出土遺物実測図 …… 159
第118図　第142号住居跡実測図 …… 160
第119図　第143号住居跡実測図 …… 161
第120図　第143号住居跡出土遺物実測図 …… 161
第121図　第144号住居跡出土遺物実測図 …… 162
第122図　第145号住居跡実測図(1) …… 164
第123図　第145号住居跡実測図(2) …… 165
第124図　第145号住居跡出土遺物実測図 …… 166
第125図　第146号住居跡実測図 …… 168
第126図　第146号住居跡出土遺物実測図 …… 169
第127図　第147号住居跡実測図 …… 170
第128図　第147号住居跡出土遺物実測図 …… 171
第129図　第148号住居跡実測図 …… 172
第130図　第148号住居跡出土遺物実測図 …… 172
第131図　第149号住居跡実測図 …… 174
第132図　第149号住居跡出土遺物実測図 …… 175
第133図　第150号住居跡実測図 …… 176
第134図　第150号住居跡出土遺物実測図 …… 177
第135図　第151号住居跡実測図 …… 178
第136図　第151号住居跡出土遺物実測図 …… 179

第137図　第152号住居跡実測図 ……181
第138図　第152号住居跡出土遺物実測図 ……182
第139図　第153号住居跡実測図(1) ……184
第140図　第153号住居跡実測図(2) ……185
第141図　第153号住居跡出土遺物実測図(1) ……186
第142図　第153号住居跡出土遺物実測図(2) ……187
第143図　第154号住居跡実測図 ……190
第144図　第154号住居跡出土遺物実測図 ……191
第145図　第155号住居跡実測図 ……193
第146図　第155号住居跡出土遺物実測図(1) ……195
第147図　第155号住居跡出土遺物実測図(2) ……196
第148図　第156号住居跡実測図 ……198
第149図　第156号住居跡出土遺物実測図 ……199
第150図　第157号住居跡実測図(1) ……201
第151図　第157号住居跡実測図(2) ……201
第152図　第157号住居跡出土遺物実測図 ……203
第153図　第158号住居跡実測図 ……205
第154図　第158号住居跡出土遺物実測図 ……206
第155図　第159号住居跡実測図 ……207
第156図　第159号住居跡出土遺物実測図 ……208
第157図　第160号住居跡実測図 ……210
第158図　第160号住居跡出土遺物実測図 ……211
第159図　第161号住居跡実測図 ……212
第160図　第161号住居跡出土遺物実測図 ……213
第161図　第162号住居跡実測図 ……215
第162図　第162号住居跡出土遺物実測図 ……216
第163図　第163号住居跡実測図 ……219
第164図　第163号住居跡出土遺物実測図 ……220
第165図　第164号住居跡実測図 ……222
第166図　第164号住居跡出土遺物実測図 ……223
第167図　第165号住居跡実測図 ……225
第168図　第165号住居跡出土遺物実測図 ……226
第169図　第166号住居跡実測図 ……228
第170図　第166号住居跡出土遺物実測図 ……229
第171図　第167号住居跡実測図 ……231
第172図　第167号住居跡出土遺物実測図 ……232
第173図　第168A号住居跡実測図 ……233
第174図　第168A号住居跡出土遺物実測図 ……234
第175図　第168B号住居跡実測図 ……237
第176図　第168B号住居跡出土遺物実測図 ……238
第177図　第169号住居跡実測図 ……240
第178図　第169号住居跡出土遺物実測図 ……241
第179図　第170号住居跡実測図 ……242
第180図　第170号住居跡出土遺物実測図 ……243
第181図　第171号住居跡実測図(1) ……246
第182図　第171号住居跡実測図(2) ……247
第183図　第171号住居跡出土遺物実測図(1) ……248
第184図　第171号住居跡出土遺物実測図(2) ……249
第185図　第172号住居跡実測図 ……251
第186図　第172号住居跡出土遺物実測図 ……252
第187図　第173号住居跡実測図 ……254
第188図　第173号住居跡出土遺物実測図 ……255
第189図　第174号住居跡実測図 ……257
第190図　第174号住居跡出土遺物実測図 ……258
第191図　第175号住居跡実測図 ……260
第192図　第175号住居跡出土遺物実測図 ……261
第193図　第176号住居跡出土遺物実測図 ……263
第194図　第176号住居跡実測図 ……263
第195図　第177号住居跡実測図 ……265
第196図　第177号住居跡出土遺物実測図 ……266
第197図　第179号住居跡実測図 ……267
第198図　第179号住居跡出土遺物実測図 ……268
第199図　第180号住居跡実測図 ……270
第200図　第180号住居跡出土遺物実測図 ……271
第201図　第181号住居跡実測図 ……272
第202図　第181号住居跡出土遺物実測図 ……273
第203図　第182号住居跡実測図 ……274
第204図　第182号住居跡出土遺物実測図 ……274
第205図　第183号住居跡実測図 ……276
第206図　第183号住居跡出土遺物実測図 ……276
第207図　第184号住居跡実測図 ……278
第208図　第184号住居跡出土遺物実測図 ……279
第209図　第185号住居跡実測図 ……281
第210図　第185号住居跡出土遺物実測図 ……282
第211図　第186号住居跡実測図 ……284
第212図　第186号住居跡出土遺物実測図 ……284

第213図　第187号住居跡実測図 ……286
第214図　第187号住居跡出土遺物実測図 ……286
第215図　第188号住居跡実測図 ……288
第216図　第188号住居跡出土遺物実測図 ……288
第217図　第189号住居跡実測図 ……289
第218図　第189号住居跡出土遺物実測図 ……290
第219図　第190号住居跡実測図 ……292
第220図　第190号住居跡出土遺物実測図 ……293
第221図　第191号住居跡実測図 ……294
第222図　第192号住居跡実測図 ……295
第223図　第192号住居跡出土遺物実測図 ……296
第224図　第193号住居跡実測図 ……297
第225図　第193号住居跡出土遺物実測図 ……297
第226図　第194号住居跡実測図 ……298
第227図　第200号住居跡実測図 ……299
第228図　第200号住居跡出土遺物実測図 ……300
第229図　第201号住居跡実測図 ……302
第230図　第201号住居跡出土遺物実測図(1) ……304
第231図　第201号住居跡出土遺物実測図(2) ……305
第232図　第202号住居跡実測図 ……306
第233図　第202号住居跡出土遺物実測図 ……306
第234図　第203号住居跡実測図 ……308
第235図　第203号住居跡出土遺物実測図 ……309
第236図　第204号住居跡実測図 ……311
第237図　第204号住居跡出土遺物実測図 ……312
第238図　第205号住居跡実測図 ……315
第239図　第205号住居跡出土遺物実測図(1) ……316
第240図　第205号住居跡出土遺物実測図(2) ……317
第241図　第206号住居跡実測図 ……320
第242図　第206号住居跡掘り方実測図 ……321
第243図　第206号住居跡出土遺物実測図 ……322
第244図　第207号住居跡実測図 ……324
第245図　第207号住居跡掘り方実測図 ……325
第246図　第207号住居跡出土遺物実測図 ……327
第247図　第208号住居跡実測図 ……330
第248図　第208号住居跡出土遺物実測図(1) ……331
第249図　第208号住居跡出土遺物実測図(2) ……332
第250図　第209号住居跡実測図 ……334
第251図　第209号住居跡出土遺物実測図 ……335
第252図　第210号住居跡実測図 ……338
第253図　第210号住居跡出土遺物実測図 ……339
第254図　第211号住居跡実測図 ……342
第255図　第211号住居跡出土遺物実測図 ……343
第256図　第212号住居跡実測図(1) ……346
第257図　第212号住居跡実測図(2) ……347
第258図　第212号住居跡出土遺物実測図(1) ……348
第259図　第212号住居跡出土遺物実測図(2) ……349
第260図　第213号住居跡実測図(1) ……354
第261図　第213号住居跡実測図(2) ……355
第262図　第213号住居跡出土遺物実測図(1) ……356
第263図　第213号住居跡出土遺物実測図(2) ……357
第264図　第214号住居跡実測図 ……358
第265図　第214号住居跡出土遺物実測図 ……360
第266図　第215号住居跡実測図 ……362
第267図　第215号住居跡出土遺物実測図 ……363
第268図　第216号住居跡実測図 ……365
第269図　第216号住居跡出土遺物実測図 ……366
第270図　第217号住居跡実測図(1) ……368
第271図　第217号住居跡実測図(2) ……369
第272図　第217号住居跡出土遺物実測図(1) ……370
第273図　第217号住居跡出土遺物実測図(2) ……371

表　目　次

表1　周辺遺跡一覧表 ……6
表2　第1調査区出土遺物 ……14
表3　第1調査区出土遺物(第5号石器集中地点)…14
表4　第1調査区出土遺物(第6号石器集中地点)…14
表5　第2調査区出土遺物 ……17
表6　第2調査区出土遺物(第7号石器集中地点)…17
表7　遺構に伴わない旧石器の遺物 ……17

中原遺跡出土遺物

第1章　調査経緯

第1節　調査に至る経緯

つくば市は，世界に開かれた国際交流の中心，世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として，21世紀の新しい町づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが，西暦2005年開業をめざした常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発で，中根・金田台地区については，住宅・都市整備公団つくば開発局（平成９年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に，平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更している。）を事業主体として，土地区画整理事業を進めている。

平成６年11月18日，住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会あてに，中根・金田台地区特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は平成７年５月15日から６月８日にかけて現地踏査を，平成７年10月９日から13日にかけて試掘調査を行い，金田台地区において中原遺跡の存在を確認し，平成７年12月28日，住宅・都市整備公団つくば開発局あてに，その旨回答した。平成９年３月11日，住宅・都市整備公団つくば開発局は，茨城県教育委員会と中原遺跡（17,861㎡）の取り扱いについて協議した。その結果，平成９年３月17日，茨城県教育委員会は住宅・都市整備公団つくば開発局あてに，中原遺跡を記録保存とする旨回答し，埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。そこで，住宅・都市整備公団つくば開発局から財団法人茨城県教育財団に中原遺跡の発掘調査の依頼があり，茨城県教育財団は発掘調査の委託契約を結んだ。平成９年度は調査Ⅰ・ⅡA区（7,472㎡）の調査を行った。平成９年12月８日に，平成10年度の中原遺跡の取り扱いについて都市基盤整備公団茨城地域支社は，茨城県教育委員会と協議した。平成９年12月26日，都市基盤整備公団茨城地域支社から茨城県教育委員会に調査計画の変更に伴う変更契約について了解する旨の回答があり，平成10年１月６日に，茨城県教育委員会から茨城県教育財団あてに，調査計画を変更し，10,389㎡の調査を平成10年度へ繰り越す旨回答があった。そこで茨城県教育財団は，平成10年４月１日から，調査ⅡB・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区の調査を実施した。

第2節　調査経過

平成10年度は，平成10年４月１日から平成11年３月31日までの１年間にわたって調査ⅡB・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区の調査を実施した。以下，平成10年度の中原遺跡の調査経過について，その概要を記述する。

４月　調査器材を搬入し，13日から遺構調査に入った。調査ⅡB区の南部から調査を開始し，21日にはテストピットの掘り込みを行った。

５月　竪穴住居跡13軒，土坑８基の調査を終了した。

６月　竪穴住居跡18軒，土坑10基の調査を終了した。

７月　21日に調査区の調査が終了した。22日から調査Ⅳ区の調査を開始した。竪穴住居跡13軒，掘立柱建物跡３棟，土坑47基の調査を終了した。

８月　17日から調査Ⅳ区の調査と並行して調査Ⅴ区の調査を行った。竪穴住居跡11軒，掘立柱建物跡４棟，土坑43基，柱穴列１列，溝４条の調査を終了した。

９月　竪穴住居跡12軒，掘立柱建物跡３棟，土坑29基，溝３条の調査を終了した。

10月　竪穴住居跡14軒，掘立柱建物跡５棟，土坑31基，柱穴群１群，柱穴列２列の調査を終了した。

11月　貼床を施した竪穴住居跡の掘り方の調査や，棚を持った竪穴住居跡の調査も引き続き行い，竪穴住居跡12軒，掘立柱建物跡６棟，土坑38基，柱穴群１群，柱穴列２列，溝１条の調査を終了した。

12月　竪穴住居跡11軒，掘立柱建物跡６棟，土坑７基，溝２条の調査を終了した。

１月　調査が進むにつれ，掘立柱建物跡が複雑に重複していることが判明し，調査を急いだ。26日から遺構調査と並行して，調査ⅡＢ・Ⅴ区の旧石器時代の遺物が数多く出土した地点を中心に，グリッド法による調査を行った。竪穴住居跡14軒，掘立柱建物跡３棟，土坑22基の調査を終了した。

２月　15日に，調査の成果の報道公開を実施した。21日に現地説明会を開催し，遺構と遺物を一般に公開した。29日に出土遺物を整理センター国田分館に搬出した。竪穴住居跡８軒，掘立柱建物跡４棟，土坑19基，柱穴群２群，溝１条の調査を終了した。

３月　４日に航空写真撮影を実施した。19日までに調査Ⅲ区の竪穴住居跡７軒，掘立柱建物跡４棟，土坑13基，旧石器集中地点３地点の調査を終了した。最終的な調査遺構数は，竪穴住居跡133軒，掘立柱建物跡38棟，土坑267基，柱穴群５群，柱穴列４列，溝10条となった。その後は，補足調査と並行して，現場の安全対策，調査器材の搬出，事務所並びに休憩所の整理を進め，平成10年度の現地調査を終了した。

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

中原遺跡は，茨城県つくば市大字東岡字中原187番地ほかに所在する。

つくば市は，茨城県の南西部に位置し，北は真壁郡明野町，同郡真壁町，新治郡八郷町に，東は土浦市，新治郡新治村に，南は牛久市，稲敷郡茎崎町，筑波郡伊奈町，同郡谷和原村に，西は水海道市，下妻市，結城郡石下町，同郡千代川村に接している。

つくば市は，昭和62年11月に，筑波郡谷田部町，同郡豊里町，同郡大穂町，新治郡桜村が合併して誕生し，昭和63年１月に筑波郡筑波町を編入した。当遺跡は旧桜村に属していた。

つくば市の東方約５kmには霞ヶ浦が，北端には筑波山が位置しており，つくば市は，筑波山の南西端を南下する桜川と，市の西側を南下する小貝川によって挟まれた台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり，地質的には，新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積する。下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層（0.3～5.0m），その上に関東ローム層（0.5～2.5m）が堆積し，最上部は腐植土層となっている。関東ローム層は，新期ロームに属し，武蔵野ローム，立川ロームに比定され，軽石層の分布をみると，富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。なお，標高は25～26mで，ほぼ平坦である。この台地の両端を流れる桜川と小貝川によって大きく開析された流域は，標高約５mほどの沖積低地になっており，台地との標高差は約20mになっている。また，この二つの河川の間の台地上を花室川，蓮沼川，東谷田川，西谷田川などの中小規模の河川が南流しており，台地を浅く開析している。そのため谷津や低地が南北に細長く入り込んでおり（第１図），北から南に延びる舌状台地が発達している。

当遺跡は，つくば市の東部，つくば市立桜中学校から西に約700mの地点に所在し，花室川の低地を西に望む左岸の舌状台地上，標高23.4～25.3mに立地している。この舌状台地は，北から南に向かって約950m延びており，幅約305mで，遺跡の東側には谷津が細長く入り込んでいる。

当遺跡と周辺の土地利用の現状は，台地上は主として畑地及び平地林となっており，花室川流域の沖積低地は水田として利用されている。

第２節　歴史的環境

中原遺跡は，旧石器時代から中・近世にかけての複合遺跡である。この遺跡にみられる各時代の様相を，中原遺跡周辺（つくば市北東部から南部，土浦市北西部，新治村）の主な遺跡と比較しながら概観してみる。

旧石器時代の遺構は発見例がないものの，生活の道具である石器は数多く出土している。桜川左岸の新治村高開根遺跡〈14〉，同村大畑本田遺跡〈33〉から尖頭器と剥片が出土しており，どちらも１万３千年前から１万２千年前のものと考えられる。他につくば市北条の中台遺跡，同市前野の前野遺跡，花室川左岸のつくば市柴崎遺跡〈18〉，土浦市今泉の原出口・西原遺跡，蓮沼川左岸のつくば市神田遺跡〈25〉から石器の出土がみられる。特に原出口遺跡は尖頭器を中心とした石器製作遺跡と考えられている。遺物の出土例は，近年の発掘調査によって年々増加しており，表面採集や表土中からのものが多いが，貴重な資料がみられる。

縄文時代になると、海面の上昇により、海岸線が後退し、内陸深く入り込むこととなった。そのために桜川流域には新治村藤沢東町遺跡(前期～中期)〈37〉、つくば市天神遺跡(中期)〈17〉、つくば市中台遺跡、新治村田宮梶の宮遺跡(中期～後期)〈12〉など、多くの縄文時代の遺跡が存在し、現在40遺跡が判明している。また、桜川と花室川流域の台地には、貝塚が多く所在しており、国指定史跡の土浦市上高津貝塚〈57〉もその一つである。これらの遺跡の中には湮滅した遺跡もあるが、まだ学術調査が行われていない遺跡も多く、今後の調査が待たれる。

弥生時代の遺跡は桜川流域では10遺跡以上が確認されている。中台遺跡において竪穴住居跡10軒が、原出口遺跡をはじめとする原田北遺跡群において竪穴住居跡183軒が確認されている。これらの多くが洪積台地上に立地しており、縄文時代の遺跡と複合している。

古墳時代の遺跡は、花室川と桜川流域では約80遺跡が確認されている。特に、1983年に調査された新治村武者塚古墳〈42〉では、石室内から大刀、青銅製の杓、銀製の帯状透彫金具、美豆良を結った頭髪、髭が出土した。また、桜川左岸では、中台遺跡で100軒の竪穴住居跡、65基の古墳、2基の方形周溝墓が確認され、つくば市小田橋遺跡では、6～7世紀の竪穴住居跡9軒が確認された。桜川右岸では、宝取古墳群〈46〉をはじめ、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した滝の台古墳群〈48〉、円墳2基から埴輪片石棺破片が出土している横町古墳群〈50〉前方後円墳2基と円墳1基からなる松塚古墳群〈55〉などがある。当時、この地方にも力を持った豪族が出現したことを示すと同時に、多くの集落が形成され、人々が生活していたことを表している。

奈良・平安時代になると、律令制度の確立に伴い、桜地区は河内郡菅田郷に所属するようになり、のち12世紀にかけて、田中庄と呼ばれることになる。この時代の遺跡としては、花室川と桜川流域において32遺跡が確認されている。注目したいのは、当遺跡に隣接しているつくば市九重廃寺跡(東岡遺跡)〈20〉と同市西坪遺跡である。九重廃寺跡は以前から、礎石、瓦塔、蔵骨器などが出土しており、旧河内郡の郡寺と考えられていた。1984年には当時の桜村教育委員会から委託された筑波大学によって部分的な発掘調査がなされ、東岡遺跡として報告されている。検出された遺構は基壇の一部とその周溝及び井戸跡であり、出土した遺物は土師器片・須恵器片・軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などで、瓦は筑波廃寺系と結城廃寺系のものと考えられている。西坪遺跡は、1959年に中学校校庭の拡張工事に伴い表土を除去したところ、倉庫跡と考えられる3間×4間の総柱の掘立柱建物跡3棟と炭化米が多量に出土した。九重廃寺が隣接し、立地している台地の下に条里遺跡も存在することから、旧河内郡の郡衙跡と推定されている。このような環境の中、この地域は当時の地方政治・文化の中心として栄えていたことが推測される。両遺跡とも詳しい発掘調査は行われておらず、今後の調査研究が待たれるところである。桜川左岸には、つくば市平沢の筑波郡衙及び郡寺とされる平沢官衙遺跡や筑波廃寺(中台廃寺)跡が所在している。律令政治が実施され、地方に国・郡・里制が成立した当時の様子を知るための大きな手がかりになっている。他にも、160軒以上の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された柴崎遺跡や、8世紀代の九重廃寺系の軒平瓦と筑波廃寺系の軒丸瓦が出土したつくば市下大島遺跡〈11〉などが確認されている。また、当遺跡から出土しているたくさんの須恵器の中には、新治村の小高、東城寺、小野の3地区に広がっている須恵器窯から供給されたと考えられるものが多い。同村の、小野須恵器窯跡〈3〉、東城寺須恵器遺跡〈4〉、東城寺染木須恵器窯跡〈5〉、東城寺寄居前須恵器窯跡〈6〉、小高須恵器窯跡〈8〉、小高村内須恵器窯跡〈9〉、田宮須恵器窯跡〈10〉など、常陸国における一大窯業地として栄えていたこれらの窯群と、官衙や寺院、その周辺集落との供給関係の解明は、今後の調査の進展にかかっている。

中世以降の遺跡としては、特に城館跡が多く、小田氏の居城であったつくば市小田城跡〈29〉をはじめ、桜川左岸では、新治村田土部城跡〈32〉、同村藤沢城跡〈38〉などが、桜川右岸には、つくば市内に位置する方

穂故城跡〈45〉，金田城跡〈51〉，花室城跡〈53〉，上ノ室城跡〈54〉などがある。また，筑波山の南，三村山麓一帯には中世寺院群があり，つくば市三村山清冷院極楽寺跡〈27〉は，13世紀半ば，大和の高僧忍性が来往し，布教に努めたことが伝えられている。戦国の世から江戸時代において，当地域は，佐竹氏の支配下を経て，多くが土浦藩に属することになる。特に，金田台地区は明治４年（1871年）の廃藩置県に至るまでその支配下に属した。

※　文中の〈　〉内の番号は，第２図及び周辺遺跡一覧表中の該当遺跡番号と同じである。

参考文献

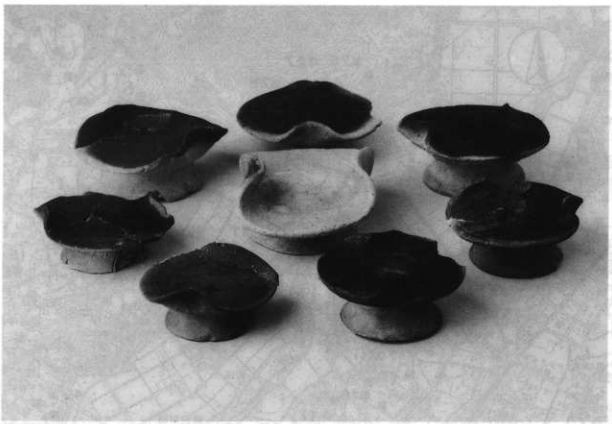
・大山年次，蜂須紀夫『茨城県　地学のガイド』　コロナ社　1977年８月
・蜂須紀夫，大森昌衛『茨城の地質をめぐって』　築地書館　1979年９月
・茨城県教育庁文化課　『茨城県遺跡地図（２版）』　茨城県教育委員会　1990年３月
・桜村史編さん委員会　『桜村史　上巻』　桜村教育委員会　1982年３月
・九重廃寺遺跡調査団　『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』桜村教育委員会　1984年３月
・大穂町史編纂委員会　『大穂町史』　つくば市大穂地区教育事務所　1989年３月
・筑波町史編纂専門委員会　『筑波町史　上巻』　つくば市　1988年９月
・中山信名　『新編常陸国誌（宮崎報恩会版）』　雄書房　1969年11月
・茨城県史編集委員会　『茨城県史　原始古代編』　茨城県　1985年３月
・茨城県史編さん第一部会　原始古代専門委員会　『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』　茨城県　1979年３月
・茨城県史編集会　茨城県立歴史館　『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』　茨城県　1995年３月
・佐久間好雄　他　『図説　茨城県の歴史』　河出書房新社　1995年11月
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ－１区」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第54集　1989年９月
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）柴崎遺跡Ⅱ区中塚遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第63集　1991年３月
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）柴崎遺跡Ⅲ区」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集　1992年３月
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集　1994年９月
・茨城県教育財団　「上浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　原出口遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第94集　1995年３月
・茨城県教育財団　「（仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書　中台遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第102集　1997年12月
・茨城県教育財団　「（仮称）葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　神田遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集　1997年３月
・茨城県教育財団　「（仮称）葛城地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　神田遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集　1998年３月

表1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡番号	時代 旧	縄	弥	古	奈平	中近
◎	中原遺跡	222	○	○			○	○
1	小田田向遺跡	2999		○			○	
2	小田横遺跡	5862				○	○	
3	小野須恵器窯跡	2057					○	
4	東城寺須恵器遺跡	5775					○	
5	東城寺亀木須恵器窯跡	5776					○	
6	東城寺常楽前須恵器窯	5777					○	
7	小高天神遺跡	2064		○	○	○	○	
8	小高須恵器窯跡	2065					○	
9	小高村内須恵器窯跡	5778					○	
10	田宮須恵器窯跡	5803					○	
11	下大島遺跡	5858					○	
12	田宮梶の宮遺跡	2067		○	○	○	○	
13	田宮古墳群遺跡	2068				○	○	
14	高岡根遺跡	2070	○	○	○	○	○	
15	大畑新田遺跡	5807		○	○	○	○	
16	大山遺跡	2877		○		○	○	
17	天神遺跡	2878		○		○	○	
18	柴崎遺跡	2897	○	○		○	○	○
19	中谷津遺跡	221	○	○		○	○	○
20	九重廃寺跡(塔関連跡)	2890					○	
21	西坪遺跡	2085		○	○	○	○	
22	本田遺跡	2097					○	
23	上ノ室条里遺跡	2896					○	
24	般若寺跡	5285					○	○
25	神田遺跡	5841	○	○	○	○	○	○
26	尼寺人廃寺跡	2990						○
27	三村山諸谷院経塚寺跡	2991						○
28	常願寺廃寺跡	2989						○

番号	遺跡名	遺跡番号	時代 旧	縄	弥	古	奈平	中近
29	小田城跡	2151						○
30	小田古墳群	2981				○		
31	高崎山古墳群	2066				○		
32	田土部館跡	5779						○
33	大畑本田遺跡	2073	○	○	○	○		
34	大畑本田貝塚	2072		○				
35	藤沢山後遺跡	5798		○	○	○		
36	藤沢北斗遺跡	5796		○	○			
37	藤沢東町遺跡	2075		○				
38	藤沢城跡	4010						○
39	藤沢南原遺跡	2077		○	○			
40	北坂田北部貝塚	2078		○	○	○		
41	上坂田寺裏貝塚	2079		○	○			
42	武者塚古墳	5795				○		
43	上坂田古墳群	2080				○		
44	坂田古墳群	2082				○		
45	方穂故城	5866						○
46	玉取古墳群	2163				○		
47	台坪才十郎遺跡	2876		○				
48	滝の台古墳群	2090				○		
49	旭台貝塚	2084		○				
50	横町古墳群	2091				○		
51	金田城跡	2891						○
52	花室遺跡	2880		○				
53	花室城跡	2893						○
54	上ノ室城跡	2892						○
55	松塚古墳群	2094				○		
56	東古墳群	5837				○		
57	上高津貝塚	1787	○	○				

第２図　中原遺跡周辺遺跡位置図（国土地理院　1:50,000地形図「土浦」）



中原遺跡出土耳皿

第３章　調査の成果

第１節　遺跡の概要

中原遺跡は，つくば市の東部に位置し，花室川左岸の標高23.4～25.3mの舌状台地上に立地している。現況は畑地，平地林である。

調査区は，発掘年度の順に従い，便宜上Ⅰ～Ⅴ区に分けている。平成９年度は，調査Ⅰ・ⅡＡ区の調査を行い，調査面積は7,472㎡であった。平成10年度は，西部のⅡＢ区，中央部の調査Ⅲ・Ⅳ区，東部の調査Ⅴ区の調査を行い，調査面積は10,389㎡であった（第１図）。

当遺跡は，奈良時代から平安時代前期を中心とする，旧石器時代から中・近世までの複合遺跡である。平成10年度の調査では，竪穴住居跡133軒，掘立柱建物跡38棟，柱穴群５群，柱穴列４列，土坑267基，溝10条，旧石器集中地点３か所を検出した。時代別にみてみると，旧石器時代では石器集中地点３か所から200点以上の石器・剥片等が出土した。奈良・平安時代の遺構は，竪穴住居跡133軒，掘立柱建物跡37棟，柱穴群２群，柱穴列４列，土坑19基である。中・近世及び時期不明の遺構は，掘立柱建物跡１棟，柱穴群３群，溝10条，土坑248基である。

奈良・平安時代の遺構は，８世紀前葉から10世紀前葉までの竪穴住居跡が中心である。北側に竈を持った住居跡がほとんどで，竈の両側や片側に棚を持つものも確認された。掘立柱建物跡は総柱の建物跡が１棟，側柱の建物跡が35棟である。これらは調査Ⅲ区に集中し，規則的に配置されている。

遺物は，遺物コンテナ(60×40×20cm)に194箱出土している。遺物の大部分は奈良時代から平安時代にかけての土師器と須恵器である。その他の遺物としては，旧石器時代のナイフ形石器・掻器・彫刻刀形石器・剥片，縄文時代の縄文土器・石鏃，奈良・平安時代の灰釉陶器・緑釉陶器・砥石・紡錘車・瓦・支脚・鉄鏃・鉄斧・刀子・手鎌・釘・銅鏡，中世から近世にかけての陶磁器等が出土している。

第２節　基本層序の検討

調査ⅡＢ区のＦ３c8グリッドにテストピットを設定して，基本土層の観察を行った。ローム層の層序区分については，武蔵野台地での層序区分に従い，ローマ数字で示すことにする（第３図）。

Ⅰ層は，表土層で，遺構確認のため除去されている。

Ⅱ層は，腐植土層で，表土とローム層の間層と考えられるが，遺構確認のため除去されている。

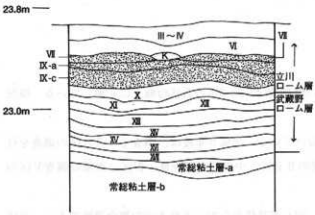
Ⅲ～Ⅳ層は，褐色のソフトローム層で，締まっている。層厚は９～14cmである。Ⅲ層とⅣ層は分層できなかった。

Ⅴ層にあたる第一黒色帯（ＢＢⅠ）は確認できなかった。

Ⅵ層は，褐色のハードローム層である。若干のガラス質粒子を含むことから，姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）を含む層と考えられる。層厚は11～14cmである。

Ⅶ層は，褐色のハードローム層である。第二黒色帯（ＢＢⅡ）の最上層と考えられ，層厚は３～７cmである。

Ⅸ－ａ層は，黒褐色のハードローム層である。白色粒子・スコリア粒子を極少量含んでいる。第二黒色帯と考えられ，層厚は２～６cmである。



第３図　基本土層図

Ⅸ－ｃ層は，黒褐色のハードローム層である。灰白色粘土粒子・白色粒子・スコリア粒子を少量含んでいる。第二黒色帯の最下層と考えられる。層厚は７～15cmである。

Ⅹ層は，暗褐色のローム層である。白色スコリア粒子を少量，灰白色粘土粒子・鉄分を極少量含み，硬く締まっている。層厚は４～13cmである。この層までが立川ローム層に比定されると考えられる。

Ⅺ層は，暗褐色のローム層である。白色粒子・灰白色粘土粒子・鉄分を極少量含み，粘性が強く，硬く締まっている。上位でスコリア粒子が極少量認められた。層厚は４～10cmである。この層以下が武蔵野ローム層に比定されると考えられる。

Ⅻ層は，暗褐色のローム層である。白色粒子を少量，灰白色粘土粒子・炭化粒子を極少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は３～10cmである。

XIII層は，暗褐色のローム層である。白色粒子・灰白色粘土粒子を少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は４～12cmである。

XIV層は，オリーブ褐色のローム層である。白色粒子を少量，灰白色粘土粒子・鉄分の黒色粒子を極少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は５～10cmである。

XV層は，オリーブ褐色のローム層である。白色粒子・鉄分の黒色粒子を少量，灰白色粘土粒子を極少量含み，粘性が強く，締まっている。層厚は３～７cmである。

XVI層は，オリーブ褐色のローム層である。鉄分の黒色粒子を少量，灰白色粘土粒子を極少量含み，粘性が非常に強く，締まっている。層厚は４～９cmである。

XVII層は，オリーブ褐色のローム層である。鉄分の黒色粒子を中量，灰白色粘土粒子を少量含み，粘性が非常に強く，締まっている。層厚は４～11cmである。

XVIII層以下は，常総粘土層で，ａ層とｂ層に分層することができる。ａ層は，明緑灰色の粘土層で，鉄分の黒色粒子を多量含み，粘性が非常に強く，締まっている。層厚は６～16cmである。

ｂ層は，明緑灰色の粘土層で，粘性が非常に強い。

なお，調査ⅡＢ～Ⅴ区の遺構の多くは，Ⅲ～Ⅳ層の上面で確認され，Ⅲ層からⅩ層にかけて掘り込まれている。

第3節　遺構と遺物

1　旧石器時代の遺構と遺物

（1）調査の概要と方法

平成10年度発掘調査において，当初，奈良・平安時代の遺構の調査を行ったが，その遺構の覆土中や確認面から，ナイフ形石器・彫刻刀形石器・削器・掻器・石核・剥片など，132点が出土した。そこで，竪穴住居跡等の遺構調査終了後に，旧石器時代の文化層が確認できると思われる地点に調査区を設定し，ローム層の掘り下げを行った（第1図）。

調査区は，大きく2か所に分けられる。第1調査区は，調査ⅡB区の北西部（D3i6～D3i9，E3a6～E4a1，E3b6，E3c6，E3d5・E3d6，E3e5・E3e6，E3f5・E3f6，E3g5・E3g6）である。第2調査区は，調査Ⅴ区の北部（E9i3・E9i4，F9a3・F9a4，F9b3・F9b4）である。地形的にみると，第1調査区は，標高24mの台地縁辺部から西側の低地に向かう緩斜面に，第2調査区は，標高24mの台地縁辺部に位置している。面積は，第1調査区が約352㎡，第2調査区が約96㎡で，総面積約448㎡となった。

調査の過程で出土した石器は，原位置を保持し，柱状に残したまま，旧石器時代の遺構などにも注意して掘り下げ，位置と標高の計測及び出土状況の写真撮影を行った。土層の観察は，各調査区の南側に土層ベルトを設定して行い，基本層序を確定することとした（第3章第2節を参照）。その結果，第1調査区では2か所の石器集中地点が確認され，彫刻刀形石器・抉入石器・石刃・剥片など26点が出土した。また，第2調査区では，石器集中地点1か所が確認され，石核・錐・剥片など53点が出土した。

以下，各調査区の出土遺物について解説する。

（2）出土遺物

ア　第1調査区の出土遺物（第4・5・8図，表2）

第1調査区から出土した遺物は合計28点である。器種別では，彫刻刀形石器2点，抉入石器1点，石刃2点，剥片・砕片23点，また石材別では，28点中，硬質頁岩17点，黒曜石9点，チャート1点，凝灰岩1点である。硬質頁岩が全体の60%，黒曜石が全体の32%を占めている。石材の多くが遠隔地から搬入されたものと考えられ，当時の交流・流通が広域にわたることを物語っている。硬質頁岩を石材とするものは，第1号石器集中地点から，荒屋型彫刻刀形石器2点，剥片及び砕片15点が出土している。黒曜石を石材とするものは，第2号石器集中地点から，抉入石器1点，石刃2点，剥片及び砕片6点が出土している。また，確認された2か所の石器集中地点から出土した遺物の出土層位は，ローム層第Ⅲ～Ⅳ層（ローム層第Ⅲと第Ⅳ層は分層できなかった。）の上部から下部に相当すると考えられる。ここでは，第1・2号石器集中地点の石器を中心に掲載する。

第5号石器集中地点（第4・5・8図，表3）

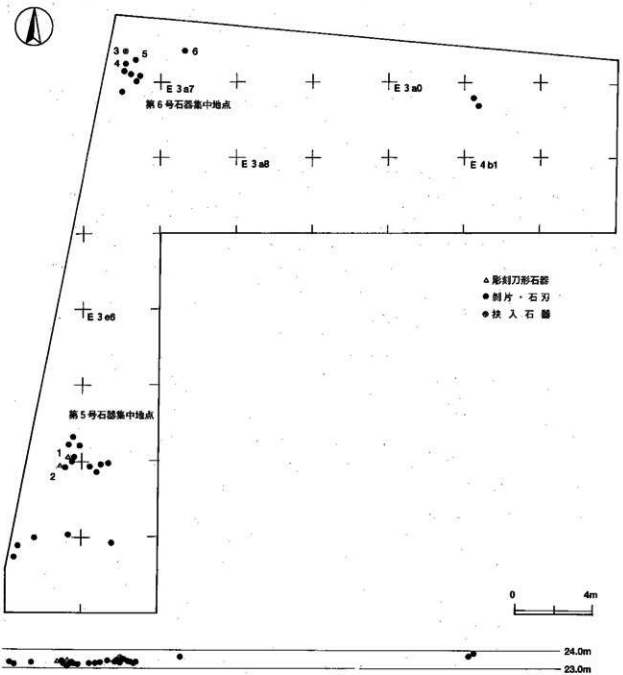
位置　E3e5，E3f6，E3g5区を中心に位置している。

出土状況　南北約6.2m，東西約5.0mの範囲内に存在するが，遺物は北部に集中している。標高23.220～23.466mにかけて出土している。ローム層第Ⅲ～Ⅳ層の中部から下部に相当すると考えられる。

遺物　彫刻刀形石器2点，剥片4点，砕片11点の合計17点が出土している。石材は，硬質頁岩15点，チャート1点，凝灰岩1点である。第8図1・2はいずれも荒屋型の彫刻刀形石器で，縦長剥片を素材としている。1は，右側縁上部から左側縁上部に向かって短い彫刀面をつくっている。2は，主要剥離面側から細部調整が施

されている。彫刀面は，器体の両端に細部調整を打面として形成されている。彫刀面は２回更新されている。

所見　当集中地点は，硬質頁岩の剥片が主体である。接合する遺物はなく，石核などは確認されなかった。竪穴住居型の彫刻刀形石器が出土しており，細石刃石器群にともなうものと思われる。また，遺物の平面分布及び母岩別の垂直分布から判断して，同一時期の可能性が高いと思われる。性格の詳細は不明であるが，彫刻刀形石器２点と剥片・砕片15点が出土していることから，石器製作跡の可能性が考えられる。



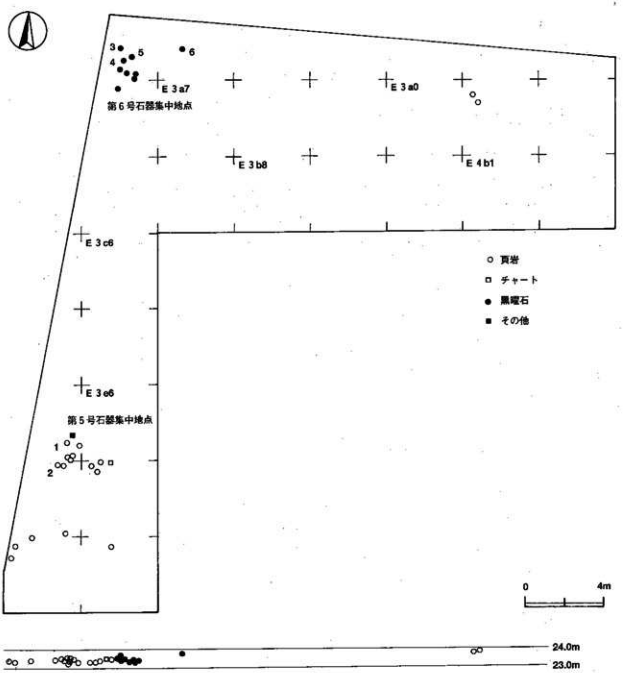
第４図　第１調査区出土石器分布図（器種）

第６号石器集中地点（第4･5･8図，表４）

位置　Ｄ３i6区を中心に位置している。

出土状況　南北約2.0m，東西約1.9mの範囲内に存在するが，遺物は全体的に散在している。標高23.347～23.577mにかけて出土しており，ローム層第Ⅲ～Ⅳ層の上部から中部に相当すると考えられる。

遺物　抉入石器１点，石刃２点，剥片１点，砕片５点の合計９点が出土している。石材は，すべて黒曜石である。第８図３の抉入石器は，縦長剥片を素材とし，上・下端を折断している。左側縁に主要剥離面側からノッチ状の調整が施されている。４・５はともに石刃である。４は，背面に前段階の剥離痕を有し，下端が主要剥



第５図　第１調査区出土石器分布図（石材）

離面側から折断されている。上端には打面が残り，打面と主要剥離面の角度はほぼ直角である。両側縁には微細な剥離痕がみられる。5は下端が背面側から折断されている。両側縁に，微細な剥離面がみられる。6は縦長剥片で，上・下端が主要剥離面側から折断されている。断面形は三角形を呈している。

所見　当集中地点は，砕片がほとんどであり，石材はすべて黒曜石である。接合する遺物は確認されなかった。遺物の出土数が少なく，性格は不明である。

表2　第1調査区出土遺物

器種＼石材	石器	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	掻器	削器	石槍器形	抉入石器	錐	尖頭器	両面調整石器	石核	削片	石刃	剥片	合計
硬質頁岩			2											15	17
瑪瑙															
チャート														1	1
黒曜石							1						2	6	9
ガラス質黒色安山岩															
粘板岩															
凝灰岩														1	1
流紋岩															
合計			2				1						2	23	28

表3　第1調査区出土遺物（第5号石器出土地点）

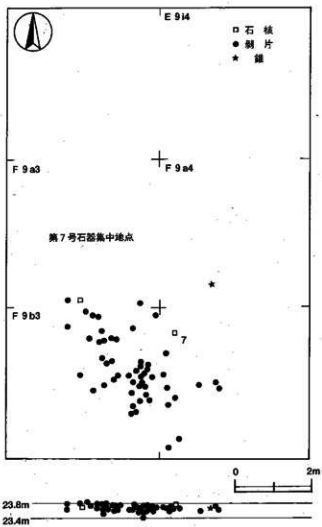
器種＼石材	石器	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	掻器	削器	石槍器形	抉入石器	錐	尖頭器	両面調整石器	石核	削片	石刃	剥片	合計
硬質頁岩			2											13	15
瑪瑙															
チャート														1	1
黒曜石															
ガラス質黒色安山岩															
粘板岩															
凝灰岩														1	1
流紋岩															
合計			2											15	17

表4　第1調査区出土遺物（第6号石器出土地点）

器種＼石材	石器	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	掻器	削器	石槍器形	抉入石器	錐	尖頭器	両面調整石器	石核	削片	石刃	剥片	合計
硬質頁岩															
瑪瑙															
チャート															
黒曜石							1						2	6	9
ガラス質黒色安山岩															
粘板岩															
凝灰岩															
流紋岩															
合計							1						2	6	9

イ　第２調査区の出土遺物（第６～８図，表５）

第２調査区から出土した石器は54点で，器種別では，石核２点，剥片16点，砕片35点，錐１点である。また，石材別では，黒曜石が28点，ガラス質黒色安山岩９点，硬質頁岩６点，瑪瑙５点，チャート３点，凝灰岩・流紋岩・粘板岩がそれぞれ１点となっている。黒曜石が全体の約51％を占めている。石材の多くが，遠隔地から搬入されたものと考えられ，第１調査区同様，当時の交流・流通が広域にわたることを物語っている。遺物は，南北約4.0m，東西約4.8mの範囲内に標高23.406～23.721mにかけて集中して出土している。第Ⅲ～Ⅳ層の中部から上部に相当すると考えられる。ここでは，第７号石器集中地点の石器を中心に掲載する。



第６図　第２調査区出土石器分布図（器種）

第７号石器集中地点（第６～８図，表６）

位置　Ｅ９b4区を中心に位置している。

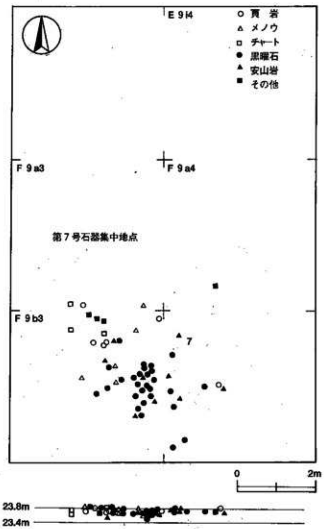
出土状況　南北約4.0m，東西約4.8mの範囲内に存在するが，遺物は北西部に集中している。標高23.406～23.721mにかけて出土している。ローム層第Ⅲ～Ⅳ層の上部から中部に相当すると思われる。

遺物　石核２点，剥片16点，砕片35点が出土している。その他の器種は出土していない。石材は53点中，黒曜石28点，ガラス質黒色安山岩９点，硬質頁岩６点，瑪瑙５点，チャート３点，凝灰岩・流紋岩がそれぞれ１点となっている。黒曜石が全体の約52％を占めている。第８図７の石核は，横長剥片を素材にしている。剥片剥離は，一部に残る自然面を打面とし，縦長剥片を剥離した後，その剥離面を打面として縦長剥片を剥離している。

所見　当集中地点は，黒曜石の砕片が主体である。他に，硬質頁岩の石核が１点，安山岩の石核が１点出土しているが，接合する遺物は確認されなかった。遺物の平面分布及び母岩別の垂直分布から判断して，同一時期の可能性が高いと思われる。性格の詳細は不明であるが，石核２点と剥片・砕片51点が出土していることから，石器製作跡の可能性が考えられる。

ウ　その他の出土遺物（第８～11図，表７）

旧石器の調査区以外から出土した遺物については，表面採集したものも含めて一括し，図示する。第８～11図９，23，30，33，37が調査Ⅴ区から出土したものである。その他は調査ⅡＢ区から出土したものである。８



第７図　第２調査区出土石器分布図（石材）

と９は，ナイフ形石器である。いずれも縦長剥片を素材とし，細やかなプランティング加工が施されている。８は基部を欠いている。９の基部は主要剥離面側からのプランティングにより尖頭状に加工されている。断面形は三角形を呈している。10～14は，荒屋型の彫刻刀形石器である。いずれも縦長剥片を素材としている。12は，右側縁上部から左側縁上部に向かって短い彫刀面をつくっている。10・11・13・14は，右側縁上部から左側縁下部に向かって長い彫刀面をつくりだしている。11は，器体半分が欠損している。12は，左側縁の下半部が，背面側からノッチ状に調整が施されている。15～18は掻器である。15～17は，縦長剥片を，18は横長剥片を素材としている。15は，両面にわたって貝殻状の周辺加工が施されている。16～18は，いずれも主要剥離面側から連続する細部調整で整形されている。19～23は削器で，いずれも縦長剥片を素材としている。19は左側縁及び上端部に主要剥離面側から急角度の調整が施されている。20は右側縁に主要剥離面側から急角度の調整が施されている。21は，鋭い側縁に潰れを伴う二次加工がみられる。22は，右側縁に急角度の調整を施している。23は，両側縁及び上端部を急角度の剥離によって尖頭器状に整形している。24は楔形石器で，両端から対向する剥離痕が認められる。25は尖頭器で，縦長剥片を素材として，二側縁に連続する急角度の調整が施されている。26は両面調整石器である。比較的厚みのある剥片を素材とし，両面にわたって調整加工が施されている。左側縁は，急角度の剥離によって調整されている。27～32は石核である。27～29，31・32は，分厚い剥片を素材としている。27は，平らな素材の主要剥離面を打面とし，不定形な剥片を連続的に剥離している。一部に作業面を打面として交互剥離がなされている。28は，不定形な縦長剥片を剥離している。29は，両端及び主要剥離面に打面をもうけ，三方向から貝殻条の剥片を剥離している。30の断面形は不整な長方形を呈し，比較的大きな剥片剥離によって打面を二か所形成している。31は，背面には自然面が残る。素材上端部の両面には剥離痕が認められる。32の背面には自然面が残る。背面側を打面として，横長剥片を剥離している。33は稜付削片で，細石刃石核と推測される両面調整石器から剥離されたものと思われる。両面にわたって連続する調整の施された稜上に打面を設けている。34と35は石刃で，いずれも縦長剥片を素材としている。34は下端が背面側から折断されている。両側縁に刃こぼれ状の微細な剥離痕がみられる。35は，背面に，前段階の剥離面を打面とする調整加工が認められる。36は二次加工を有する剥片で，ナイフ形石器の基部の可能性がある。主要剥離面側から調整が施されてい

る。37は縦長剥片で，下端を欠いている。両側縁に微細な剥離痕がみられる。

表5　第2調査区出土遺物

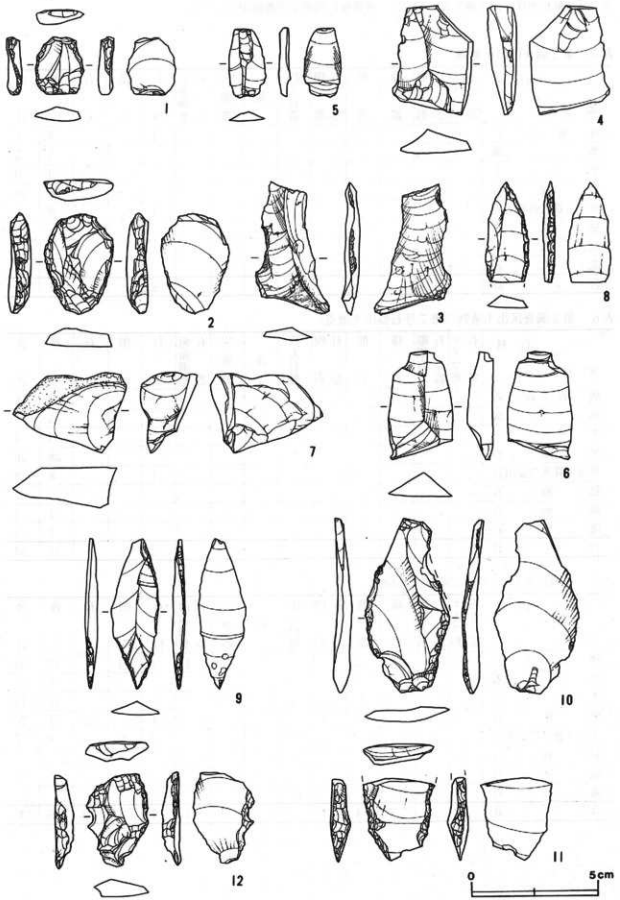
器種＼石材	石ナイフ形器	石彫刻刀形器	掻器	削器	石楔形器	抉入石器	錐	尖頭器	石両面調整器	石核	削片	石刃	剥片	合計
硬質頁岩										1			5	6
瑪瑙													5	5
チャート													3	3
黒曜石													28	28
ガラス質黒色安山岩										1			8	9
粘板岩							1							1
凝灰岩													1	1
流紋岩													1	1
合計							1			2			51	54

表6　第2調査区出土遺物（第7号石器出土地点）

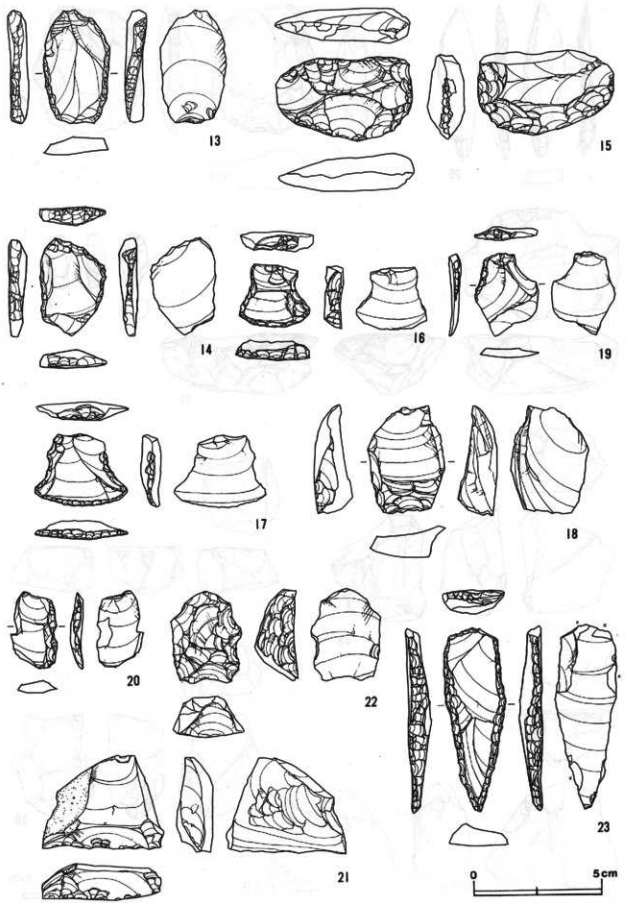
器種＼石材	石ナイフ形器	石彫刻刀形器	掻器	削器	石楔形器	抉入石器	錐	尖頭器	石両面調整器	石核	削片	石刃	剥片	合計
硬質頁岩										1			5	6
瑪瑙													5	5
チャート													3	3
黒曜石													28	28
ガラス質黒色安山岩										1			8	9
粘板岩														
凝灰岩													1	1
流紋岩													1	1
合計										2			51	53

表7　遺構に伴わない旧石器時代の遺物

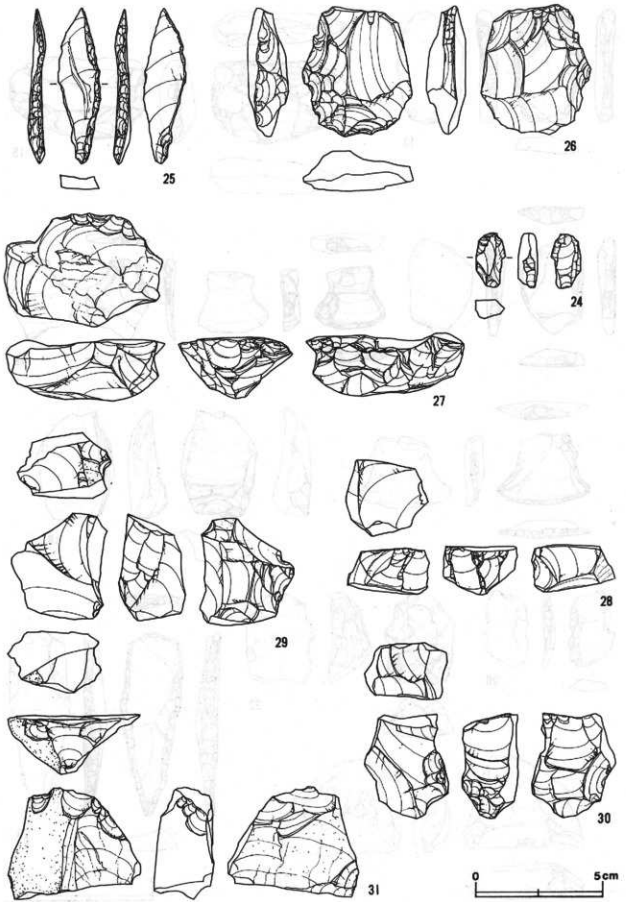
器種＼石材	石ナイフ形器	石彫刻刀形器	掻器	削器	石楔形器	抉入石器	錐	尖頭器	石両面調整器	石核	削片	石刃	剥片	合計
硬質頁岩	1	5	3	2					1	4	1		17	34
瑪瑙													7	7
チャート								1					12	13
黒曜石				2	1					1		2	64	70
ガラス質黒色安山岩	1									2			4	7
粘板岩														
凝灰岩													1	1
流紋岩														
合計	2	5	3	4	1			1	1	7	1	2	105	132



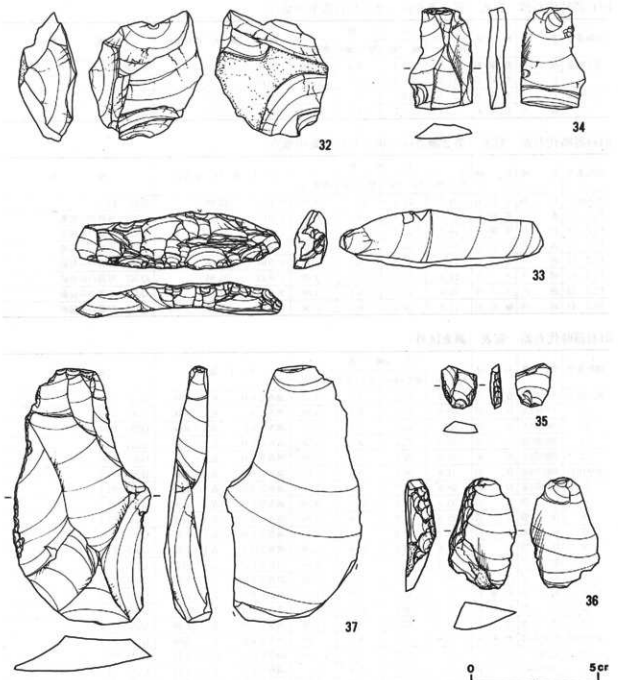
第8図　旧石器時代の遺物実測図（1）



第９図　旧石器時代の遺物実測図（２）



第10図　旧石器時代の遺物実測図（3）



第11図　旧石器時代の遺物実測図（4）

旧石器時代石器一覧表（第1調査区・第5号石器集中地点）

図版番号	器種	石材	計測値 長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土地区（標高m）	備考
第8図1	剥片形石器	頁岩	22.9	19.4	6.3	2.70	E 3 e5 (23.42)	Q214 PL1
2	剥片形石器	頁岩	39.5	27.5	8.8	9.60	E 3 f5 (23.38)	Q228 PL1

旧石器時代石器一覧表（第１調査区・第６号石器集中地点）

図版番号	器種	石材	計測値 長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土地区(標高m)		備考
第８図３	抉入石器	黒曜石	52.5	29.4	6.2	5.80	D３i６	(23.39)	Q226 PL１
4	石刃	黒曜石	43.3	31.3	11.6	13.00	D３i６	(23.49)	Q224 PL１
5	石刃	黒曜石	27.5	14.8	4.5	1.46	D３i６	(23.34)	Q225 PL１
6	剥片	黒曜石	43.3	25.7	11.2	8.80	D３i７	(23.57)	Q229 PL１

旧石器時代石器一覧表（第２調査区・第７号石器集中地点）

図版番号	器種	石材	計測値 長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土地区(標高m)		備考
第８図７	石核	安山岩	31.7	22.5	46.2	19.00	F９b４	(23.68)	Q410 PL１
PL２ 38	剥片	黒曜石	27.1	19.8	18.2	6.85	F９b３	(23.63)	Q354 写真のみ掲載
PL２ 39	剥片	黒曜石	18.3	22.3	6.5	1.36	F９b３	(23.57)	Q374 写真のみ掲載
PL２ 40	剥片	安山岩	33.1	20.4	13.5	6.10	F９b３	(23.56)	Q363 写真のみ掲載
PL２ 41	剥片	安山岩	21.2	16.9	6.4	1.42	F９b３	(23.66)	Q388 写真のみ掲載
PL２ 42	剥片	メノウ	24.8	17.5	1.0	3.08	F９a３	(23.68)	Q347 写真のみ掲載
PL２ 43	剥片	メノウ	23.8	27.0	6.4	3.00	F９a３	(23.87)	Q392 写真のみ掲載
PL２ 44	剥片	凝灰岩	11.2	34.4	8.3	1.66	F９a３	(23.55)	Q385 写真のみ掲載

旧石器時代石器一覧表（調査区外）

図版番号	器種	石材	計測値 長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土地区		備考
第８図８	ナイフ形石器	安山岩	40.2	17.2	4.9	3.32	調査ⅡB区	表土・表採	Q259 PL１
9	ナイフ形石器	頁岩	59.6	19.0	5.6	3.96	調査Ⅴ区	表土・表採	Q405 PL１
10	剥片形石器	頁岩	68.7	33.1	7.7	12.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q235 PL１
11	剥片形石器	頁岩	32.8	27.8	8.1	6.50	調査ⅡB区	表土・表採	Q264 PL１
12	剥片形石器	頁岩	36.6	24.6	7.4	5.80	調査ⅡB区	表土・表採	Q265 PL１
第９図13	剥片形石器	頁岩	44.8	26.8	8.4	11.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q266 PL１
14	剥片形石器	頁岩	38.8	25.7	6.7	7.65	調査ⅡB区	表土・表採	Q267 PL１
15	掻器	頁岩	33.1	53.6	15.0	24.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q252 PL１
16	掻器	頁岩	25.6	28.9	7.6	5.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q240 PL１
17	掻器	頁岩	28.9	35.9	7.8	7.10	調査ⅡB区	表土・表採	Q259 PL１
18	掻器	頁岩	42.6	30.6	14.8	1.50	調査Ⅴ区	表土・表採	Q425 PL１
19	削器	頁岩	32.4	25.0	5.2	2.68	調査ⅡB区	表土・表採	Q250 PL１
20	削器	頁岩	30.6	17.9	5.6	2.16	調査ⅡB区	表土・表採	Q297 PL１
21	削器	黒曜石	37.7	47.6	14.0	24.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q244 PL１
22	削器	黒曜石	37.0	28.2	15.6	14.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q272 PL１
23	削器	頁岩	73.0	23.9	9.8	14.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q261 PL１
第10図24	楔形石器	黒曜石	21.8	11.9	8.4	1.94	調査ⅡB区	表土・表採	Q293 PL１
25	尖頭器	チャート	61.7	17.2	6.7	5.00	調査Ⅴ区	表土・表採	Q411 PL１
26	両面調整石器	頁岩	51.5	43.7	15.8	31.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q295 PL１
27	石核	頁岩	24.6	44.8	61.7	61.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q278 PL１
28	石核	頁岩	19.4	29.6	32.8	19.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q242 PL１
29	石核	頁岩	42.3	26.8	38.1	34.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q253 PL２
30	石核	頁岩	41.6	22.2	33.1	31.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q277 PL２
31	石核	頁岩	44.4	51.8	23.6	43.00	調査Ⅴ区	表土・表採	Q399 PL２
第11図32	石核	安山岩	50.8	44.0	22.9	38.00	調査Ⅴ区	表土・表採	Q413 PL２
33	剥片	頁岩	32.9	80.4	13.7	20.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q241 PL２
34	石刃	黒曜石	40.2	25.7	8.1	6.80	調査ⅡB区	表土・表採	Q275 PL２
35	石刃	黒曜石	17.2	14.1	5.2	1.04	調査ⅡB区	表土・表採	Q290 PL２
36	石刃	黒曜石	43.7	27.1	12.3	8.80	調査ⅡB区	表土・表採	Q271 PL２
37	剥片	頁岩	101.2	53.9	18.6	76.00	調査ⅡB区	表土・表採	Q421 PL２

2　縄文時代の遺物

この時期に該当する遺構は確認されていない。出土した土器片は，調査ⅡB区内で151点，調査Ⅲ区内で57点，調査Ⅳ区内で384点，調査Ⅴ区内で246点である。出土した石器は，石鏃6点，石鏃の未製品1点である。いずれも，表土や後の時代の竪穴住居跡の覆土中から出土したものである。土器片のほとんどは，深鉢形土器の胴部または口縁部の小片で，接合・復元できるものはなかった。時期別にみると，縄文時代前期の土器が中心で，417点出土しており，その中でも多いものは，前期前葉の関山式土器が83点，前期後葉の浮島式土器が294点である。他には，早期と後期の土器が52点出土している。土器片の分布状況からみると，関山式土器は，調査ⅡB区で75点出土しており，浮島式土器は，調査Ⅳ区で199点，調査Ⅴ区で64点出土している。また，石器の分布状況は，石鏃が調査ⅡB区で2点，調査Ⅲ区で2点，調査Ⅴ区で2点出土している。石鏃の未製品と剥片は，調査Ⅴ区から出土している。出土した石器の石材は，石鏃はチャート4点，黒曜石1点，安山岩1点で，石鏃の未製品及び剥片はチャートである。

以下に，時期や特徴から第1群～第4群に分類し，記述する。石器については第14図と一覧表に記載する。

第1群　早期の土器

第12図1は，尖底土器の底部片で，天狗鼻状をしている。

出土縄文土器観察表

図版番号	器種・部位	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	尖底土器 縄文土器	B（6.6）	底部片。天狗鼻状を呈す。	砂粒・長石 褐色 普通	TP体 PL3 5% 縄文早期

第2群　前期の土器群

○関山式

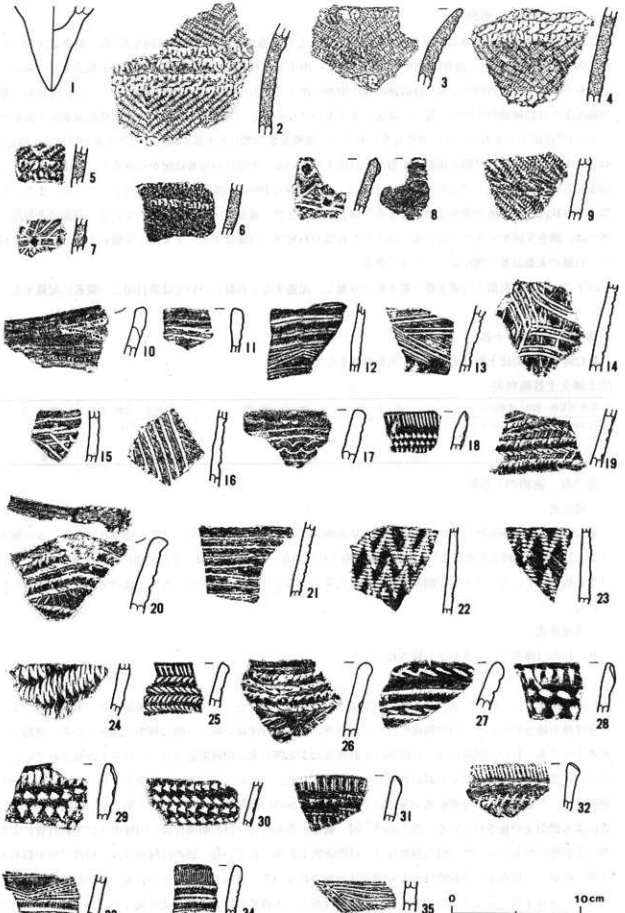
第12図2・4の胴部片と3の口縁部片は，単節縄文による波状縄文と，ループ文が施されている。5の胴部片は，LRの単節縄文を地文とし，ループ文が施されている。6の胴部片は，RLの単節縄文を地文とし，ループ文が施されている。7・8の胴部片は，半截竹管による平行沈線が施され，ボタン状の突起が貼り付けられている。

○諸磯B式

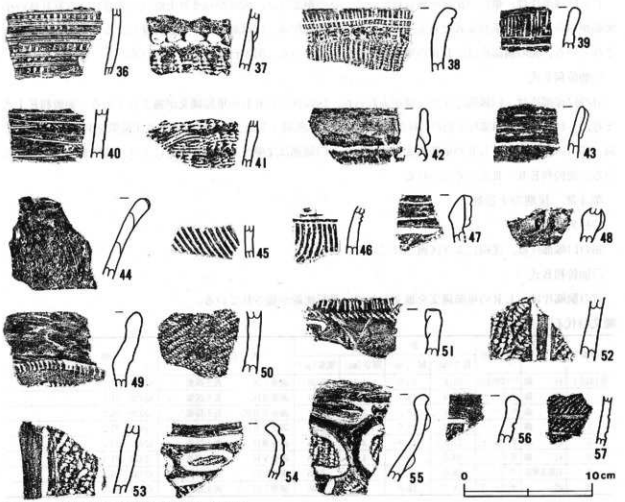
9・10の口縁部片は，爪形文が施されている。

○浮島式

11の口縁部片は，横状工具による横位の沈線が施されている。12・13・15・16の胴部片は，半截竹管により平行沈線が施されている。14の胴部片は，半截竹管による平行沈線を施し，間に刺突を加えている。浮島Ⅰ式と考えられる。17の口縁部片は，口縁部に半截竹管による押引文，口縁部直下にコンパス文が施されている。18の口縁部片は，口縁部にやや斜めのキザミ目が入れられ，口縁直下には，三角刺突文が施されている。19の胴部片は，半截竹管による押引文が施されている。20・26の口縁部片は，キャリパー形で，口縁直下に半截竹管による押引文が施されている。20と26は，同一個体と思われる。21の胴部片は，口縁直下に半截竹管による押引文が施されている。22～24の胴部片は，貝殻波状文が施されている。25の口縁部片は，口縁にやや斜めのキザミ目が，口縁直下に半截竹管による押引文が施されている。浮島Ⅱ式と考えられる。27の口縁部片は，口縁部にヘラ状工具によるキザミ目が入れられ，口縁直下に半截竹管による押引文が施されている。28・29・31の口縁部片は，口縁部にキザミ目が入れられ，口縁直下は，いずれも三角刺突文が施されている。30の胴部片



第12図　縄文時代の遺物実測図1（土器）



第13図　縄文時代の遺物実測図２（土器）

は，三角刺突文が施されている。浮島Ⅲ式と考えられる。

○興津式

32の口縁部片は，口縁部にやや斜めのキザミ目と半截竹管による押引文が施され，口縁直下にヘラ状工具による刺突が加えられている。33の胴部片は，半截竹管による爪形文と押引文が施されている。34の口縁部片は，口縁部にキザミ目が入れられ，口縁直下に半截竹管による押引文が施されている。35の胴部片は，半截竹管による平行沈線で文様が施されている。36の胴部片は，縦位と横位の貝殻条痕文が施されている。37は口唇部が欠損した口縁部片で，複合口縁である。口縁直下に貝殻波状文が施されている。38の口縁部片は，口縁部に貝殻条痕文と半截竹管による平行沈線が，口縁直下に貝殻腹縁文が施されている。39の口縁部片は，口縁部に斜めのキザミ目が入れられ，口縁直下に横位の平行沈線が施されている。40の胴部片は，ヘラ状工具による沈線で文様が施されている。41の胴部片は，貝殻条痕文が施されている。42・43の口縁部片は，いずれも複合口縁である。44の口縁部片は，口縁部に，棒状工具による押圧が加えられている。

第３群　中期の土器群

○五領ヶ台式

45の胴部片は，半截竹管による斜位の平行沈線が施されている。46の胴部片は，半截竹管による横位と縦位の平行沈線が施されている。

○阿玉台式

47の口縁部片は，横位の沈線が施されている。48の胴部片は，両側からせり上がった隆線による双耳状の小突起がみられる。阿玉台Ⅱ式と考えられる。49の口縁部片は，口縁直下に，半裁竹管による爪形文と沈線が施されている。50の胴部片は，ＬＲの単節縄文が施されている。阿玉台Ⅲ式と考えられる。

○加曽利Ｅ式

51の口縁部片は，口縁部にキザミ目が入れられ，口縁直下にＲＬの単節縄文が施されている。加曽利ＥⅠ式と考えられる。52の胴部片と53の口縁部片は，ＬＲの単節縄文を地文とし，垂下する沈線間を磨り消している。54・55の口縁部片は，ＬＲの単節縄文を地文とし，口縁部は沈線をともなう隆帯により，楕円形に区画されている。加曽利ＥⅡ～Ⅲ式と考えられる。

第４群　後期の土器群

○称名寺式

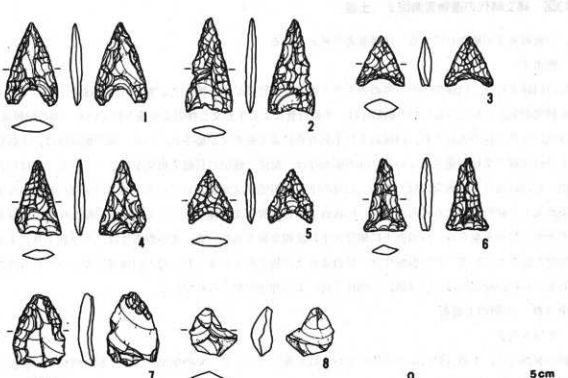
56の口縁部片は，沈線により区画されている。

○加曽利Ｂ式

57の胴部片は，ＬＲの単節縄文を地文として，平行沈線が施されている。

縄文時代石器一覧表

図版番号	器種	石材	計測値 長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	出土地点	備考
第14図1	石鏃	ガラス質黒色安山岩	32.8	20.9	4.5	2.28	調査Ⅴ区　表土採集	Q427　PL2
2	石鏃	チャート	37.9	18.1	4.1	2.24	調査Ⅲ区　表土採集	Q428　PL2
3	石鏃	チャート	21.4	19.2	5.2	1.24	調査ⅡＢ区　表土採集	Q429　PL2
4	石鏃	チャート	30.2	19.5	4.2	1.84	調査ⅡＢ区　表土採集	Q430　PL2
5	石鏃	黒曜石	21.3	17.8	3.5	0.85	調査Ⅲ区　表土採集	Q431　PL2
6	石鏃	チャート	29.3	17.0	4.8	1.58	調査Ⅴ区　表土採集	Q432　PL2
7	石鏃未製品	チャート	28.8	21.2	5.7	3.16	調査Ⅴ区　表土採集	Q433　PL2
8	剥片	チャート	18.5	18.3	8.0	2.04	調査Ⅴ区　表土採集	Q434　PL2



第14図　縄文時代の遺物実測図３（石器）

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

当遺跡からは，奈良・平安時代の住居跡134軒，掘立柱建物跡37棟，柱穴列４列，柱穴群５群，土坑267基が確認されている。これらの遺構は，機能的・規則的に配置され，集落としての役割を担っていることがうかがわれる。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について，記述していくこととする。

（1）竪穴住居跡

当遺跡の竪穴住居跡は，調査ⅡＢ区に54軒，調査Ⅲ区に30軒，調査Ⅳ区に22軒，調査Ⅴ区に28軒が確認された。時期では，奈良時代の住居跡が43軒，平安時代の住居跡が87軒，奈良・平安時代と考えられる住居跡が４軒である。古墳時代のものは確認されていない。

第91号住居跡（第15・16図）

位置　調査ⅡＢ区の南西部，Ｆ３e9区。

重複関係　東部で第120号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸４.15m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－68°－Ｅ

壁　壁高は24～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下と北東コーナー部で確認された。上幅18～20cm，下幅２～６cm，深さ６cmで，断面形は緩やかなＵ字形である。

床　全面的に平坦である。北壁から南壁にかけて約160cmの幅で踏み固められている。

竈　東壁中央部に，壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで95cm，両袖幅123cmである。天井部は崩落しており，第４層が天井部の崩落土と考えられる。土層断面図中，第６層～９層が袖部の土層である。第５層の下面が火床面で，火熱を受けて赤変硬化している部分が見られる。土師器小形甕が支脚に転用され，煙道の立ち上がり部から逆位の状態で出土している。煙道には，補強材として土師器甑片が長さ37cmにわたり貼り付けられている。

竈土層解説

1	褐	色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2	褐	色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量
3	暗 褐	色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐	色	粘土大ブロック多量
5	褐	色	焼土中ブロック・粒子多量，炭化粒子中量，炭化米少量
6	赤 褐	色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量
7	褐	色	ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子少量
8	暗 褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
9	暗赤褐	色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量

ピット　１か所。南西コーナー部に位置し，長径64cm，短径50cmの楕円形，深さ21cmであり，性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

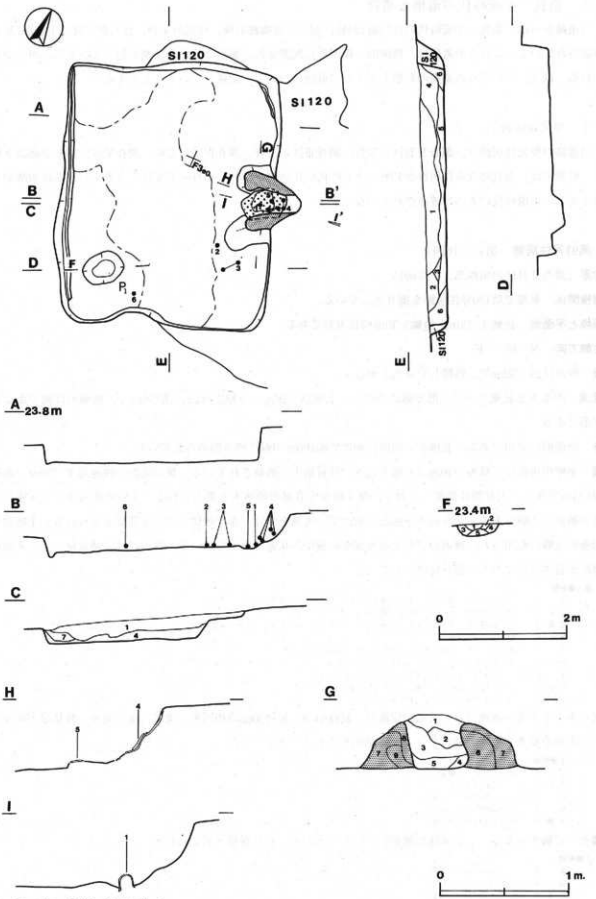
ピット土層解説

1	暗 褐	色	粘土小ブロック微量
2	暗 褐	色	ローム粒子少量
3	褐	色	ローム小ブロック少量
4	褐	色	ローム小ブロック中量
5	明 褐	色	ローム中ブロック中量

覆土　７層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

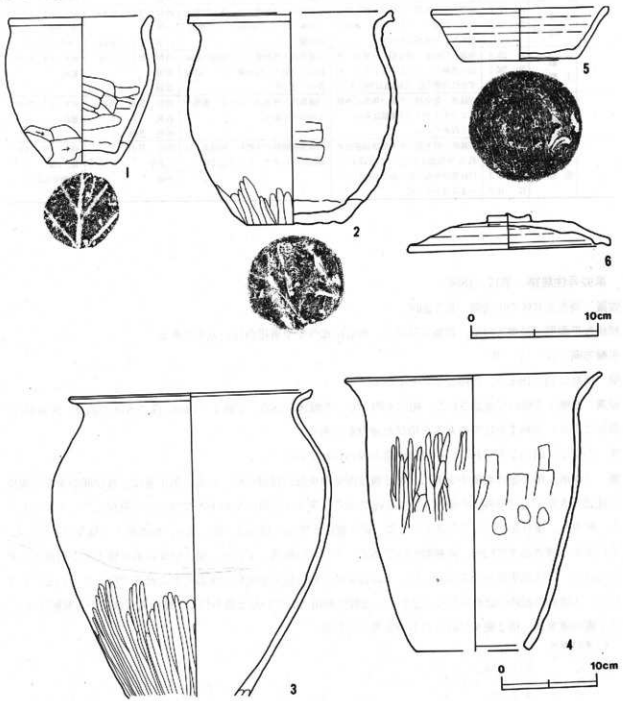
1	褐	色	ローム小ブロック少量
2	褐	色	ローム中ブロック中量
3	暗 褐	色	ローム小ブロック少量
4	暗 褐	色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
5	褐	色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量



第15図　第91号住居跡実測図

6 褐　色　ローム中ブロック多量
7 褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片226点，須恵器片27点，金属製品１点（不明鉄製品），炭化米が出土している。第16図１の土師器小形甕は支脚に転用されており，竈内の煙道立ち上がり部から逆位で出土している。２の土師器甕は，竈南袖部前と南西部のそれぞれ覆土下層から出土した破片が接合したものである。３の土師器甕は，南東コーナー部の覆土下層から土圧で押しつぶされた状態で出土している。４の土師器甑は，竈煙道部の補強材として使用された破片が接合したものである。５の須恵器坏は，竈内から出土している。６の須恵器蓋は，南壁中央部やや西寄りの覆土下層から正位で出土している。炭化米は，竈火床部の覆土第５層から焼土に混じって少量出土している。



第16図　第91号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，出土土器から，８世紀後葉と推定される。遺構の重複関係からは第120号住居跡より新しいが，出土遺物から判断するとあまり時期差はないようである。

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	小形甕 土師器	A 11.2 B 11.7 C 5.7	完形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒　雲母　長石 明赤褐色 普通	100% P3 PL66 竈内 (掘建部)
2	甕 土師器	A [16.1] B 16.8 C 7.3	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上位ナデ。下位縦位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ，輪積み痕。底部木葉痕。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい赤褐色 普通	60% P4 覆土下層 (竈床補部前～南西部)
3	甕 土師器	A 25.0 B (31.5)	底部欠損。体部・口縁部一部欠損。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部横ナデ。下半部縦位のヘラ磨き。内面横ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい橙色　普通	80% P5 覆土下層 (南東コーナー部)
4	甕 土師器	A 25.8 B 28.7 C 11.8	体部・口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，中位でわずかに内弯する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。内面横ナデ。一部縦位のヘラナデ。	砂粒　長石　石英 橙色 普通	80% P6 PL66 竈内
5	坏 須恵器	A 13.8 B 4.2 C 8.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反し，丸く収めている。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 石英 灰色　普通	95% P1 PL66 竈内
6	蓋 須恵器	A 15.6 B 2.8 F 3.3 G 0.7	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は内面に短いかえりが付く。つまみはボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	雲母　長石 灰黄色 普通	98% P2 PL66 覆土下層 (掘壁中央部やや西寄り)

第92号住居跡（第17・18図）

位置　調査ⅡＢ区の中央部，Ｅ３ｇ0区。

規模と平面形　長軸3.64m，短軸3.53mの，西辺に比べやや東辺の長い方形である。

主軸方向　Ｎ－15°－Ｗ

壁　壁高は13～18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下を除いて確認された。幅は不均一で，上幅16～28cm，下幅４～12cm，深さ８cmである。断面形は，部分によりＵ字形またはやや丸みを帯びた逆台形である。

床　わずかに凹凸がみられる。中央部が踏み固められている。

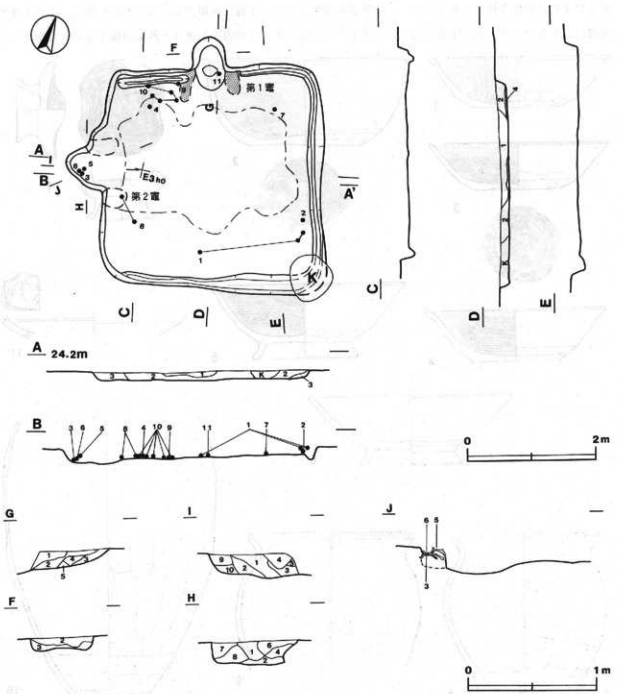
竈　２か所。第１竈は北壁中央部に，第２竈は西壁中央部に付設されている。第１竈は，残存部が少なく規模は確認できないが，壁外への掘り込みは60cmである。覆土中に焼土や粘土等はほとんど遺存していないことから，使用後，竈材を除去したと考えられる。第２竈は，壁外へ48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで82cm，両袖幅92cmである。天井部は崩落しており，第１層から第４層までが崩落土と考えられる。火床部中央やや南寄りには，土師器の坏・高台付坏が逆位で重ねられた状態で出土している。いずれも二次焼成の痕跡が認められることから，支脚に転用されていたと思われる。竈の遺存状況から判断すると，第１竈の破棄後，第２竈を付設したものと考えられる。

第１竈土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子少量
2　褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量

第2竈土層解説

1	赤褐色	砂粒中量，焼土小ブロック・粒子少量
2	褐　色	焼土小ブロック少量
3	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
4	明黄褐色	ローム小ブロック多量，焼土粒子・砂粒少量
5	暗褐色	砂粒中量，焼土小ブロック・粒子少量
6	明赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量・砂質粘土粒子少量
7	にぶい褐色	ローム粒子・砂粒多量
8	明褐色	ローム粒子中量，砂粒少量
9	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
10	褐　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック中量

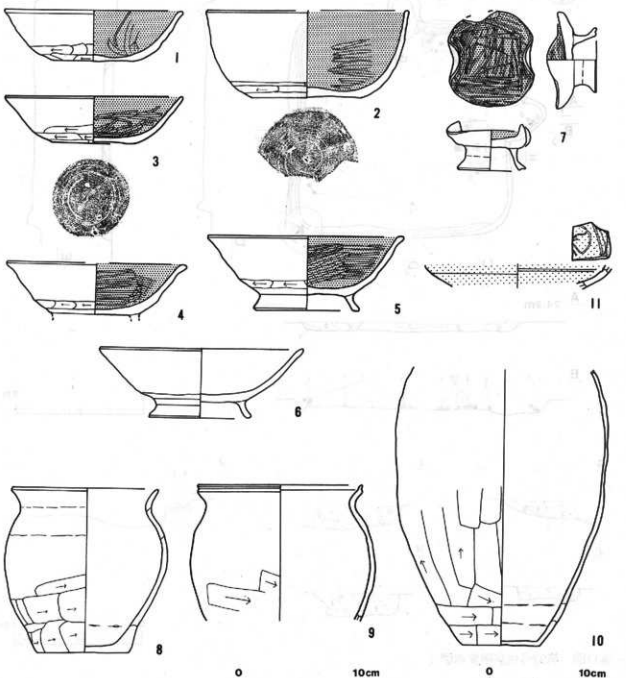
覆土　4層からなる。第2竈からの流れによる焼土や砂質粘土を含んでいることから，自然堆積と考えられる。



第17図　第92号住居跡実測図

土層解説
1　暗赤褐色　ローム中ブロック中量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
3　褐　色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量
4　褐　色　ローム中ブロック中量

遺物　土師器片265点，須恵器片55点，緑釉陶器片１点が出土している。第18図１の土師器坏は南東コーナー部から南部にかけて出土した破片が接合したものである。２の土師器坏は，南東コーナー部の覆土下層から出土している。４の土師器高台付坏は，北西コーナー部の床面から正位で出土している。３の土師器坏，５・６の土師器高台付坏は，第２竈の火床部から出土している。いずれも逆位で，３に６が重なり，その上に５がやや北にずれた状態で伏せられている。二次焼成を受けており，支脚に転用されたものと思われる。７の土師器耳皿は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。８の土師器小形甕は，西部の覆土下層から出土して



第18図　第92号住居跡出土遺物実測図

いる。9の土師器小形甕は，第1竈西側の床面から出土している。10の土師器甕は，北西コーナー部の床面から，土圧で押しつぶされた状態で出土している。11の緑釉陶器稜椀は，第1竈内から出土している。黒笹90号窯式期の猿投窯産のもので，内面に陰刻花文を有する。

所見　ピットは確認できなかった。第1竈の破棄後，第2竈を付設している。本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.0 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ヨコロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石　スコリア にぶい橙色 普通	95%　P7　PL66 覆土下層 (南東部コーナー部～竈部)
2	坏 土師器	A [15.8] B 6.9 C [8.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母 橙色 普通	40%　P8 覆土下層 (南東コーナー部)
3	坏 土師器	A 13.8 B 3.8 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母　長石　スコリア 明赤褐色 普通 二次焼成	95%　P9　PL66 第2竈内 (火床部)
4	高台付坏 土師器	A [14.0] B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。体部は，丁位に稜を有し，外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。高台貼り付けの痕跡を残す。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　石英 にぶい橙色 普通	40%　P10 床面直上 (北西コーナー部)
5	高台付坏 土師器	A 15.4 B 5.9 D 8.0 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。体部は，下位に稜を有し，内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 橙色 普通 二次焼成	90%　P11　PL66 第2竈内 (火床部)
6	高台付坏 土師器	A 16.0 B 5.5 D 8.0 E 1.5	体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 橙色 普通 二次焼成	75%　P12　PL66 第2竈内 (火床部)
7	耳皿 土師器	A 7.6 B 3.8 D 5.1 E 1.9	口縁部一部欠損。体部は二か所が，内側に丸く折り曲げられている。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	95%　P15　PL67 床面直上 (北東コーナー部)
8	小形甕 土師器	A 11.4 B 13.0 C 7.3	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して口縁部は外反する。	口縁部内・外強横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	雲母　長石 にぶい橙色 普通	70%　P13　PL66 覆土下層 (西部)
9	小形甕 土師器	A 13.0 B (10.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を施す。	口縁部内・外強横ナデ。体部外面ナデ，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい橙色 普通	50%　P16 床面直上 (第1竈西側)
10	甕 土師器	B (28.5) C 8.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位で軽く内彎する。	体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ磨き。下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒　雲母 にぶい褐色 普通	50%　P14 床面直上 (北西コーナー部)
11	稜椀 緑釉陶器	B (1.9)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。中位に明瞭な稜を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。釉調毛並り。	砂粒 オリーブ灰色 良好	10%　P17　PL67 体部内面陰刻花文 第1竈内 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

第93号住居跡（第19・20図）

位置　調査ⅡB区の南東部，F 4 a7区。

重複関係　東部が第96号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸[3.20]m，短軸(2.28)mの長方形と推定される。

主軸方向　[N－8°－E]

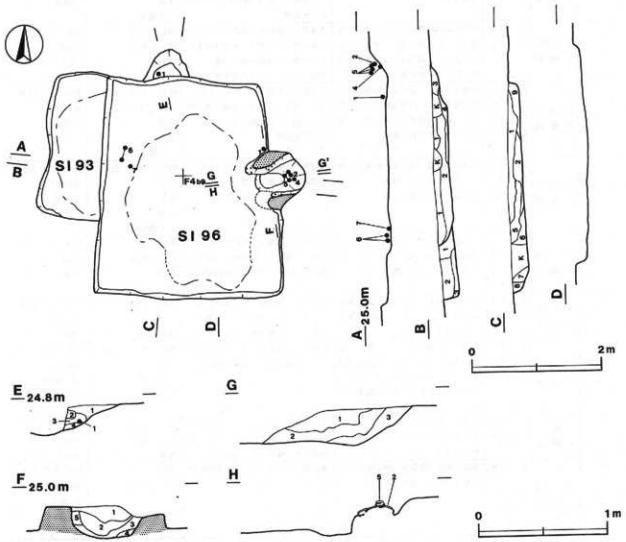
壁　西部だけが残存し，壁高は16～24cmで，外傾して立ち上がる。

床　全面的に平坦である。

竈　第96号住居に掘り込まれているため，煙道部が確認できただけで，形状・規模等は不明である。煙道は火床部から緩やかに立ち上がっていたものと思われる。

竈土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　焼土中ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　黒褐色土主体の3層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。



第19図　第93・96号住居跡実測図

土層解説
1 黒褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
2 黒褐色　ローム中ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
3 黒褐色　ローム粒子・焼土中ブロック少量

第20図　第93号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片20点，須恵器片６点，雲母片岩１点が出土している。第20図１の土師器高台付坏は，竈内から出土している。石塊１点（雲母片岩）は，中央部やや西寄りの床面から出土している。火熱を受けていることから，竈の支脚として使用されていた可能性がある。

所見　ピットと壁溝は確認できなかった。本跡は，出土遺物が少なく時期判断は難しいが，重複関係と土師器の様相から，９世紀後葉と推定される。

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	高台付坏 土師器	B（2.2）	高台部から底部にかけての破片。高台はわずかに「ハ」の字状に開く。	内面丁寧なヘラ磨き。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	長石 にぶい橙色 普通	30% P18 竈内

第94号住居跡（第21・22図）

位置　調査ⅡＢ区の南部，Ｆ４a5区。

重複関係　南西部で第99号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.94m，短軸2.88mの，東辺に比べやや西辺の長い方形である。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は22～32cmで，外傾して立ち上がる。

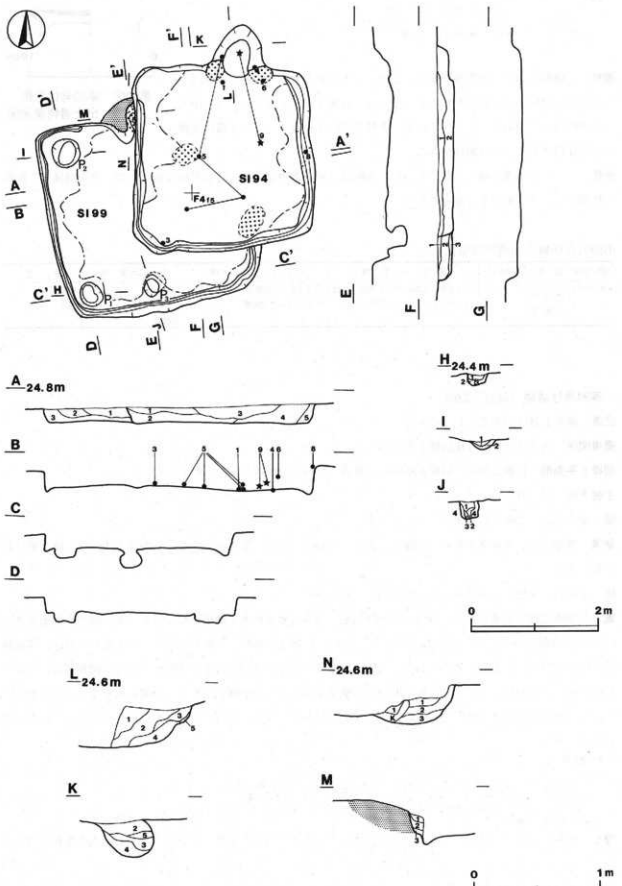
壁溝　東壁下から西壁下を巡り，上幅12～20cm，下幅２～６cm，深さ８cmである。幅は不均一で，断面形はＵ字形である。

床　全面的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部やや東寄りに，壁外へ65cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで82cm，両袖幅106cmである。天井部は崩落しており，第５層が崩落土と考えられる。第４層の下面は，赤変硬化しているため，火床面と考えられる。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用している。両袖部は，それぞれの内壁に，補強材として土師器鉢を貼り付け構築されているのが確認された。内壁は火を受けて赤変硬化している。煙道は，土層が軟らかく明確にはとらえられなかったが，火床面からやや急に立ち上がっていたと思われる。

竈土層解説
1 暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
3 暗褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
5 黄褐色　焼土小ブロック中量

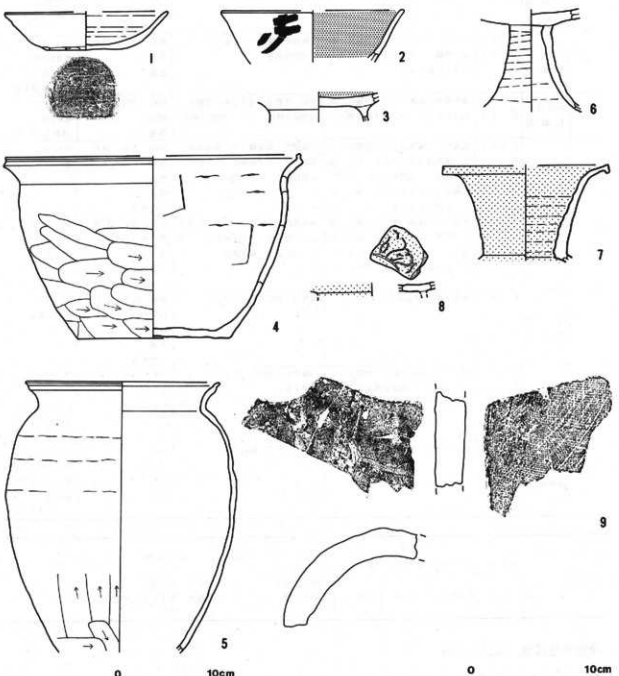
覆土　褐色土主体の５層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。



第21図　第94・99号住居跡実測図

土層解説
1 褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2 褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック少量
3 明褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック少量
5 明褐色　ローム小ブロック中量

遺物　土師器片316点，須恵器片72点，灰釉陶器片１点，緑釉陶器片１点，瓦１点，炭化米が出土している。第22図１の土師器坏は，竈西袖部前の覆土下層から出土している。体部外面に二次焼成の痕跡が認められる。２の土師器坏は，南東部の覆土下層から出土している。側面に薄い筆痕が残るが，判読できない。３の土師器高台付坏は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。器面の剥落が著しい。４の土師器鉢，６の須恵器高盤は，竈内から出土している。４は竈袖部補強材として使用したものと思われる。５の土師器甕は竈内と覆土中から出土した破片が接合したものである。７の灰釉陶器長頸瓶頸の部片は，覆土上層から出土している。



第22図　第94号住居跡出土遺物実測図

8の緑釉陶器椀は，東壁際の覆土上層から出土している。体部内面に陰刻花文を有する。7・8はいずれも黒笹90号窯式期の猿投窯産のものである。9の丸瓦は，中央部覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。凸面に二次焼成の痕跡があることから，竈袖部の補強材に使用された可能性がある。その他，竈火床部覆土中から炭化米が少量確認された。

所見　ピットは確認できなかった。本跡の時期は，出土土器から，9世紀後葉と推定される。

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.0 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 橙色 普通 二次焼成	50% P19 覆土下層 (西袖部前)
2	坏 土師器	A [14.3] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 橙色 普通	20% P47 体部外面墨書・ 判読不能 覆土下層(南東部)
3	高台付坏 土師器	D (7.8) E (1.4)	高台部から底部にかけての破片。高台はわずかに「ハ」の字状に開く。	内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 橙色 普通	20% P20 覆土下層 (南西コーナー部)
4	鉢 土師器	A [23.2] B 14.4 C 12.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲し口縁部外方へ延く開く。口縁部はつまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ，輪積み痕。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 橙色 普通 二次焼成	50% P22 竈内
5	甕 土師器	A [20.0] B (28.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上半部ナデ。下半部縦位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	雲母 長石 石英 明赤褐色 普通 二次焼成	30% P23 竈内，覆土下層 (中央部)
6	高盤 須恵器	B (8.1)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 黄灰色 普通 二次焼成	20% P21 竈内(東袖部)
7	長頸瓶 灰釉陶器	A [13.0] B (7.6)	頸部から口縁部の破片。頸部はラッパ状に開き，口縁部で外反する。口縁部は上下に突出させている。	口縁部から頸部内・外面ロクロナデ。釉刷毛塗り。	砂粒 雲母 長石 灰白色 良好	10% P197 覆土上層 (北東コーナー部) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)
8	椀 緑釉陶器	B (0.8)	底部の破片。平底。	内面ヘラ磨き。釉刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉 オリーブ灰色 良好	10% P24 PL67 体部内面印刻花文 覆土上層(北側部) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
第22図 9	丸瓦	(13.3)	(10.7)	2.30	(334.3)	凸面ヘラ調り。 凹面布目痕。	T 1 二次焼成 竈内・覆土下層 (中央部) にぶい橙色

第95号住居跡（第23・24図）

位置　調査ⅡB区の南東部，F 4 a7区。

規模と平面形　長軸2.35m，短軸2.18mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は16～25cmで，外傾して立ち上がる。

床　全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。

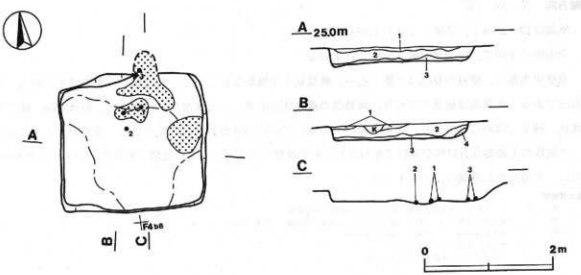
竈　北壁中央部に焼土があり，壁を掘り込んだ形跡や火を受けた土器片が認められることから，竈が付設されていたと考えられるが，撹乱がひどく，形状・規模等は不明である。

覆土　4層からなる。いずれの層にもロームブロックを含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4　黄褐色　ローム大ブロック中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量

遺物　土師器片62点，須恵器片26点が出土している。出土した土器片の多くは，竈内と竈付近から集中して出土している。竈付近の土器の多くは，二次焼成の痕跡があることから，竈内から掻き出されたものの可能性も考えられる。第24図1の土師器高台付坏は，竈前の床面から出土している。2の土師器高台付皿は，竈前の覆土下層から出土している。3の須恵器鉢は，竈内の覆土下層から出土している。体部外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見　ピットや壁溝は確認できなかった。本跡の時期は，出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第23図　第95号住居跡実測図

第24図　第95号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 1	高台付坏 土師器	A [14.0] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 スコリア 橙色 普通	20% P25 床面直上 (竈前)
2	高台付皿 土師器	A [13.8] B 3.2 D [7.6] E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外方に開き，口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 石英 橙色 普通 二次焼成	30% P26 覆土下層 (竈前)

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第24図 3	鉢 須恵器	体部	外面段位の平行叩き。内面横ナデ。	TP3 覆土下層(竈内) 灰色

第96号住居跡（第19・25図）

位置　調査ⅡB区の南東部，F4b8区。

重複関係　西部で第93号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.48m，短軸2.85mの長方形である。

主軸方向　N－88°－E

壁　壁高は13～25cmで，外傾して立ち上がる。

床　全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁中央部に，壁外へ48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで80cm，両袖幅94cmである。天井部は崩落しており，両袖部の遺存状態も悪い。火床部は，長径40cm，短径22cm，深さ6cmで皿状に掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。煙道の立ち上がり部から，2個体の土師器高台付坏が逆位で重ね合わされた状態で出土している。支脚に転用されたものと思われる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子・砂質粘土粒子微量
2 褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土中ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量
3 褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4 褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
5 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

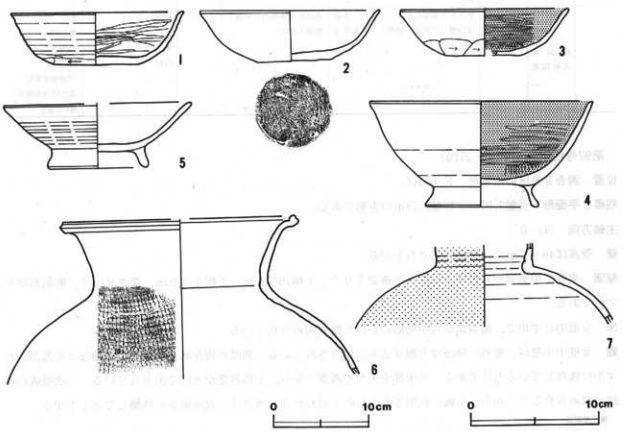
覆土　9層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 褐　色　ローム粒子多量
2 褐　色　ローム小ブロック・粒子多量
3 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
4 暗褐色　ローム粒子中量，粘土中ブロック少量
5 黒褐色　ローム粒子中量，焼土中ブロック少量
6 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土粒子少量
7 褐　色　ローム粒子中量
8 褐　色　ローム中ブロック多量
9 黒褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片204点，須恵器片68点，灰釉陶器片1点が出土している。第25図1の土師器坏は，竈北袖部北側の床面から出土している。2の土師器坏は竈火床部から出土している。1と2はいずれも二次焼成を受けている。3の土師器坏は，南部の覆土中から出土している。4・5の土師器高台付坏は，煙道の立ち上がり部か

ら逆位で，4が5の上に重なり合った状態で出土している。二次焼成を受けていることから，支脚に転用されたものと考えられる。6の須恵器甕は，西壁付近の覆土下層と北部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。7は灰釉陶器長頸瓶の頸部片で，西壁付近の覆土下層から出土している。調査Ⅲ区の西部に位置する，第223号住居跡の覆土中層から出土した長頸瓶頸部片と接合している。黒笹90号窯式期の猿投窯産のものである。

所見　ピットと壁溝は確認できなかった。本跡の時期は，出土土器から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。



第25図　第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.1 C 6.5	完形。平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒　雲母　スコリア にぶい橙色 普通 二次焼成	100%　P27　PL67 床面直上 (竈北補部北側)
2	坏 土師器	A 14.0 B 4.3 C 5.6	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒　雲母 橙色 普通 二次焼成	75%　P28 竈内(火床部)
3	坏 土師器	A 13.2 B 3.6 C 5.6	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母 にぶい褐色 普通	40%　P29 覆土中 (南部)
4	高台付坏 土師器	A 17.6 B 8.4 C 8.8	体部・口縁部一部欠損。体部は内湾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 にぶい橙色 普通 二次焼成	85%　P30　PL67 竈内(火床部) 支脚転用

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 5	高台付坏 土師器	A [15.0] B 5.0 D 8.0 E 1.6	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。高台は，「ハ」の字状に開く。	口縁部内・外面ロクロナデ。回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい橙色 普通 二次焼成	55%　P31　PL67 竈内(火床部) 支脚転用
6	甕 須恵器	A [24.0] B (16.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	体部外面格子の平行叩き。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 灰オリーブ色 普通	30%　P32 覆土下層 (西壁付近)
7	長頸瓶 灰釉陶器	B (6.5)	体部から頸部にかけての破片。体部は内彎して頸部で屈曲する。頸部は直立する。	頸部から体部内・外面ロクロナデ。施釉毛塗り。	砂粒 灰白色 釉　灰オリーブ色 良好	10%　P33 覆土下層 (西壁付近) 猿投窯産 (黒笹90号窯式) 第223号住居跡出土 破片と接合

第97号住居跡（第26・27図）

位置　調査ⅡB区の南西部，E 4 a1区。

規模と平面形　長軸3.97m，短軸3.78mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は40～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下中央部から西壁下にかけて確認された。上幅16～22cm，下幅４～９cm，深さ８cmで，断面形はU字形である。

床　全面的に平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ56cmほど掘り込み，付設されている。袖部の残存状況は悪く，両袖部とも基部がわずかに残存しているだけである。火床部中央やや西寄りから，土師器甕が逆位で出土している。二次焼成の痕跡が認められることから，支脚に転用されたものと思われる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子中量，ロ・ム粒子・焼土中ブロック少量
2　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物中量
5　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
7　赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量
8　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
9　明褐色　焼土粒子少量

ピット　１か所。長径36cm，短径28cmの楕円形，深さ23cmのピットで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

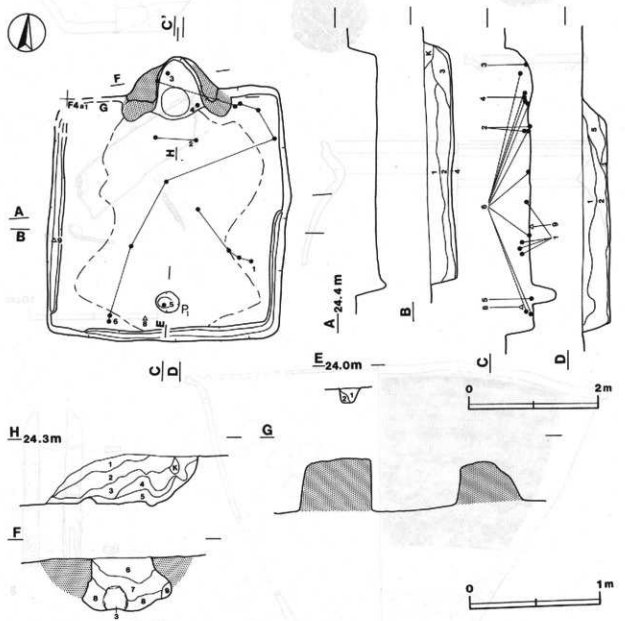
ピット土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック中量

覆土　５層からなる。中・下層に竈からの流れと思われる焼土が堆積していることから，自然堆積と考えられる。

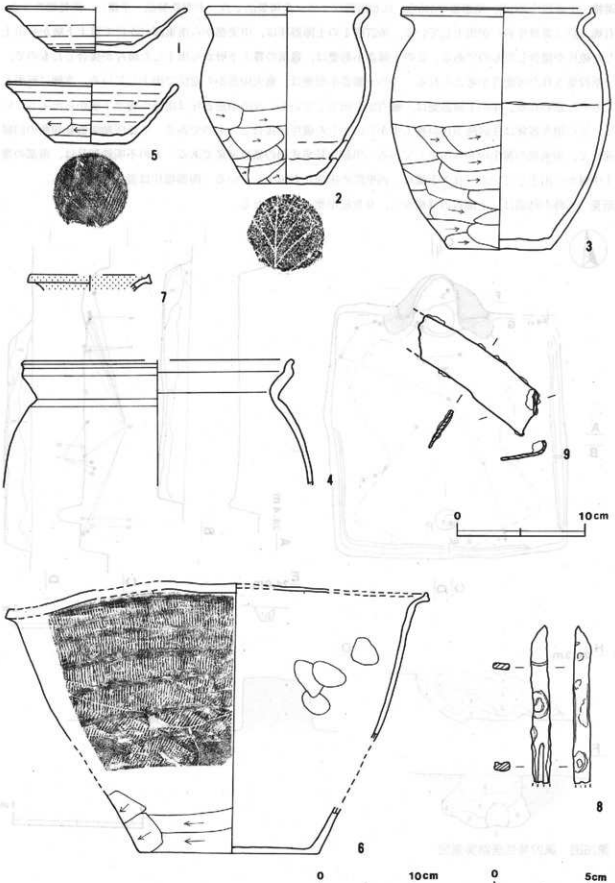
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量

遺物　土師器片360点，須恵器片346点，灰釉陶器片１点，金属製品２点（不明鉄製品・手鎌），陶器細片３点，石塊１点（雲母片岩）が出土している。第27図１の土師器坏は，中央部から南東部にかけて覆土下層から出土した破片が接合したものである。２の土師器小形甕は，竈前の覆土下層から出土した破片が接合したもので，一括投棄された可能性が考えられる。３の土師器小形甕は，竈火床部から逆位で出土している。支脚に転用したものと思われる。４の土師器甕は，竈内から出土している。５の須恵器坏は南部の覆土下層から出土している。６の須恵器鉢は住居跡全体の覆土中から出土した破片が接合したものである。７は灰釉陶器長頸瓶の口縁部片で，南東部の覆土中から出土している。黒笹14号窯式期の猿投窯産である。８の不明鉄製品は，南部の覆土中層から出土している。９の手鎌は，西壁際の床面から出土している。陶器細片は混入と思われる。

所見　本跡の時期は，土師器の様相から，９世紀中葉と推定される。



第26図　第97号住居跡実測図



第27図　第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	坏 土師器	A [14.4] B 3.6 C 6.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 明赤褐色 普通	70% P34 覆土下層 (中央部～南東部)
2	小形壺 土師器	A 12.6 B 14.0 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位で内彎して口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。底部木葉痕。	砂粒 石英 スコリア にぶい赤褐色 普通	70% P37 覆土下層 (竈前)
3	小形壺 土師器	A 15.0 B 19.0 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 橙色 普通	90% P38 PL67 竈内(火床部) 支脚転用
4	甕 土師器	A [21.0] B (9.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，外上方へつまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア にぶい黄褐色 普通	10% P39 竈内
5	坏 須恵器	A 13.4 B 4.7 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反し，丸く収めている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	90% P35 PL67 覆土下層 (南部)
6	鉢 須恵器	A 43.3 B [28.2] C 18.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部で強く屈曲する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面最低の平行叩き。下位横位のヘラ削り。内面横ナデ。当て具痕。底部ナデ。	砂粒 褐灰色 不良	70% P36 PL67 竈内 覆土中
7	長頸瓶 灰釉陶器	A [9.6) B (1.2)	口縁部の破片。口縁部は外反する。口縁部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 暗オリーブ色 釉 暗灰黄色 良好	5% P40 覆土中(南東端) 猿投窯産 (黒笹14号窯式)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第27図 8	不明鉄製品	(8.3)	1.1	0.5	(12.1)	覆土中層(南部)	M2 PL107
9	手鎌	(11.5)	3.2	0.3	(51.4)	床面直上(西壁際)	M3 PL103 鉾部欠損

第98号住居跡（第28・29図）

位置 調査ⅡB区の南西部，E3j8区。

重複関係 北部で第100号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.02m，短軸2.78mの長方形である。

主軸方向 N－12°－E

壁 壁高は32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から西壁下にかけて確認された。上幅8～16cm，下幅2～4cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

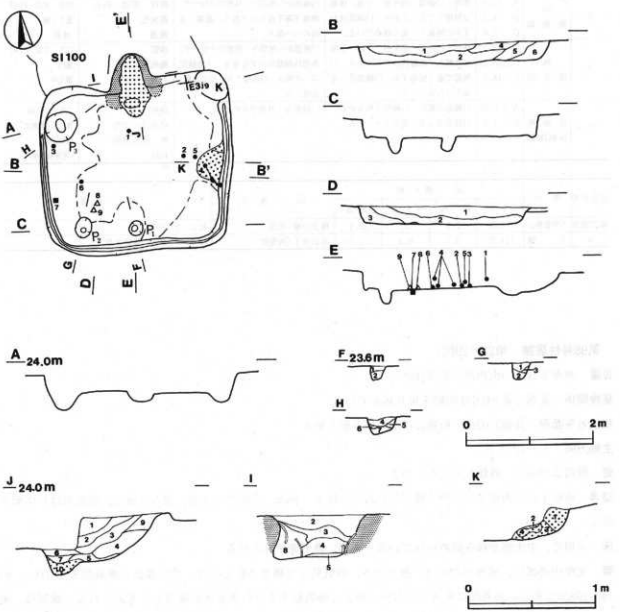
床 平坦で，中央部が踏み固められている。東部に焼土塊がみられる。

竈 北壁中央部に，壁外へ42cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで100cm，両袖幅108cmである。天井部は崩落しており，焼土・砂質粘土を含む第9層が崩落土と考えられる。袖部は，地山を土手状に掘り残し，その上にロームと粘土及び砂粒を混ぜたものを積み，内壁に土師器甕を正位で貼り付けて構築している。両袖の内壁は火を受けて赤変硬化している。火床部は長径18cm，短径21cmの楕円形で，皿

状に掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変している部分が見られる。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。東壁際中央部に，砂質粘土を含んだ焼土層が確認された。床面に掘り込みはみられないが，東壁を掘り込んでいることから，竈があった可能性が考えられる。

竈土層解説

1 黒褐色 ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム小ブロック多量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物少量
4 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
5 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
6 黒褐色 ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8 褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック中量
9 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量
10 黒褐色 灰・炭化粒子多量，焼土粒子微量



第28図　第98号住居跡実測図

焼土土層解説
1 赤 褐 色　焼土大・小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 にぶい褐色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は，南壁中央の壁際から20cmほど内側に位置し，径24cmの円形，深さ21cmで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は，南西コーナー部に位置し，長径32cm，短径24cmの楕円形，深さ26cmである。P3は北西コーナー部に位置し，長径52cm，短径45cmの楕円形，深さ28cmである。P2・3の性格は，いずれも不明である。

ピット土層解説
1 明 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子微量
3 褐 色　ローム粒子微量
4 褐 色　ローム中ブロック中量
5 褐 色　ローム中ブロック少量
6 褐 色　ローム中ブロック中量
7 褐 色　ローム小ブロック微量

覆土　6層からなる。ロームブロックや焼土を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

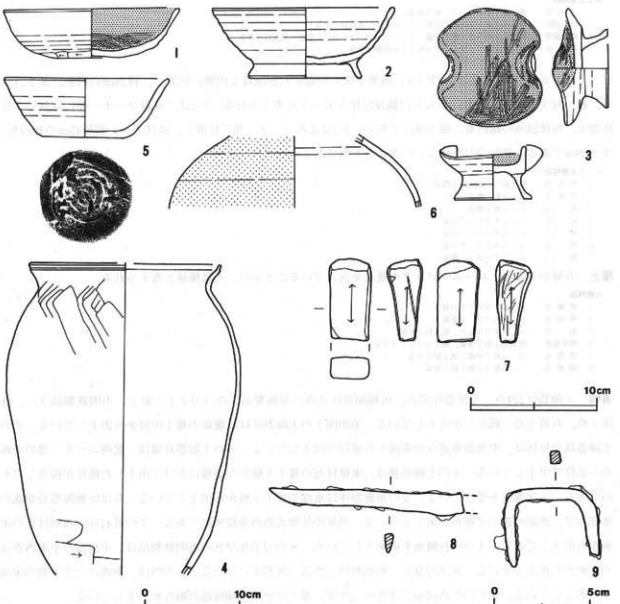
土層解説
1 暗 褐 色　ローム小ブロック少量
2 明 褐 色　ローム大ブロック多量
3 褐 色　ローム中ブロック・焼土粒子中量
4 明赤褐色　砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック中量
5 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片224点，須恵器片57点，灰釉陶器片２点，金属製品５点（刀子１・釘１・不明鉄製品３），鉄滓１点，石器１点（砥石）が出土している。第29図１の土師器坏は，竈前の覆土中層から出土している。２の土師器高台付坏は，中央部東寄りの床面から逆位で出土している。３の土師器耳皿は，北西コーナー部の床面から正位で出土している。４の土師器甕は，東壁付近の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。二次焼成を受けている。５の須恵器坏は東部の覆土下層から出土している。６は灰釉陶器長頸瓶の体部片で，西部の覆土下層から出土している。黒笹90号窯式期の猿投窯産である。７の砥石は，西壁付近の床面から出土している。４つの長側面を砥面としている。８の刀子及び９の不明鉄製品は，中央部やや南西寄りの床面から出土している。８は刀身で，断面形は二等辺三角形をしている。９の閂は，南西コーナー部の床面から出土している。細片のため図示できなかったが，覆土中から灰釉陶器の細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から，９世紀後葉と推定される。鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 土師器	A 13.6 B 3.8 C 5.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい橙色 普通	80% P42 覆土中層 (竈前)
2	高台付坏 土師器	A 14.3 B 5.5 D 8.7 E 1.1	体部・口縁部一部欠損。体部は内湾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい黄橙色 普通	80% P43 床面直上 (中央部東寄り)
3	耳皿 土師器	A 9.2 B 4.4 D 6.0 E 2.0	完形。体部は二か所が内側に丸く折り曲げられている。高台は，「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	100% P45 床面直上 (北西コーナー部)



第29図　第98号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 4	甕 土師器	A [19.8] B (32.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラナデ。下位横位のヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 橙色 普通 二次焼成	40%　P44　PL68 置土下層～中層 (東壁付近)
5	坏 須恵器	A 12.9 B 4.7 C 7.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	90%　P41　PL68 置土下層 (東部付近)
6	長頸瓶 灰釉陶器	B (5.7)	体部の破片。体部は球形を呈するものとみられる。	体部内・外面ロクロナデ。釉刷毛塗り。	砂粒 灰オリーブ色 釉　暗灰黄色 良好	5%　P46 置土下層(西部) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第29図7	砥石	(6.5)	3.3	2.7	(80.2)	凝灰岩	床面直上（西壁際）	Q4 PL95

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第29図8	刀子	(10.3)	1.2	0.5	(13.3)	床面直上（南西コーナー部）	M4 PL101 茎部欠損
9	門	4.1	5.1	0.6	18.2	床面直上（南西コーナー部）	M5 PL105

第99号住居跡（第21図）

位置　調査ⅡB区の中央部，F4a4区。

重複関係　東部が第94号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸3.10mの方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は22～24cmで，外傾して立ち上がる。西壁の一部は直立している。

壁溝　第94号住居に掘りこまれている部分を除いて巡っている。上幅8～22cm，下幅2～4cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全面的によく踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。第94号住居に東半分を掘り込まれているため，形状・規模等は不明であるが，残存している部分から，焚口部から煙道部まで[60]cm，両袖幅[80]cm，壁外への掘り込みは[17]cmと推定される。天井部は崩落しており，第1層が崩落土と考えられる。第3層は火熱を受けて赤変しており，火床面と考えられる。両袖部は，地山のロームを一部掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築しており，内壁は火を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　赤褐色　焼土小ブロック多量
2　暗褐色　焼土小ブロック・粒子少量
3　明褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2の上端は長径36～44cm，短径32～38cmの不整楕円形，下端は長径30～38cm，短径16～22cmの不整楕円形で，深さ14～16cmである。いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は，南壁中央の壁際から12cmほどの内側に位置し，長径32cm，短径24cmの円形で，深さ28cmである。竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量
3　褐　色　ローム中ブロック中量
4　明褐色　ローム中ブロック多量

覆土　3層からなる。第94号住居に掘り込まれているため明確ではないが，ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積の可能性がある。

土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2　明褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック微量

遺物　土師器片31点，須恵器片2点，金属製品1点（不明鉄製品），炭化種子1点が出土している。出土した土器は少なく，すべて細片である。釘状の鉄製品が北東コーナー部の覆土上層から，炭化した種子が北西コー

ナー部の床面から3cm上で出土しているだけである。種子の種類は不明である。

所見　本跡は，出土遺物が少なく時期判断は難しいが，重複関係及び，土師器の様相から９世紀前葉から後葉の間と推定される。

第100号住居跡（第30・31図）

位置　調査ⅡＢ区の西部，Ｅ３i8区。

重複関係　南部が第98号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸[4.00]m，短軸2.57mの長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－77°－Ｅ

壁　壁高は６～９cmで，外傾して立ち上がる。

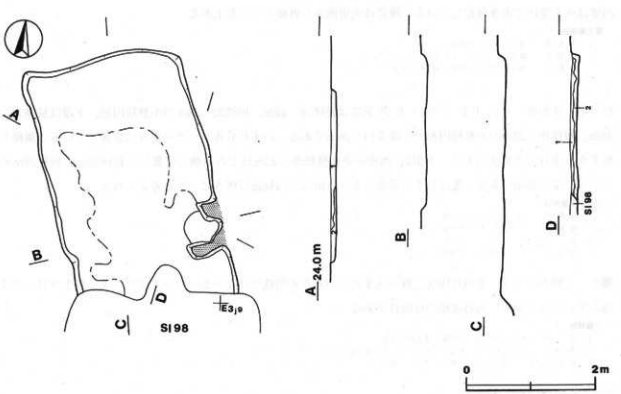
床　全面的に平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部に壁外への掘り込みがあり，焼土や砂質粘土粒子混じりの土が確認されたことから，竈が付設されていたと考えられるが，削平されているため形状・規模等は不明である。

覆土　褐色土主体の２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片37点，須恵器片21点，土製品１点（管状土錘）が出土している。出土遺物は少なく，ほとんどが細片である。第31図１の土師器坏は，覆土中から出土している。管状土錘は，覆土上層から出土しており，本跡に伴う遺物かどうかは不明である。



第30図　第100号住居跡実測図

所見　ピットと壁溝は確認できなかった。本跡は出土遺物が少なく，ほとんどが細片なため時期判断は困難であるが，重複関係と出土土器から，９世紀中葉と推定される。

第31図　第100号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図1	坏 土師器	B（1.7） C［6.4］	底部から体部外面にかけての破片。平底。	内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　スコリア 橙色 普通	10%　P48 覆土中

第101号住居跡（第32・33図）

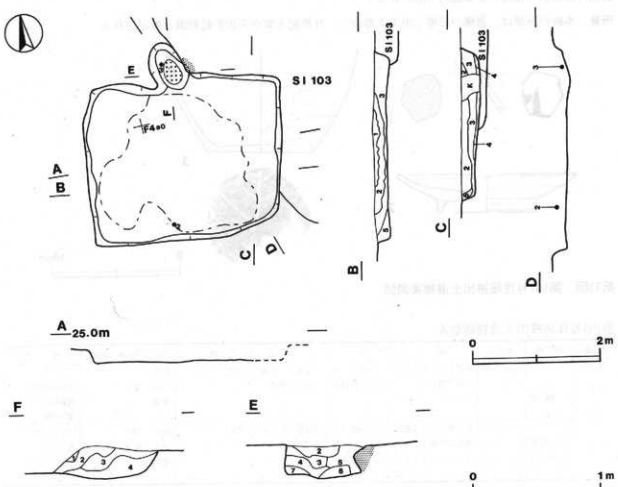
位置　調査ⅡB区の東部，F４a0区。

重複関係　東部で第103号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.62mの長方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は22～24cmで，外傾して立ち上がる。



第32図　第101号住居跡実測図

床　全面的に平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ54cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで82cm，両袖幅85cmである。撹乱によって両袖部及び天井部が壊されている。天井部は崩落しており，第3層が崩落土と考えられる。火床部は長径40cm，短径26cmの楕円形で，皿状に4cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分が確認された。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
2	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3	褐　色	砂質粘土中ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
4	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	焼土粒子・炭化物少量
6	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム小ブロック微量

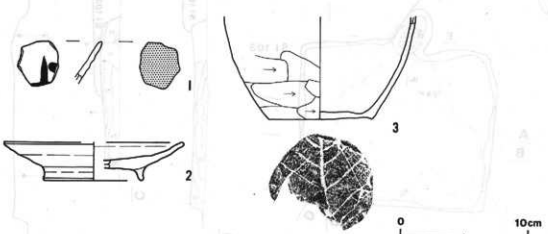
覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3	褐　色	焼土粒子少量
4	褐　色	焼土粒子・炭化物少量
5	褐　色	ローム粒子中量

遺物　土師器片68点，須恵器片59点，陶器細片1点が出土している。第33図1の土師器坏は覆土中層から出土している。体部側面に墨書されている。墨痕は明瞭であるが，遺存部分だけでは判読不能である。2の土師器高台付皿は，南壁付近の覆土中層から出土している。3の土師器小形甕は，竈内から逆位で出土している。陶器細片は後世の撹乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。



第33図　第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	坏 土師器	B〔3.6〕	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	5% P49 体部外面墨書・判読不能 覆土中層
2	高台付皿 土師器	A〔14.0〕 B 3.0 D 8.0 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して外方に開き，口縁部はわずかに外反する。高台はわずかに「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 にぶい褐色 普通	50% P50 覆土中層 (南壁付近)

図版番号	器種	前調値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図3	小形鉢土師器	B（8.1） C 8.2	底部から体部下位にかけての破片。 平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位横位のヘラ削り。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒 雲母 長石 橙色 普通	15% P51 覆内

第102号住居跡（第34・35図）

位置　調査ⅡB区の東部，E4j0区。

重複関係　南西部が第103号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.68m，短軸3.54mの方形である。

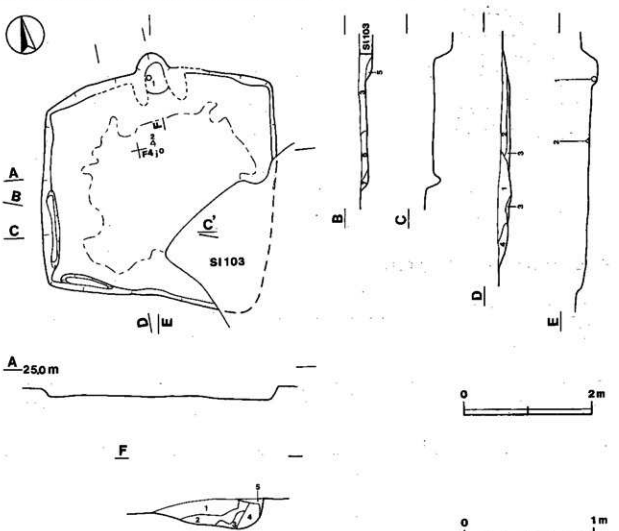
主軸方向　N－8°－E

壁　第103号住居に掘り込まれている東壁南部以外は残存し，壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナー付近で確認され，上幅12～16cm，下幅5～8cm，深さ8cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ30cmほど掘り込み，付設されている。焚口部から煙道部まで64cm，両袖幅80cmである。天井部は崩落している。撹乱により両袖部及び火床部も壊されており，火床面は確認できなかった。煙道



第34図　第102号住居跡実測図

は外傾して立ち上がる。

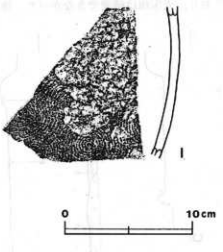
竈土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
2 にぶい褐色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 にぶい褐色　焼土粒子多量，炭化物・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
4 褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5 暗 褐 色　焼土粒子・炭化物微量

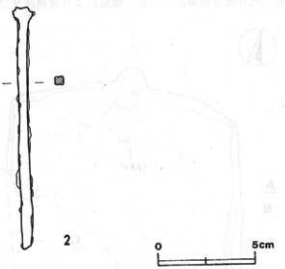
覆土　7層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒 褐 色　ローム大ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量
3 暗 褐 色　ローム中ブロック・粒子中量
4 褐　色　ローム中ブロック・粒子少量
5 褐　色　ローム中ブロック・粒子中量
6 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

遺物　土師器片39点，須恵器片14点，金属製品２点（不明鉄製品）が出土している。覆土が薄く，細片が多い。第35図１は須恵器甕の体部片で，竈内から出土している。外面に同心円状叩きが施されたもので，雲母を多量に含み，二次焼成を受けて赤変している。２は不明鉄製品で，中央部北寄りの床面から出土している。釘状のもので，先端を欠いている。

所見　本跡の時期は，出土土器から，８世紀中葉と推定される。





第35図　第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第35図 1	甕 須恵器	体部	外面同心円状の叩き。内面ナデ。指頭痕有り。	TP4　二次焼成 竈内 灰黄色

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第35図 2	不明鉄製品	(12.7)	1.1	0.4	(12.2)	床面直上（中央部）	M6　PL108

第103号住居跡（第36・37図）

位置　調査ⅡB区の東部，F4j0区。

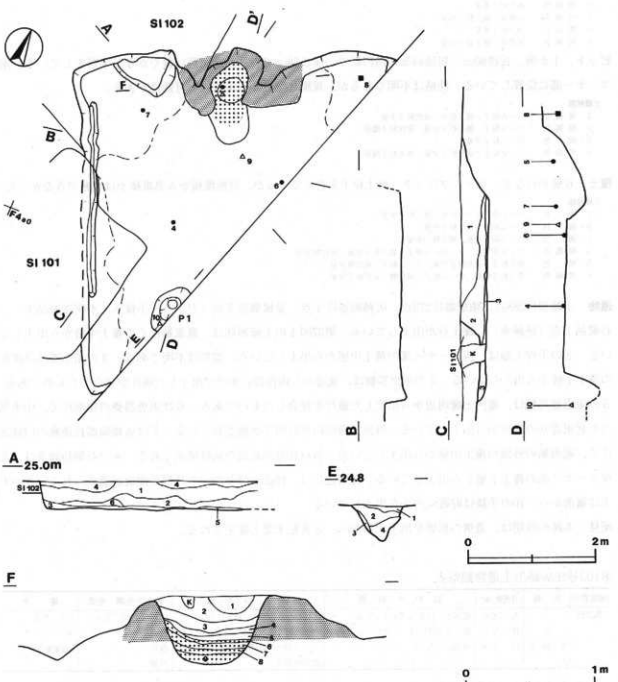
重複関係　南西部で第101号住居に掘り込まれ，北西部で第102号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南東部分が調査区域外に延びており，南西部が第101号住居に掘り込まれているので，規模も平面形も明確ではないが，残存する床や壁から，長軸［5.08］m，短軸［5.05］mの方形と推定される。

主軸方向［N－23°－W］

壁　北西壁と，重複部を除いた南西壁だけが残存し，壁高は42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西壁下で確認され，上幅8～12cm，下幅2～8cm，深さ12cmで，断面形は緩やかなU字形である。



第36図　第103号住居跡実測図

床　全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北西壁中央部に砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで143cm，両袖幅132cmである。壁外への掘り込みはほとんどなかった。天井部は崩落しているが，残存状況は良好である。第3層は火熱により焼土化の進んだ砂質粘土を多量に含んだ層で，天井部の崩落土と考えられる。両袖部は，地山のロームを一部掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。第5層は灰の層で，下部が赤変硬化しているため，火床面と思われる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　砂質粘土中ブロック多量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量
5　灰褐色　灰多量，焼土小ブロック中量
6　明褐色　焼土粒子多量
7　灰褐色　灰多量，焼土粒子少量
8　明褐色　焼土粒子多量
9　灰褐色　灰多量，焼土粒子少量

ピット　1か所。長径80cm，短径44cmの楕円形で，深さ58cmである。断面形は緩やかなU字形をしている。南コーナー部に位置している。性格は不明であるが，規模と配置から主柱穴の可能性がある。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　6層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

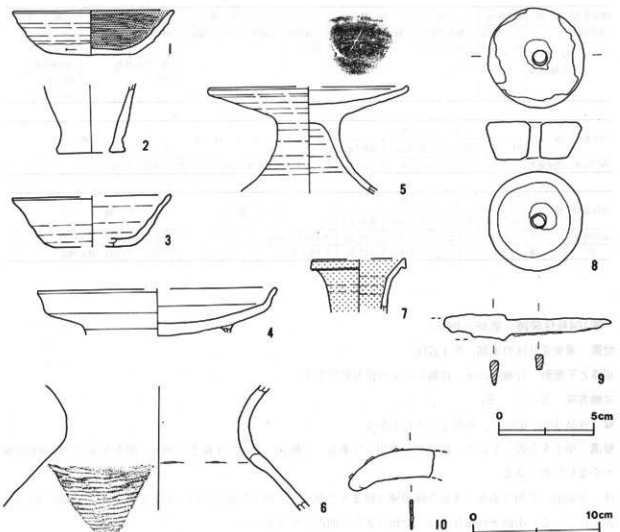
土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化物少量
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
6　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量

遺物　土師器片288点，須恵器片272点，灰釉陶器片1点，金属製品5点（刀子3・手鎌1・不明鉄製品1），石製品1点（紡錘車），礫1点が出土している。第37図1の土師器坏は，竈東袖近くの覆土中層から出土している。2の手捏土器は，西コーナー部の覆土中層から出土している。器形は不明である。3の須恵器坏は南部の覆土上層から出土している。4の須恵器盤は，竈前から南西部にかけて出土した破片が接合したものである。5の須恵器高盤は，竈内と竈周辺から出土した破片が接合したものである。6は須恵器甕の体部片で，中央部やや北東寄りの床面から出土している。外面に横位の平行叩きが施されている。7は灰釉陶器長頸瓶の口縁部片で，竈西袖の外側の覆土中層から出土している。折戸10号窯式期の猿投窯産である。8の石製紡錘車は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。孔周辺には，径2cmほどの三ケ月形の擦痕が認められる。9の刀子は竈前から，10の手鎌は貯蔵穴内から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，8世紀末葉と推定される。

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	坏 土師器	A 12.6 B 3.5 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英 橙色 普通	65%　P53 覆土中層 （竈東袖部付近）



第37図　第103号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 2	手捏土器 土師器	B（5.4） C　5.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい橙色　普通	30%　P58 置土中層 （西コーナー部）
3	坏 須恵器	A［12.5］ B　4.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒　長石　石英 灰色 普通	15%　P54 置土上層 （南部）
4	盤 須恵器	A［18.8］ B（3.6）	高台部から口縁部にかけての破片。底部突出。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台ははぼ垂下する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 黄灰色 普通 二次焼成	30%　P56 置土中 （竈付近～南西部）
5	盤 須恵器	A［15.9］ B（8.4）	脚部から口縁部の破片。脚部はラッパ状に開く。体部は，内彎気味に立ち上がる。口縁部は上位に明瞭な稜を持ち，つまみ上げられている。	口縁部から脚部内・外面ロクロナデ。脚部貼り付け後，ナデ。	砂粒　長石　石英 灰色 普通	50%　P55 体部内面ヘラ記号「十」 竈内 置土中（竈付近）
6	甕 須恵器	B（9.7）	体部上位から裾部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，裾部で屈曲する。	頸部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。輪積み痕。	雲母　長石　石英 灰色 普通	5%　P57 床面直上 （中央部）

図版番号	器種	計測値(cm)	形態の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 7	長頸瓶 灰釉陶器	A〔7.2〕 B〔4.1〕	口縁部の破片。口縁部は外反し，折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。釉刷毛塗り。	砂粒 灰オリーブ色 釉 暗灰黄色 良好	5% P59 層土中層 (道西端外側) 猿投窯産 (折戸10号窯式)

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第37図 8	石製紡錘車	4.1	2.0	0.8	47.3	滑石	覆土下層(北東コーナー部)	Q5 PL94

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第37図 9	刀子	(8.9)	1.2	0.4	(10.2)	床面直上(竈脇)	M7 PL101 刃部欠損
10	手鎌	(6.6)	2.1	0.2	(12.4)	P1覆土中	M8 PL103 鋒部残存

第104号住居跡（第38・39図）

位置　調査ⅡB区の東部，E4g7区。

規模と平面形　長軸4.18m，短軸3.38mの長方形である。

主軸方向　N−21°−E

壁　壁高は43～62cmで，外傾して立ち上がる。

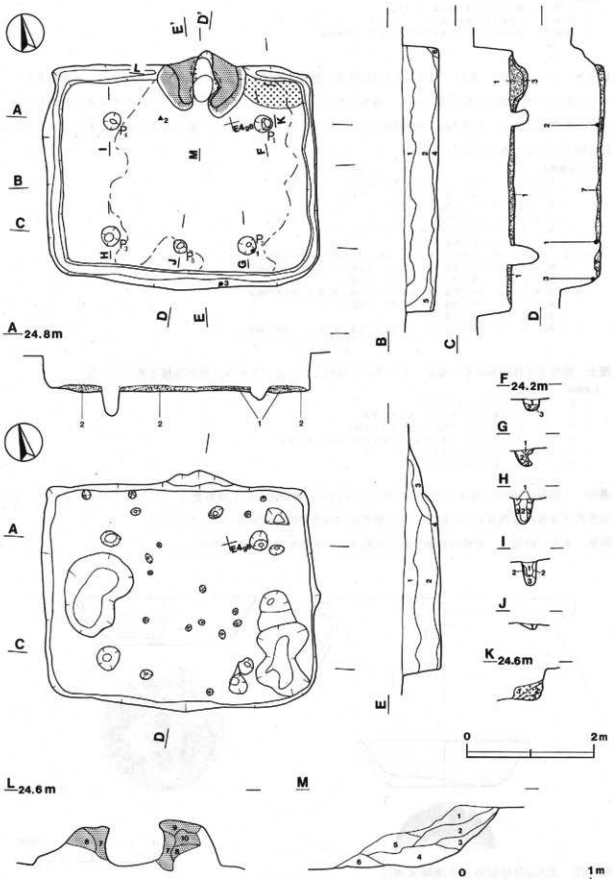
壁溝　壁下を全周している。幅はやや不均一である。上幅10～20cm，下幅2～16cm，深さ6cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　全面的に平坦である。床面全体が硬く締まった貼床で，粘土を混ぜたローム土を用い，3～10cmの厚さで貼られている。床面下の掘り方は，全体に著しい凹凸を呈する。

貼床土層解説
1 褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子多量，焼土粒子微量
2 褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3 褐色　ローム粒子・粘土粒子多量，ローム小ブロック少量

竈　北壁中央部に，壁外へ22cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで78cm，両袖幅148cmである。天井部は崩落しており，第1層と第5層が崩落土と考えられる。袖部は，ローム土を掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。土層断面図中，第7～11層が袖部の土層である。火床部は長径38cm，短径16cmの楕円形で，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。竈東側から，砂質粘土粒子を含んだ焼土層が確認された。床面に被熱痕が認められないことから，火床部の焼土を掻き出したものと思われる。

竈土層解説
1 明褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3 暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
4 褐色　ローム小ブロック中量，焼土中ブロック少量，焼土粒子微量
5 黒色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
6 暗褐色　ローム小ブロック多量
7 暗褐色　焼土中ブロック・砂質粘土粒子中量
8 黄褐色　粘土粒子多量
9 暗褐色　粘土小ブロック・粒子中量
10 明黄褐色　ローム粒子・砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック少量



第38図　第104号住居跡実測図

焼土土層解説
1 暗 褐 色　焼土小ブロック・砂質粘土粒子多量
2 暗 褐 色　砂質粘土粒子多量，焼土中ブロック中量
3 明 褐 色　ローム中ブロック・焼土大ブロック多量，炭化物中量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4の長径26～40cm，短径24～26cmの楕円形で，深さ23～40cmである。いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁中央の壁際から38cmほどの内側に位置し，長径26cm，短径18cmの楕円形で，深さ10cmである。竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

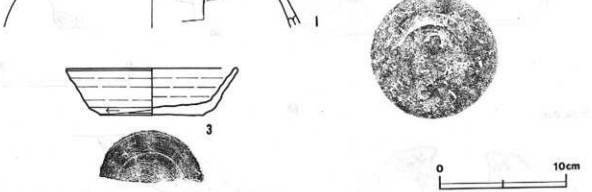
ピット土層解説
P1 1 暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3 褐　色　ローム粒子微量
P2 1 暗 褐 色　ローム粒子少量
2 褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
3 褐　色　ローム粒子少量
P3 1 暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
3 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
P4 1 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
3 褐　色　ローム粒子少量
P5 1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　褐色土主体の6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
2 暗　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
3 褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
4 褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，粘土粒子少量，砂質粘土粒子微量
5 褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
6 褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量

遺物　土師器片160点，須恵器片49点が出土している。第39図1の土師器甕は，P2の覆土中から正位で，2の須恵器坏は竈西袖部前から正位で，3の須恵器坏は南壁際から横位で出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，8世紀中葉と推定される。



第39図　第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	縄文土師器	A [20.4] B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 にぶい橙色 普通	5% P62 P2竪土中
2	坏 須恵器	A 14.2 B 3.8 C 10.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 灰色 普通	90% P60 PL68 床面直上 (竈西袖部前)
3	坏 須恵器	A 13.4 B 3.7 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内管気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部糸切り後，回転ヘラ削り。	砂粒　長石 黄灰色 普通	50% P61 床面直上 (南壁際)

第105号住居跡（第40・41図）

位置　調査ⅡB区の東部，E4h8区。

重複関係　南東部が第106号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.50mの長方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　第106号住居に掘り込まれている部分を除いて残存し，壁高は50～56cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周し，上幅8～20cm，下幅2～12cm，深さ6cmで，断面形は緩やかなU字形である。

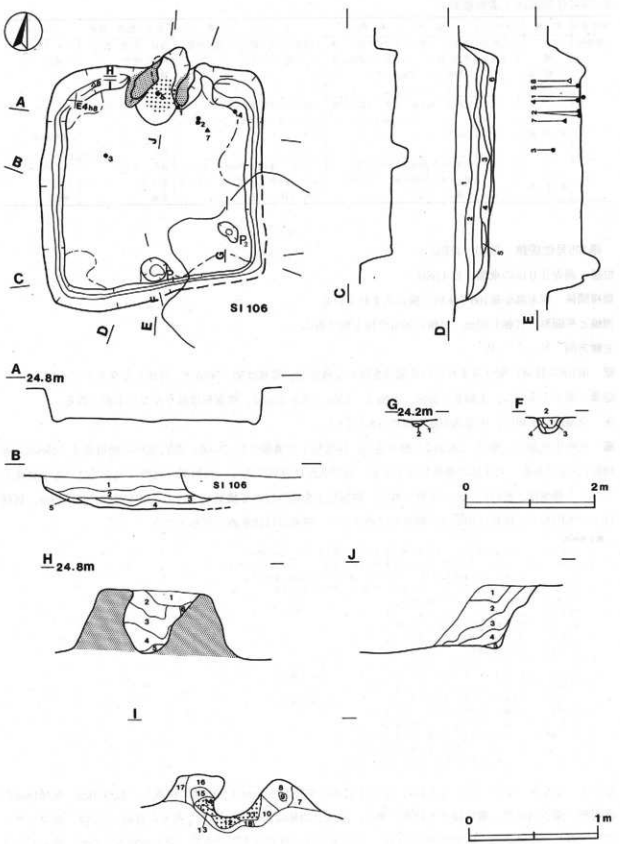
床　全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ28cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで158cm，両袖幅128cmである。天井部は崩落しているが，残存状況は良好である。両袖部の内側は火を受けて赤変硬化している。袖部は，地山のロームを掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は，長径18cm，短径14cmの楕円形で，皿状に10cmほど掘りくぼめている。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　粘土質子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5　明黄褐色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
6　明褐色　ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　オリーブ褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　オリーブ褐色　ローム粒子微量
10　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
12　明赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
13　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
14　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
15　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
16　オリーブ褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
17　オリーブ褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
18　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は，南壁中央部の壁際から10cmほど内側に位置し，長径20cm，短径18cmの楕円形，深さ24cmで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は，南コーナー部に位置し，長径40cm，短径18cmの楕円形，深さ8cmで，性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。



第40図　第105号住居跡実測図

ピット土層解説

P1	1	黒　　色	ローム粒子微量
	2	明 褐 色	ローム中ブロック微量
	3	暗 褐 色	ローム小ブロック微量
	4	褐　　色	ローム粒子少量
P2	1	暗 褐 色	炭化粒子中量
	2	褐　　色	ローム小ブロック中量

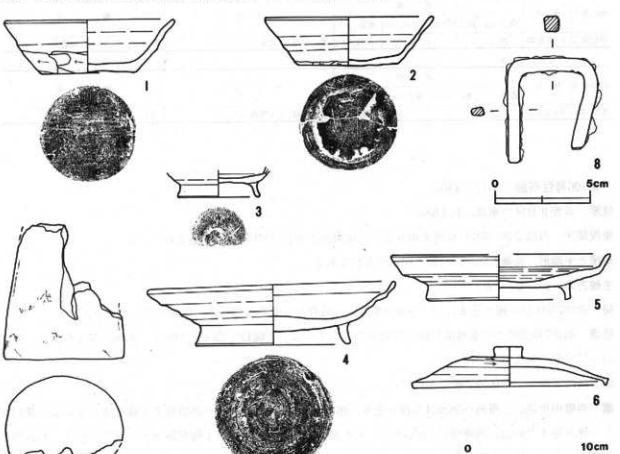
覆土　6層からなる。ロームブロックを含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

1	褐　　色	ローム中ブロック・粒子少量
2	褐　　色	ローム中ブロック多量
3	暗 褐 色	ローム小ブロック中量
4	褐　　色	ローム粒子少量
5	極暗褐色	ローム小ブロック少量
6	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片403点，須恵器片300点，土製品1点（支脚），金属製品3点（釘2・不明鉄製品1），礫2点が出土している。第41図1の須恵器坏は，竈東袖部外側の覆土下層から，2の須恵器坏は北東コーナー部の床面から出土している。3の須恵器高台付坏は中央部やや西寄りの覆土上層から正位で出土している。4の須恵器盤は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。5の須恵器盤は，竈焚口部から出土している。6の須恵器蓋は覆土中から出土している。7の土製支脚は，北東コーナー部の覆土中層から出土している。8の不明鉄製品は北壁際西寄りの覆土中層から出土している。門金具状で，一方が長い「コ」の字形に曲がっており，閂の可能性がある。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀前葉と推定される。



第41図　第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図1	坏 須恵器	A 13.2 B 4.2 C 7.6	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 灰色 普通	100% P63 覆土下層 (竪東袖部外側)
2	坏 須恵器	A 13.2 B 3.8 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 灰色 普通	95% P64 PL68 床面直上 (北東コーナー部)
3	高台付坏 須恵器	B (2.1) D 6.4 E 1.1	高台部から体部下位の破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 長石 灰色 普通	10% P65 底部外面ヘラ記号[+] 覆土上層 (中央部)
4	鉢 須恵器	A 19.3 B 5.0 D 12.1 E 1.7	完形。体部は内彎気味に外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 橙色 普通 酸化焔焼成	100% P66 PL68 覆土下層 (北東コーナー部)
5	壺 須恵器	A [17.0] B 3.6 D 11.3 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 灰黄色 普通	80% P67 竈内(焚口部)
6	壺 須恵器	A 15.2 B 3.2 F 2.3 G 0.9	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは扁高のボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	60% P68 覆土中

図版番号	種別	計測値 高さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第41図7	土製支脚	(10.2)	9.4	(3.5)	(491.2)	覆土中層 (北東コーナー部)	DP2 PL99 二次焼成

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第41図8	不明鉄製品	5.5	4.8	0.7	23.3	覆土中層(北壁際西寄り)	M9 PL105

第106号住居跡（第42・43図）

位置　調査ⅡB区の東部，E4h8区。

重複関係　西部で第105号住居跡を掘り込み，南東部が第107号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.83m，短軸2.70mの方形である。

主軸方向　N－75°－W

壁　第107号住居に掘り込まれている部分を除いて残存し，壁高は32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第107号住居との重複部を除いた壁下を巡っている。上幅12～22cm，下幅2～8cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

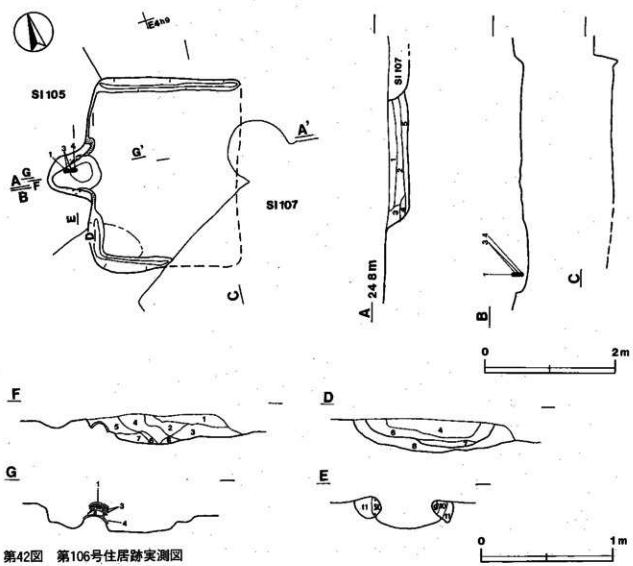
竈　西壁中央部に，壁外へ58cmほど掘り込み，第105号住居跡の覆土上に砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで98cm，両袖幅114cmである。天井部は崩落しており，第1層が崩落土と考えられる。両袖部の内側は，火を受けて赤変硬化している。土層断面図中，第9～11層が袖部の土層である。第7層は灰を多量に含んだ層で，第7層の下部が赤変硬化しているため，火床面と考えられる。火床部は，長径68cm，短径56cmの不整楕円形で，8cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1 暗　色　砂質粘土中ブロック中量，砂質粘土粒子少量
2 暗 褐 色　焼土粒子微量
3 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 明 褐 色　焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
5 赤 褐 色　焼土粒子多量
6 暗 褐 色　焼土粒子・炭化物中量
7 灰 褐 色　灰多量，炭化物少量，焼土小ブロック微量
8 暗 褐 色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
9 黒　色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
10 暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
11 褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

覆土　暗褐色土主体の5層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子・焼土粒子微量
2 暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3 明 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 褐　色　炭化粒子多量，ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
5 暗 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

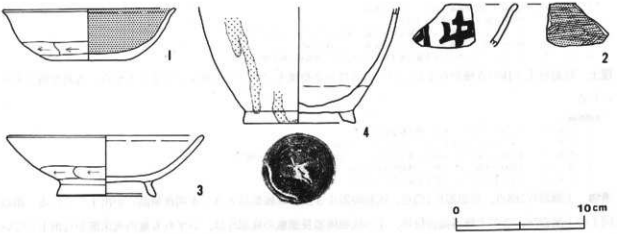
遺物　土師器片168点，須恵器片153点，灰釉陶器片3点，金属製品2点（不明鉄製品）が出土している。第43図1の土師器坏，3の土師器高台付坏，4の灰釉陶器長頸瓶の底部片は，いずれも竈の火床部から出土している。4は火床面に伏せた状態で出土している。黒笹14号窯式期の猿投窯産のものである。その上に3が，最後



第42図　第106号住居跡実測図

に1が重ねられた状態で出土している。二次焼成を受けた痕跡があることから，支脚に転用したものと思われる。2の土師器坏は，覆土中から出土している。体部外面に「仲」の墨書が認められる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第43図　第106号　住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.1 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母 にぶい橙色 普通 二次焼成	95%　P69　PL68 竈内(火床部) 支脚転用
2	坏 土師器	B（3.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒　石英 にぶい黄橙色 普通	5%　P71 体部外面墨書「仲」 覆土中
3	高台付坏 土師器	A 15.6 B 4.8 D 8.8 E 1.2	体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　石英　スコリア 橙色 普通 二次焼成	90%　P70　PL68 竈内(火床部)
4	長頸瓶 灰釉陶器	B（9.1） D 8.7 E 1.1	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は球形を呈するものとみられる。高台部は短く，「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。内面輪積み痕。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。釉は流し掛けか。	砂粒　長石 灰黄色 釉　灰オリーブ 良好 二次焼成	45%　P198　PL68 竈内(火床部) 猿投窯産 (黒笹14号窯式)

第107号住居跡（第44・45図）

位置　調査ⅡB区の東部，E 4 i9区。

重複関係　北西部で第106号住居跡を，北東部で第108号住居跡を，南東部で第419号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.98m，短軸3.90mの長方形である。

主軸方向　N－24°－W

壁　壁高は30～42cmで，外傾して立ち上がる。

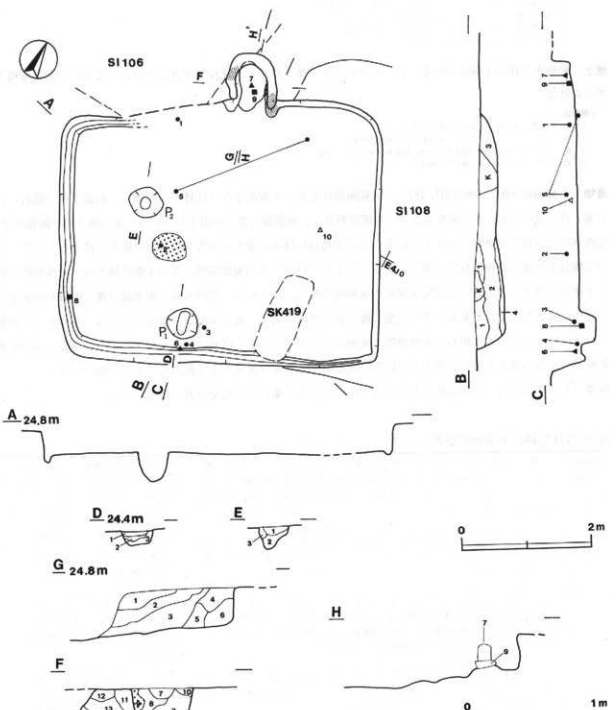
壁溝　南東壁下から南西壁下にかけて確認され，上幅18～32cm，下幅2～10cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

竈　北西壁中央部に，壁外へ74cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで92cm，両

袖幅86cmである。天井部は崩落しており，第4層が崩落土と考えられる。火床面は，床面と同じ高さの平坦面を使用している。火床部中央には，石塊が埋設されており，土製支脚がその上に立てられている。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1 褐　色　砂質粘土大ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
2 暗褐色　砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
3 明褐色　焼土中ブロック・砂質粘土中ブロック中量，炭化物少量
4 橙　色　焼土中ブロック中量
5 暗　色　焼土粒子少量
6 赤褐色　焼土中ブロック・砂質粘土粒子中量
7 黄褐色　砂質粘土粒子多量



第44図　第107号住居跡実測図

8 褐　色　焼土小ブロック・粒子中量
9 明褐色　焼土粒子多量
10 暗褐褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
11 赤褐色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
12 暗褐色　ローム粒子・砂質粘土粒子少量
13 褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
14 褐　色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は南東壁付近やや西寄りに位置し，径50cmの円形，深さ23cm。P2は，中央部西寄りに位置し，径52cmの円形，深さ48cmでいずれも性格は不明である。

ピット土層解説
P1 1 褐　色　ローム粒子・炭化物中量
2 暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3 暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
P2 1 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
3 褐　色　ローム中ブロック少量

覆土　褐色土主体の4層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

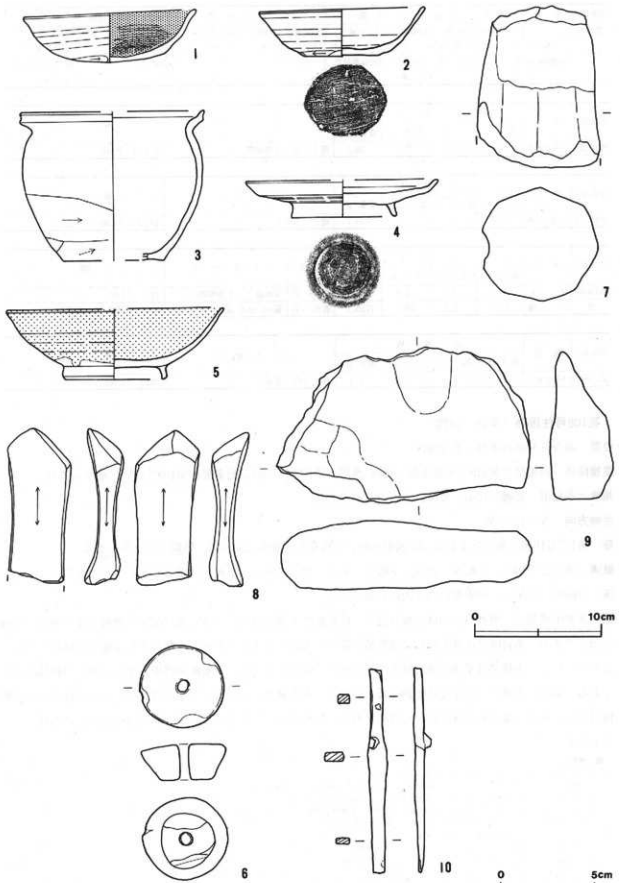
土層解説
1 褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
2 褐　色　ローム小ブロック・焼十粒子・炭化粒子少量
3 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土中ブロック中量
4 褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器片409点，須恵器片347点，灰釉陶器片2点，土製品2点（紡錘車・支脚），石器1点（砥石），石塊1点（雲母片岩），金属製品2点（不明鉄製品），陶器細片3点が出土している。第45図1の土師器坏は，北西壁近くの覆土下層から出土している。2の土師器坏は中央部やや西寄りの覆土中層から出土している。3の土師器小形甕は南西壁付近の覆土下層から出土している。4の須恵器盤と6の土製紡錘車は，南西壁際の覆土下層から出土している。5は尾北窯産の灰釉陶器椀で，東コーナー部の床面と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。7の土製支脚と9の雲母片岩は，竈火床部から出土している。9の上に7が据え付けられている。8の砥石は南西壁際の床面から出土している。砥面は凹レンズ状を呈している。10の不明鉄製品は東部の覆土下層から出土している。陶器細片は後世の攪乱により混入したものと思われる。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.0 C 5.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい橙色 普通	95% P74 PL68 覆土下層 (北西壁付近)
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.9 C 5.7	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい橙色 普通	100% P75 覆土中層 (中央部)
3	小形甕 土師器	A [14.4] B 11.7 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，横状工具による沈線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。内面横位のナデ。底部ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 明赤褐色 普通	35% P77 PL68 覆土下層 (南西壁付近)
4	盤 須恵器	A [15.0] B 2.9 D 8.1 E 1.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 灰白色 普通	50% P76 覆土下層 (南西壁際)



第45図　第107号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 5	椀 灰釉陶器	A [17.0] B 5.5 D 7.5 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台は角状で，「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒 灰黄色 良好	60% P.99 末西直上(東コーナー部) 覆土中層(中央部) 尾北窯産

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第45図 6	土製紡錘車	4.4	1.9	0.7	34.3	覆土下層（南西壁際）	D P 3 PL.98

図版番号	種別	計測値 高さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第45図 7	土製支脚	(12.6)	(9.5)	(7.3)	(750.1)	竈内（火床部）	D P 13 PL.99 二次焼成

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第45図 8	砥石	(10.2)	5.0	2.8	(155.2)	凝灰石	床面直上（北西壁際）	Q 6 PL.95
9	石鏃	19.8	5.5	10.5	1720.1	雲母片岩	竈内（火床部）	Q35 支脚転用 被熱痕

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第45図 10	不明鉄製品	16.2	1.6	0.8	59.4	覆土下層（東部）	M10 PL.107

第108号住居跡（第46～48図）

位置 調査ⅡB区の東部，E 4 h0区。

重複関係 南東部で第419号土坑を掘り込み，西部が第107号住居に，北東部が第109号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.16m，短軸5.08mの方形である。

主軸方向 N－11°－W

壁 第107号住居に掘り込まれている西壁を除いて残存し，壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し，上幅8～22cm，下幅2～8cm，深さ4cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床 全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に，壁外へ24cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで68cm，両袖幅43cmである。第14層には焼土化した砂質粘土粒子が多量に含まれており，天井部または袖部が崩落したものと考えられる。両袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。土層断面図中，第15～20層が袖部の土層である。袖部の内側は，火を受けて10cmほどの厚さで赤変硬化している。火床部は長径50cm，短径38cmの不整楕円形で，皿状に深さ8cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量
7 極暗褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8 黒褐色 焼土粒子少量，ローム中・小ブロック・粒子微量
9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10 黒褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子多量，焼土大ブロック微量
12 黒褐色 砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

14 赤 褐 色　焼土大ブロック多量
15 暗赤褐色　焼土中ブロック中量
16 明黄褐色　砂質粘土大ブロック多量
17 暗 褐 色　砂質粘土大ブロック中量
18 褐　色　砂質粘土粒子多量
19 明リーブ黒色　粘土粒子多量
20 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4の上端は径46～65cmの円形，下端は径20～28cmの円形で，深さは50～64cmである。いずれも各コーナー寄りに位置している。P2は，上端部分が崩落して広がっているが，本来は径42cmほどの円形と推測される。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は，南壁中央の壁際から64cmほどの内側に位置し，長径36cm，短径32cmの楕円形，深さ22cmで竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1 暗 褐 色　焼土小ブロック微量
2 暗 褐 色　焼土小ブロック少量
3 褐　色　焼土中ブロック多量
4 褐　色　焼土小ブロック少量
5 褐　色　焼土中ブロック少量
6 暗 褐 色　焼土小ブロック中量

覆土　8層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

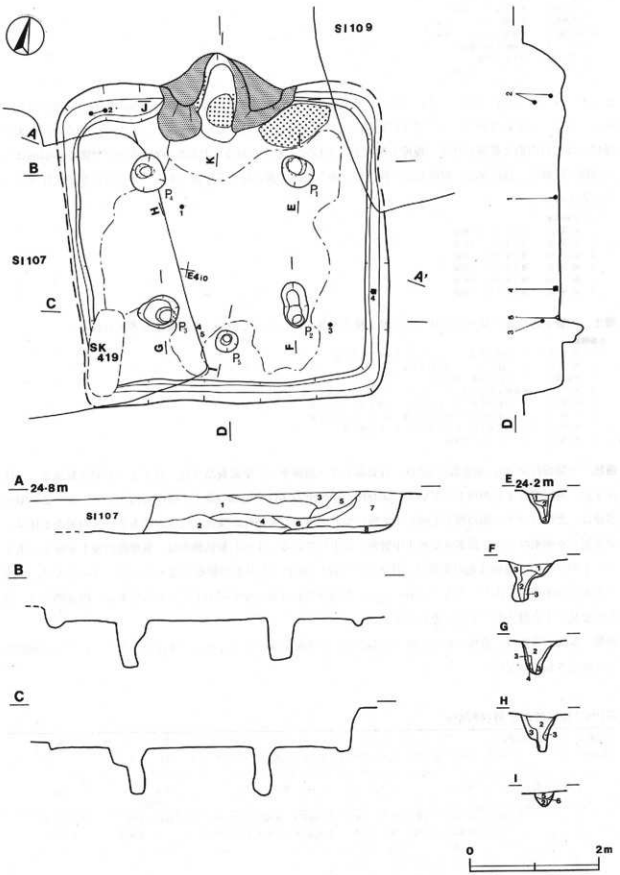
土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
2 褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
3 黒褐褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4 明 褐 色　砂質粘土粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
5 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
6 暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量
7 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
8 黄 褐 色　ローム大ブロック多量

遺物　土師器片545点，須恵器片393点，石製品1点（紡錘車），金属製品3点（刀子1・不明鉄製品2），鉄滓1点，陶器細片1点が出土している。第48図1の須恵器坏は中央部の覆土下層から出土している。2の須恵器盤は，北西コーナー部の覆土上層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。3の須恵器鉢は，中央部やや南東コーナー部寄りの覆土中層から出土している。4の石製紡錘車は，東壁際の覆土下層から出土したものである。器面は光沢を帯び，孔周辺には径1.6mmの三ケ月形の擦痕が認められる。5の刀子は，中央部南寄りの床面から出土したものである。6の不明鉄製品は覆土中から出土したものである。陶器細片は，後世の撹乱により混入したものと思われる。

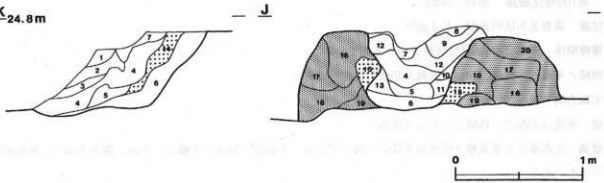
所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀前葉と推定される。鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

第108号住居跡出土遺物観察表

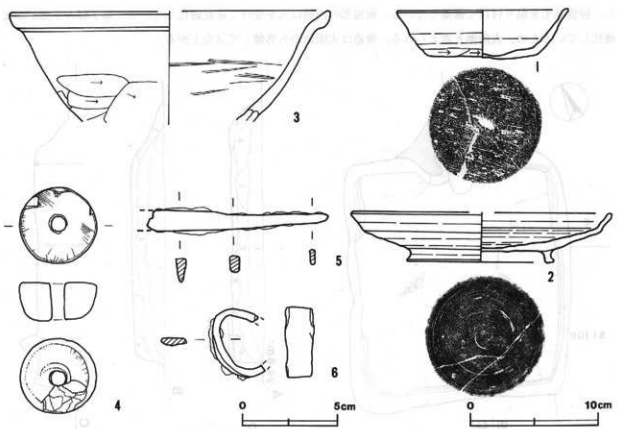
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第48図 1	坏 須恵器	A 13.4 B 3.9 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部～方向のヘラ削り。	砂粒　長石 灰灰色 普通 二次焼成	90%　P78　PL69 覆土下層 （中央部）
2	盤 須恵器	A 20.0 B 3.9 D 11.6 E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削りの。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母 にぶい黄橙色 普通	60%　P79 覆土上層～ 覆土中層 （北西コーナー部）
3	鉢 須恵器	A [25.2] B (8.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部で屈曲する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下半部横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 灰褐色 普通	30%　P80 覆土中層 （南東コーナー部）



第46図　第108号住居跡実測図（1）



第47図　第108号住居跡実測図(2)



第48図　第108号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第48図4	石製紡錘車	5.0	1.9	0.7	60.4	頁岩	覆土下層（東壁付近）	Q7　PL94

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第48図5	刀子	(9.6)	1.1	0.4	(12.2)	床面直上（中央部）	M11　PL101　刀身部欠損
6	不明鉄製品	(3.7)	1.5	0.4	(10.1)	覆土中	M12　PL108

第109号住居跡（第49・50図）

位置　調査ⅡB区の東部，E 4 g0区。

重複関係　南部で第108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.40mの長方形である。

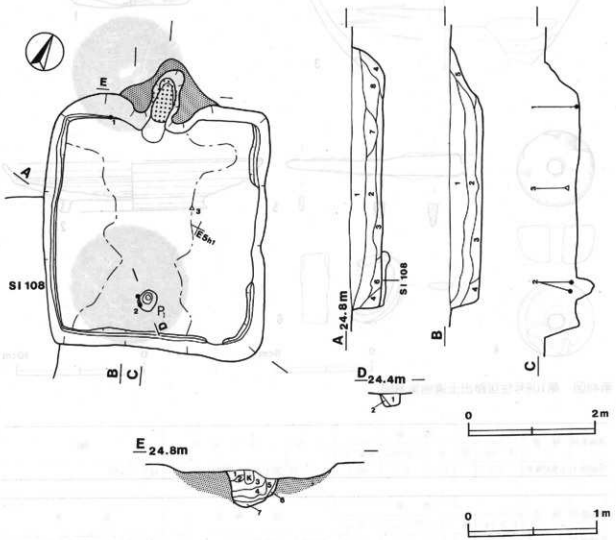
主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西壁下と北東壁下中央部を除いて巡っている。上幅22～38cm，下幅2～7cm，深さ3cmで，断面形はU字形である。

床　竈前面から出入り口付近にかけて踏み固められ，4～8cmほど高くなっている。

竈　北西壁中央部に，壁外へ58cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで165cm，両袖幅120cmである。天井部は崩落しているが，他の残存状況は良好である。袖部は，地山のロームを掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。両袖部の内側は火を受けて赤変硬化している。第7層の下部が赤変硬化しているため，火床面と考えられる。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。



第49図　第109号住居跡実測図

竈土層解説

1 黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
6 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7 黄 褐 色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・灰少量

ピット　1か所。南東壁中央の壁際から40cmほどの内側に位置し，長径32cm，短径29cmの円形，深さ20cmで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

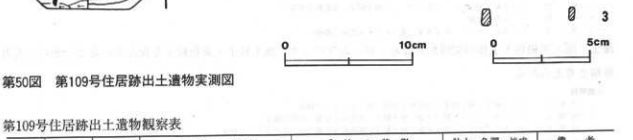
覆土　8層からなる。ロームブロックや焼土粒子を含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3 暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4 暗 褐 色　ローム粒子少量
5 褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
6 暗 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
7 明 褐 色　ローム中ブロック多量
8 暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片318点，須恵器片210点，金属製品1点（不明鉄製品）が出土している。図示した土器はいずれも土師器である。第50図1の土師器坏は北壁側の覆土下層から出土している。側面に「前東」と墨書されている。2の土師器高台付皿は，P1西側の覆土中層から出土した4片が接合したものである。3の不明鉄製品は，中央部の覆土中層から出土したものである。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第50図　第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第50図 1	坏 土師器	A 12.7 B 4.4 C 6.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 スコリア にぶい橙色 普通	55%　P81　PL.59 体部外面墨書「前東」 覆土下層 （北壁際）
2	高台付皿 土師器	A 13.6 B 3.1 D［7.8］ E 0.8	高台部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外方に開き，口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 にぶい赤褐色 普通	65%　P82 覆土中層 （P1西側）

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第50図 3	不明鉄製品	（5.8）	1.0	0.4	（8.3）	覆土中層（中央部）	M13　PL.107

第110号住居跡（第51～54図）

位置　調査ⅡB区の西部，E3g8区。

重複関係　北西部が第118号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.30m，短軸6.85mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　第118号住居に掘り込まれている西壁北部から北壁西部を除いて残存し，壁高は34～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下から西壁下にかけて確認され，上幅11～20cm，下幅2～12cm，深さ2～4cmで，断面形は逆台形である。

床　全面的に平坦で，中央部が踏み固められている。中央部北寄りに焼土層が確認された。床面に被熱痕がないことと，炭化材や炭化物等も確認されなかったことから，住居廃絶後，投棄されたものと考えられる。

竈　北壁中央部に壁外への掘り込みがあり，床面が凹状に掘りくぼめられ焼土や砂質粘土が堆積していることから，竈があったと考えられるが，床面より上部が削平されているため，形状・規模等は不明である。

竈土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
2　黄褐色　砂質粘土粒子中量
3　暗褐色　焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4の上端は長径56～89cm，短径46～66cmの不整楕円形，下端は長径20～34cm，短径10～22cmの楕円形で，深さは30～62cmである。いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁中央の壁際から64cmほど内側に位置し，長径60cm，短径48cmの不整楕円形，深さ42cmで竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は，南西コーナー部に位置し，長径60cm，短径54cmの不整楕円形，深さ34cmで，性格は不明である。

ピット土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　暗・黒褐色土主体の32層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　黒褐色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
12　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　褐　色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
14　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
15　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
16　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
17　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
18　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
19　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
20　褐　色　炭化粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量
21　褐　色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子中量
22　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
23　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

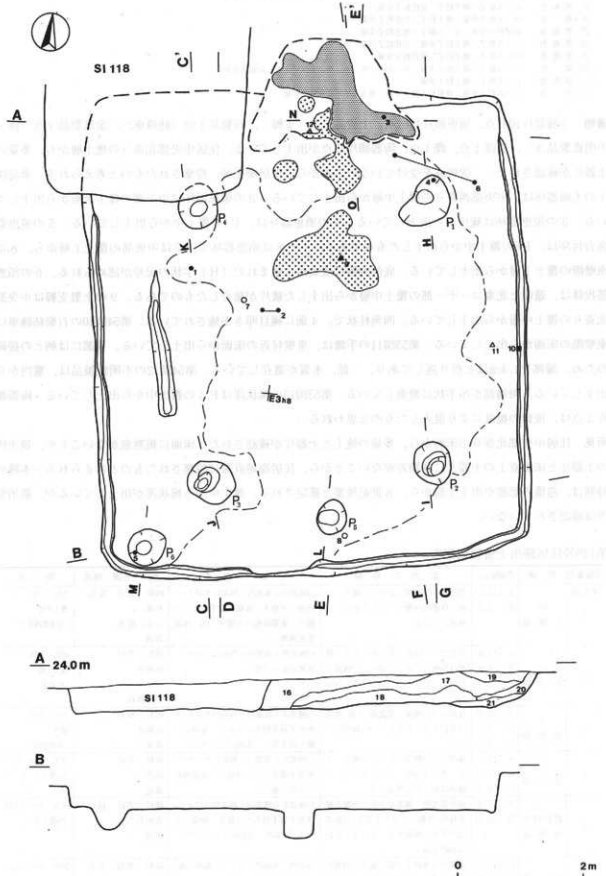
24 明赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量
25 黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
26 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
27 黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
28 黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
29 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
30 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
31 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
32 褐　色　ローム粒子多量，砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片1091点，須恵器片1002点，土製品1点（支脚），石製品1点（紡錘車），金属製品4点（鎌・不明鉄製品3），鉄滓1点，礫1点，陶器細片2点が出土している。住居中央部北寄りの焼土層から，多量の土器片が確認された。二次焼成を受けていないことから，住居廃絶後，投棄されたものと考えられる。第53図1の土師器坏は，中央部西寄りの覆土中層から出土している。2の須恵器坏は中央部の覆土上層から出土している。3の須恵器坏は竈内から出土している。4の須恵器坏は，P1の覆土中から出土している。5の須恵器高台付坏は，P6の覆土中から出土したものである。7・8は須恵器坏で，7は中央部の覆土上層から，8は南壁際の覆土下層から出土している。底部内側に焼成後に刻まれた「日」字状の記号が認められる。6の須恵器捏鉢は，竈前と北東コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。9の土製支脚は中央部北寄りの覆土中層から出土している。四角柱状で，4面に縄目叩きが施されている。第54図10の石製紡錘車は東壁際の床面から出土している。第53図11の手鎌は，東壁付近の床面から出土している。茎部には柄との接続のため，端部を1.4cmほど折り返してあり，一部，木質が遺存している。第54図12の不明鉄製品は，竈内から出土している。両端部が吊手状に彎曲している。第53図13の椀状滓はP4の覆土中から出土している。陶器細片3点は，後世の攪乱により混入したものと思われる。

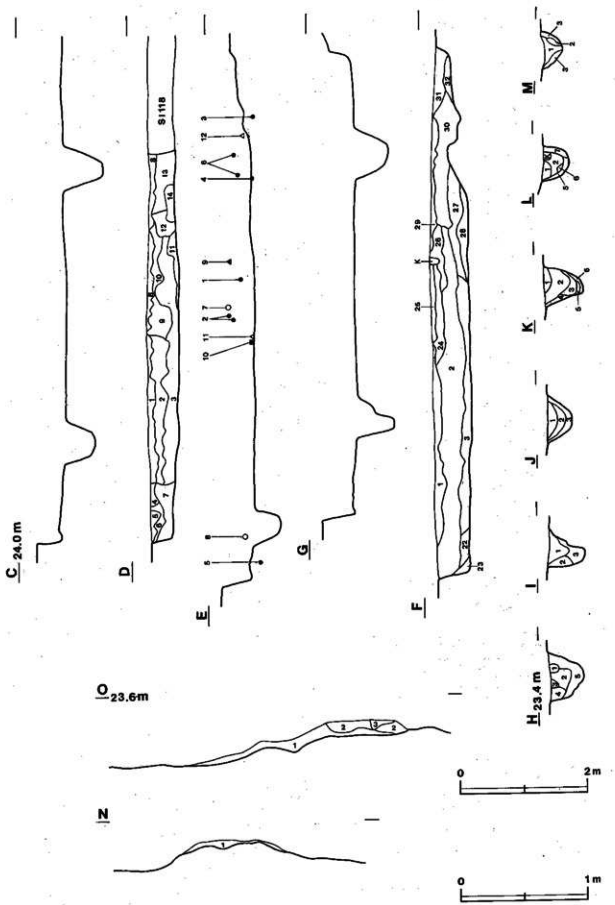
所見　住居中央部北寄りの床面から，多量の焼土と土器片が確認された。床面に被熱痕がないことや，焼土内の土器片と床面直上の土器とに時期差がないことから，住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，8世紀後葉と推定される。覆土中から椀状滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

第110号住居跡出土遺物観察表

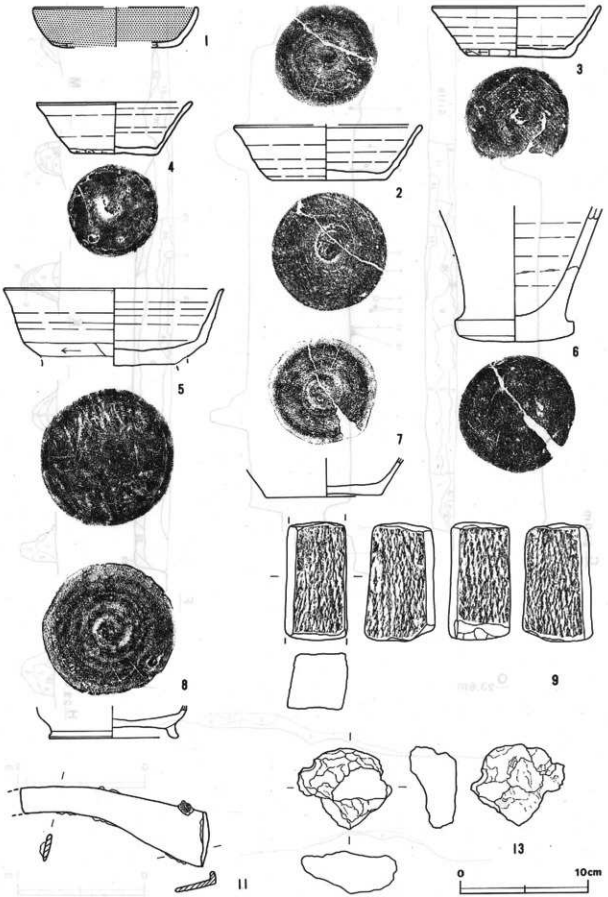
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第53図 1	坏 土師器	A [12.8] B 3.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい橙色 普通	20%　P83 覆土中層 (中央部西寄り)
2	坏 須恵器	A [14.8] B 3.9 C 9.2	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒　雲母 灰黄色 普通 二次焼成	80%　P84 覆土上層 (中央部)
3	坏 須恵器	A 13.3 B 4.1 C 7.7	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒　長石 灰褐色 普通	70%　P85 竈内 (東袖部内)
4	坏 須恵器	A 12.0 B 4.3 C 6.4	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り離し。	砂粒　雲母 灰色 普通	60%　P85 PL69 P1覆土中
5	高台付坏 須恵器	A 17.2 B (6.1)	高台部欠損。体部は下位に明瞭な稜を持ち，外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。高台貼り付けの痕跡を残す。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 黄灰色 普通	80%　P87 PL69 P6覆土中
6	捏鉢 須恵器	B (10.7) C 9.0	底部から体部下半部の破片。円盤状の厚い平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。輪積み痕。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 灰色 普通	50%　P89 PL69 覆土中層 (竈東袖部前，北東コーナー部)



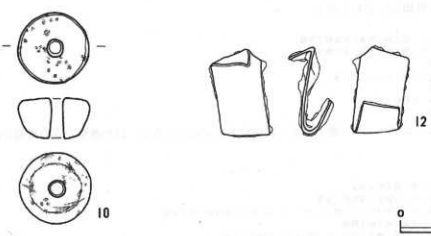
第51図　第110号住居跡実測図(1)



第52図　第110号住居跡実測図(2)



第53図　第110号住居跡出土遺物実測図（1）



第54図　第110号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第53図7	坏 須恵器	体部～底部	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	TP46　体部内面ヘラ記号「H」字状 覆土上層（中央部） 黄灰色
8	坏 須恵器	体部下端～高台部	体部は内彎して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	TP47　体部内面ヘラ記号「H」字状 覆土下層（南壁付近） 灰白色

図版番号	種別	計測値 高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第53図9	土製支脚	(9.2)	4.6	4.3	(283.2)	覆土中層（中央部北寄り）	DP4　PL99　二次焼成

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第54図10	石製紡錘車	3.7	2.1	0.8	42.1	滑石	床面直上（東壁際）	Q8　PL94

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第53図11	手鎌	(15.5)	4.3	0.4	(55.2)	床面直上（東壁付近）	M14　鍛部欠損　木質付着
第54図12	不明鉄製品	4.5	2.4	0.2	14.4	覆土下層（竈内）	M15　PL109
第53図13	楕状津	6.5	7.3	3.7	164.3	P4覆土中	M107

第111号住居跡（第55・56図）

位置　調査ⅡB区の北西部，E3d8区。

重複関係　第43号掘立柱建物のP5～7・16に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.74mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は28～34cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ58cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで114cm，両袖幅146cmである。煙道部・天井部は崩落しているが，その他の残存状況は良好である。両袖部の内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は長径40cm，短径36cmの不整楕円形で，火熱を受けて赤変している。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用している。天井部は崩落しており，第2・4層が崩落土と考えら

れる。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

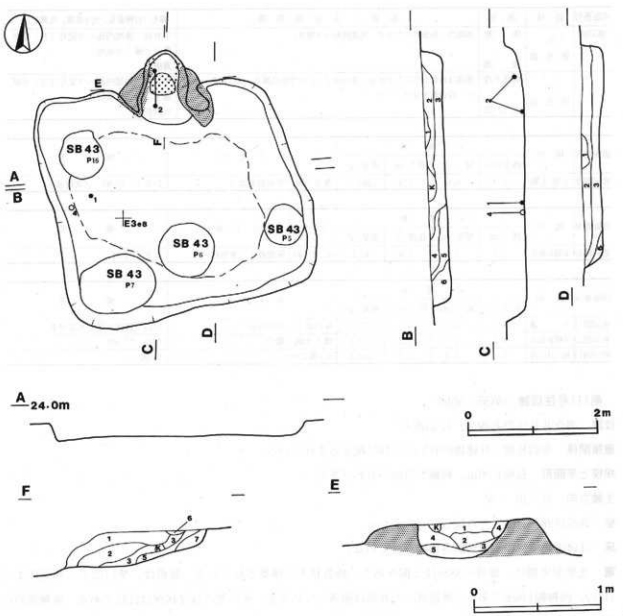
竈土層解説

1 褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
2 暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物少量
3 赤褐色　焼土粒子多量
4 暗褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量
5 暗赤褐色　焼土粒子多量
6 暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
7 褐　色　焼土粒子少量

覆土　6層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

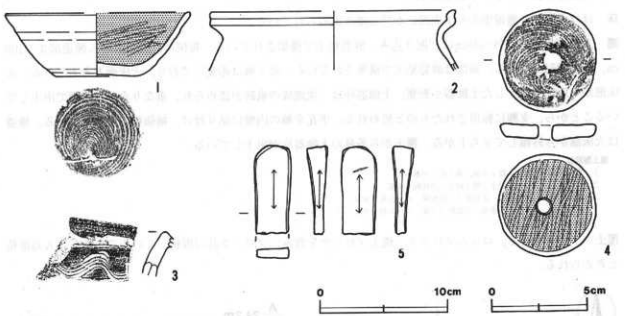
1 極暗褐色　ローム中ブロック・焼土粒子少量
2 褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗褐色　焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
5 暗褐色　ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 明褐色　ローム中ブロック多量，焼土小ブロック・粒子微量



第55図　第111号住居跡実測図

遺物　土師器片389点，須恵器片345点，土製品１点（紡錘車），石器１点（砥石），金属製品２点（刀子・不明鉄製品）が出土している。第56図１の土師器坏は，西壁付近の床面から出土している。２の土師器甕は竈内から出土している。３の須恵器甕は覆土中から出土している。撹乱により混入したものと考えられる。外面に櫛描波状文が施されている。４の土製紡錘車は西壁際の覆土下層から出土している。土師器坏の底部を転用したものである。５の砥石は覆土中から出土している。平面形が長方形で，四つの長側面に擦痕が認められる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀末葉から10世紀初頭と推定される。



第56図　第111号住居跡出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	坏 土師器	A [14.4] B 5.0 C 6.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部糸切り。内面黒色処理。	砂粒 雲母 スコリア 橙色 普通	30% P90 床面直上 （西壁付近）
2	甕 土師器	A [19.2] B (4.6)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 橙色 普通	10% P91 竈内

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第56図 3	甕 須恵器	口縁部～頸部	口縁部から頸部内・外面ロクロナデ。頸部外面に４条の櫛歯状工具による波状文が施されている。	TP7 覆土中 黄灰色

図版番号	種別	計測値 径（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第56図 4	土製紡錘車	5.3	0.8	0.8	23.1	覆土下層（西壁際）	DP5 PL98 土師器坏底部片を転用

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第56図 5	砥石	(6.9)	2.9	1.7	(40.2)	凝灰岩	覆土中	Q9 PL95

第112号住居跡（第57・58図）

位置　調査ⅡB区の西部，E３f9区。

規模と平面形　長軸2.72m，短軸2.35mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は28～35cmで，外傾して立ち上がる。

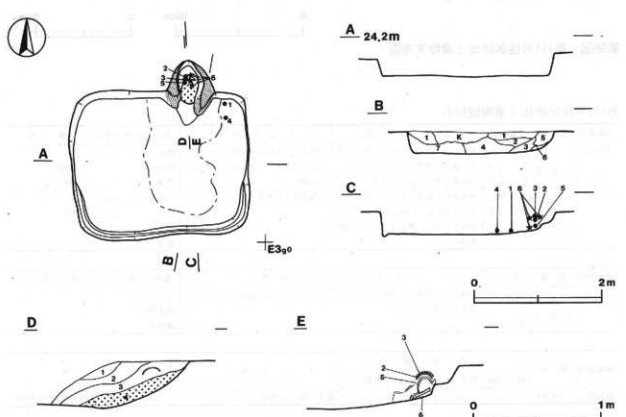
壁溝　東壁下中央部から南壁下，西壁下中央部にかけて確認された。上幅12～16cm，下幅２～６cm，深さ３cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁東部に，壁外へ48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖幅84cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。第４層は赤変しており，火床面と考えられる。火床部から逆位で出土した土師器小形甕，土師器坏は二次焼成の痕跡が認められ，重なり合った状態で出土していることから，支脚に転用されたものと思われる。平瓦を袖の内壁に貼り付け，補強材に使用している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。覆土から多量の土師器片が出土している。

竈土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・灰中量，ローム粒子少量
4　暗褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量

覆土　７層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

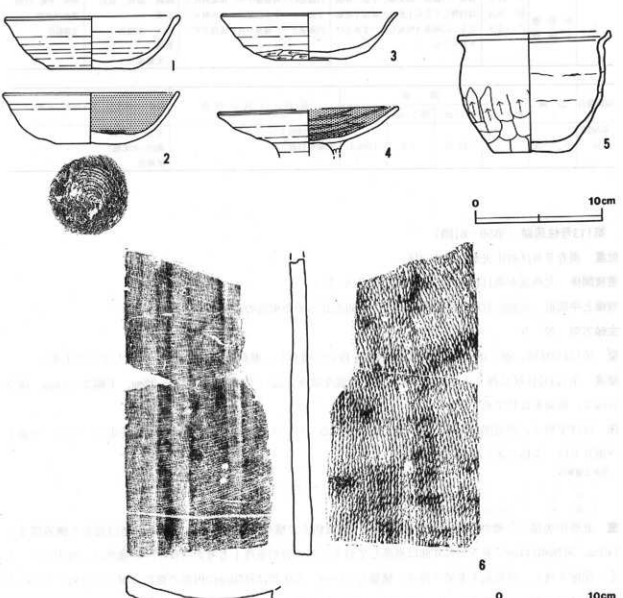


第57図　第112号住居跡実測図

土層解説
1 暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
3 褐　色　砂質粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
4 褐　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量
6 暗褐色　焼土大ブロック中量，ローム小ブロック・炭化物少量，炭化粒子微量
7 褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片143点，須恵器片77点，瓦片１点が出土している。図示した土器はいずれも土師器である。第58図１の土師器坏と４の土師器高台付皿は，北東コーナー部の床面から逆位で出土している。２・３の土師器坏，５の土師器小形甕，６の平瓦は，竈火床部から出土している。５が逆位で据えられ，その上に２が重ねられた状態で出土している。火熱を受けており，支脚に転用されていたと思われる。６は，支脚の周りから出土した破片が接合したものである。器表は火熱を受けて赤変しており，天井や内壁の補強材として使用されたものが崩落したものと考えられる。凹面には布目圧痕が認められ，凸面には縄目叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀後葉と推定される。



第58図　第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.3 C 6.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。端部は丸く収めている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい黄色 普通	90% P93 PL69 床面直上 (北東コーナー部)
2	坏 土師器	A 13.8 B 4.0 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り痕を残す不定方向のヘラナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい橙色 普通 二次焼成	90% P94 竈内(火床部) 支脚転用
3	坏 土師器	A 14.0 B 3.6 C 5.2	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 スコリア 石英 にぶい橙色 普通	100% P92 PL69 竈内(火床部)
4	高台付皿 土師器	A [14.2] B (3.7)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して外方に開き，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	30% P95 床面直上 (北東コーナー部)
5	小形甕 土師器	A 12.0 B 9.4 C 5.9	体部・口縁部・一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，胴部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部縦位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい赤褐色 普通 二次焼成	80% P96 PL69 竈内(火床部) 支脚転用

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	器形・手法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
第58図 6	平瓦	(32.2)	(15.5)	2.0	(1360.4)	凸面縄目叩き。 凹面布目痕。	T2 PL114 竈内(火床部) 灰褐色 二次焼成

第113号住居跡（第59～61図）

位置 調査ⅡB区の中央部，E4i4区。

重複関係 北西部が第114号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.37m，短軸5.05mの，西辺と北ぺやや東辺の長い方形である。

主軸方向 N－0°

壁 第114号住居に掘り込まれている北壁西部を除いて残存し，壁高は44～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 第114号住居に掘り込まれている北壁下西部を除き，巡っている。上幅20～32cm，下幅2～14cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。ローム土に焼土を混ぜた土で床を貼っている。床面下の掘り方は，全体に著しい凹凸を呈する。

貼床土層解説
1 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2 褐 色 ローム中ブロック・粒子多量，焼土粒子微量
3 褐 色 ローム中ブロック・粒子多量

竈 北壁中央部に，壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，両袖幅144cmである。天井部は崩落しており，第4層が崩落土と考えられる。両袖部は，地山のロームを一部掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は径50cmの円形で皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1 褐　色　焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
2 明褐色　焼土小ブロック中量
3 褐　色　焼土小ブロック少量
4 暗褐色　焼土小ブロック中量
5 暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
6 黄褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
7 暗褐色　粘土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色　焼土大ブロック多量
9 黒褐赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
10 黒褐色　粘土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
11 暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
12 褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
13 赤褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・粘土中ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
14 にぶい黄褐色　粘土大ブロック多量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4の上端は長径32～42cm，短径26～34cmの円形，下端は長径12～26cm，短径10～21cm，深さ22～40cmの楕円形である。いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は，南壁中央の壁際から94cmほど内側に位置し，長径22cm，短径18cmの楕円形，深さ18cmで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1 暗褐色　ローム小ブロック微量
2 明褐色　ローム小ブロック多量
3 褐　色　ローム中ブロック少量
4 褐　色　ローム小ブロック少量
5 褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
6 明褐色　ローム中ブロック中量

覆土　13層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

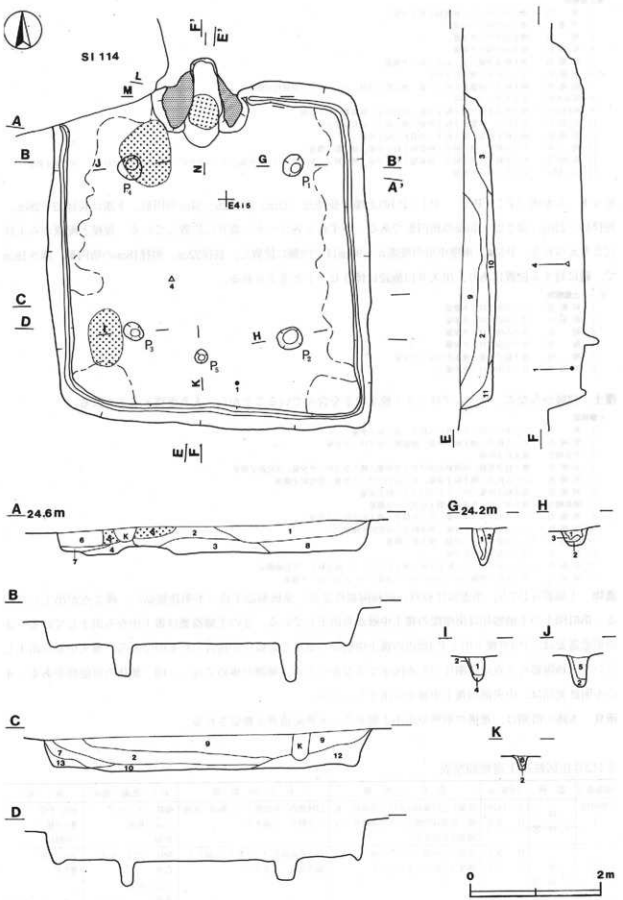
土層解説
1 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2 明褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土小ブロック少量
3 明赤褐色　焼土粒子中量
4 赤褐色　焼土粒子多量，砂質粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
5 明褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6 明褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
7 明赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック微量
8 明褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
9 暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 明褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子微量
11 橙　色　ローム大ブロック中量
12 暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
13 暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片157点，須恵器片87点，灰釉陶器片２点，金属製品１点（不明鉄製品），礫２点が出土している。第61図１の土師器坏は再燎際の覆土中層から出土している。２の土師器甕は覆土中から出土している。３の須恵器蓋は，P3の覆土中とP3周辺の覆土中層から出土した破片が接合したものである。覆土中から出土している灰釉陶器片２点は，細片のため図示できなかったが，釉調が極めて近く，同一個体の可能性がある。４の不明鉄製品は，中央部の覆土中層から出土している。

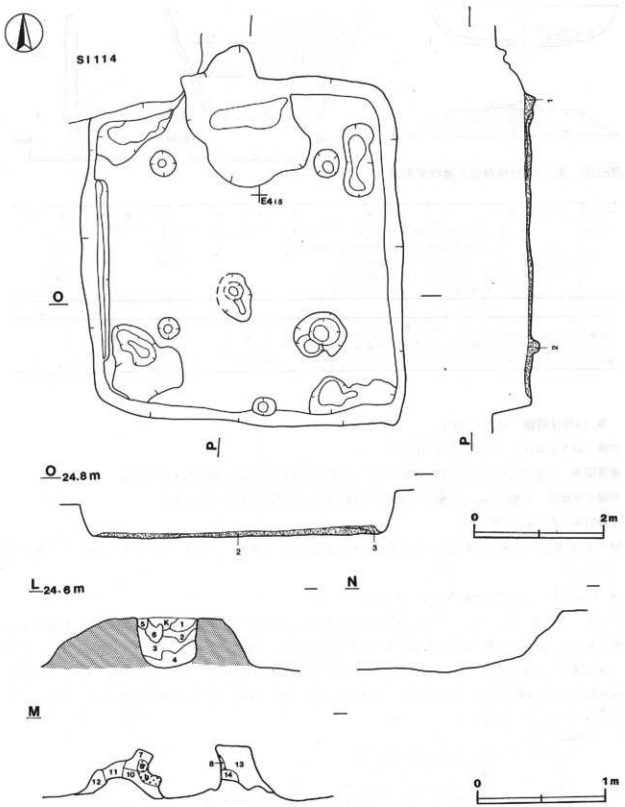
所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀前葉と推定される。

第113号住居跡出土遺物観察表

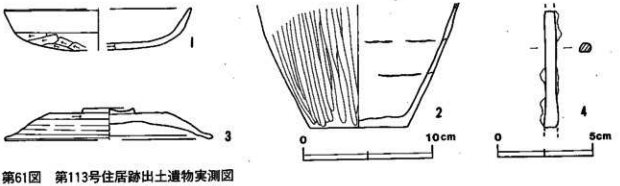
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	坏 土師器	A [14.6] B 3.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 スコリア にぶい橙色 普通	40% P97 覆土中層 (南壁付近)
2	甕 土師器	B (9.2) C 7.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面据位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい橙色 普通	20% P99 覆土中



第59図　第113号住居跡実測図（1）



第60図　第113号住居跡実測図(2)



第61図　第113号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 3	壺 須恵器	A [16.3] B 2.5 F 4.1 G 0.5	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部内部に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒　雲母　長石 灰色 普通	45%　P98 覆土中層 (P3調査、P3覆土中)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第61図 4	不明鉄製品	(6.2)	0.8	0.5	(5.1)	覆土中層（中央部）	M17　PL107

第114号住居跡（第62・63図）

位置　調査ⅡB区の中央部，E4h4区。

重複関係　南東部で第113号住居跡を掘り込み，北東部が第115号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.28m，短軸3.90mの，東辺と北ぺやや西辺の長い方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　第115号住居に掘り込まれている北壁から東壁北部を除いて残存している。壁高は29～40cmで，外傾して立ち上がる。

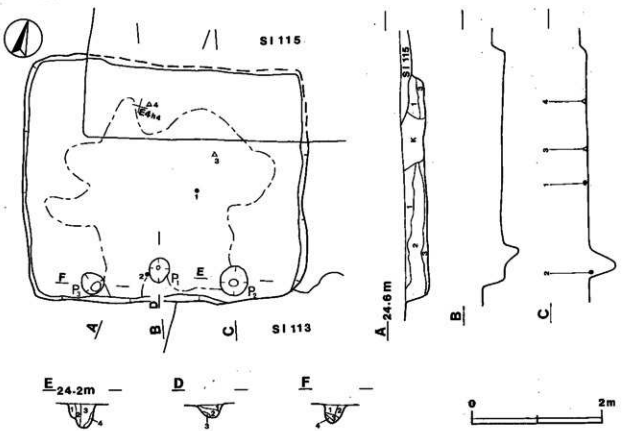
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　3か所（P1～P3）。P1は，南壁中央の壁際から40cmほどの内側に位置し，長径38cm，短径30cmの楕円形，深さ28cmで，竈に対する位置にあり，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3の上端は径36～44cmの円形，下端は長径12～16cm，短径10～12cmの楕円形で，深さは16～32cmである。いずれも南壁際の，P2は東寄りに，P3は西寄りに位置している。性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

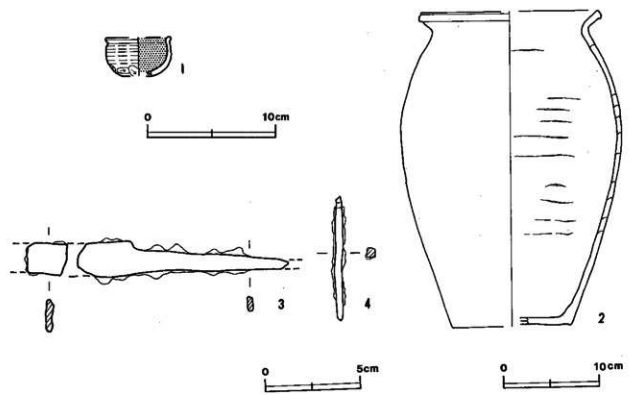
ピット土層解説

P1	1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
	2	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
	3	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
P2	1	暗褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量
	2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
	3	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
	4	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
P3	1	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
	2	褐　色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
	3	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
	4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量

覆土　3層からなる。第115号住居に掘り込まれ明確ではないが，ロームブロックや焼土ブロックを含んでいることから，人為的に埋め戻された可能性がある。



第62図　第114号住居跡実測図



第63図　第114号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片251点，須恵器片240点，石器１点（砥石），金属製品２点（刀子・釘）が出土している。第63図１の土師器ミニチュア土器は中央部覆土下層から出土している。２の土師器甕は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。３の刀子は中央部の，４の不明鉄製品は北壁付近のいずれも覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀中葉と推定される。

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第63図 1	ミニチュア土器 土師器	A［5.0］ B 3.0 C［2.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頂部で屈曲して口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位横位のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 橙色 普通	40% P101 覆土下層 (中央部)
2	甕 土師器	A［18.4］ B 32.5 C［12.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位でわずかに内彎する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 明赤褐色 普通	40% P100 覆土下層 (南部)

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第63図 3	刀　子	(13.7)	1.8	0.4	(15.3)	覆土下層（中央部）	M18　PL101　刀身部欠損
4	不明鉄製品	6.5	0.4	0.4	4.2	覆土下層（北壁付近）	M19　PL107

第115号住居跡（第64・65図）

位置　調査ⅡＢ区の中央部，Ｅ４g4区。

重複関係　南西部で第114号住居跡を掘り込み，北東コーナー部が第418号土坑に，北部が第432号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.68m，短軸3.95mの長方形で，北東コーナー部だけは，やや丸みをおびている。

主軸方向　Ｎ－17°－Ｗ

壁　壁高は14～24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　重複している部分を除いて巡っている。上幅８～18cm，下幅２～14cm，深さ２～４cmで，断面形はＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで86cm，両袖幅109cmである。袖には，補強材として丸瓦及び平瓦が貼り付けられている。両袖部の内側は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は長径43cm，短径39cmの楕円形で，皿状に８cmほど掘りくぼめている。火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。第11層は赤変し，ブロック状の焼土が含まれているため，火床面と考えられる。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

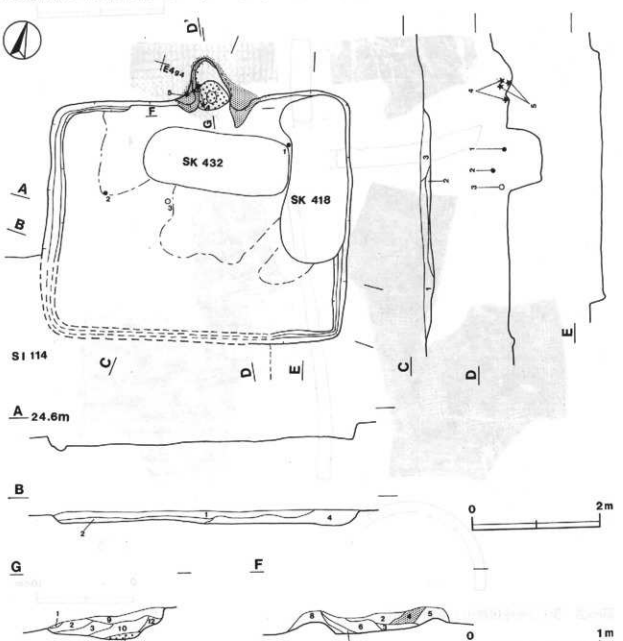
竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量
6　暗　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
8　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量

10 褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，炭化物少量
11 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
12 明赤褐色　焼土粒子多量

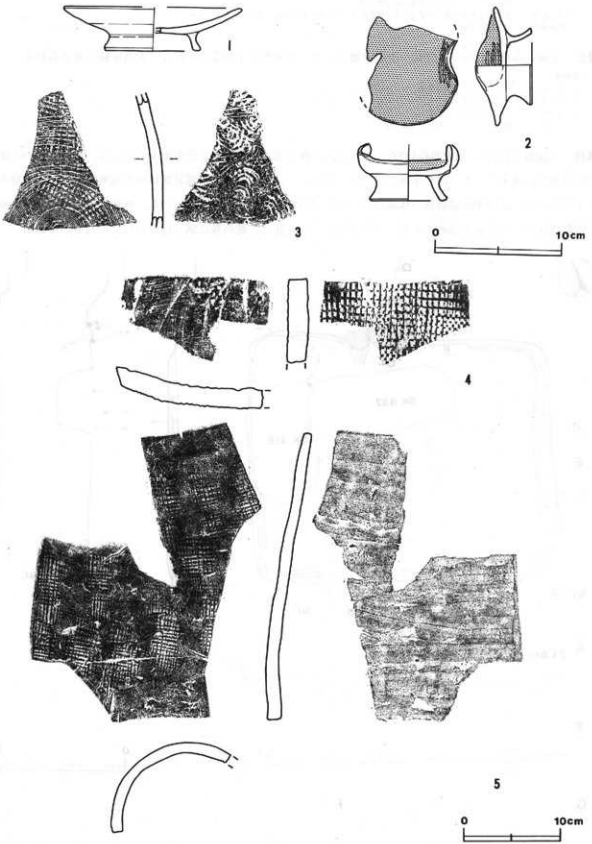
覆土　4層からなる。ロームブロック及び焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子中量
2 明赤褐色　炭化粒子多量，焼土大ブロック中量，ローム粒子少量
3 明 褐 色　ローム中ブロック多量
4 赤 褐 色　焼土大ブロック中量，炭化物微量

遺物　土師器片179点，須恵器片113点，瓦片2点，礫1点，陶器細片2点が出土している。第65図1の土師器高台付皿は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。2の土師器耳皿は中央部西寄りの覆土上層から出土している。3の須恵器提瓶の体部片は，中央部の覆土下層から出土している。外面にはカキ目が，内面には同心円状の当て具痕が認められる。4の平瓦，5の丸瓦は，竈の袖に貼り付けられていたものである。二次



第64図　第115号住居跡実測図



第65図　第115号住居跡出土遺物実測図

焼成を受けている出土状況や遺物の状況から判断して竈内壁及び天井の補強材として使用されていたと考えられる。陶器細片は後世の攪乱により混入したものと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀末葉から10世紀初頭と推定される。

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 1	高台付土師器	A［13.8］ B 3.5 D［7.5］ E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して外方に開き，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。	砂粒 雲母 長石 石英 橙色 普通	35% P102 竈前庭上 (北東コーナー部)
2	耳皿土師器	A［9.3］ B 4.4 D 6.0 E 2.1	口縁部一部欠損。体部は二か所が内側に丸く折り曲げられている。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面一部ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	70% P103 PL70 覆土上層 (中央部西寄り)

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第65図 3	紡錘形土製品	体部	外面ケキ目。内面同心円状の当て具痕。	TP8 PL70 覆土ド層（中央部） 灰白色

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第65図 4	平瓦	(9.0)	(15.5)	2.2	(339.2)	凸面格子叩き。 凹面布目痕。	T3 PL110 竈内 二次焼成 にぶい橙色
5	丸瓦	(27.8)	(12.0)	1.5	(856.4)	凸面格子叩き。 凹面ヘラ削り。	T4 PL110 竈内 二次焼成 明褐灰色

第116号住居跡（第66・67図）

位置　調査ⅡB区の北西部，E３e9区。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸3.58mの，西辺より東辺の長い方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は25～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下中央部を除いた壁下を巡っている。上幅14～22cm，下幅２～８cm，深さ3cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。床は，焼土を混ぜたローム土を用い，４～６cmの厚さで貼られている。掘り方は，北東コーナー部に長径112cm，短径90cmの楕円形，中央部に一辺44cmほどの方形，深さ40cmの掘り込みが確認された。性格は不明である。

貼床土層解説
1 褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子中量
掘り方土層解説
1 褐色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
2 暗色　ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子微量
3 褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5 暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

竈　北壁中央部に，壁外へ72cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，両袖幅122cmである。両袖部は，地山のロームを一部掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。

火床部は長径42cm，短径34cmの楕円形で，皿状に深さ4cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐　色　ローム大ブロック多量，焼土中ブロック・粘土小ブロック少量
3 灰褐色　砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック中量
4 赤褐色　焼土中ブロック・砂質粘土粒子中量
5 明褐色　砂質粘土粒子多量，焼土中ブロック中量
6 明褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
7 灰褐色　砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック中量
8 黄褐色　焼土小ブロック少量

覆土　4層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいるが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量
2 褐　色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
3 暗褐色　ローム大ブロック中量
4 暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量

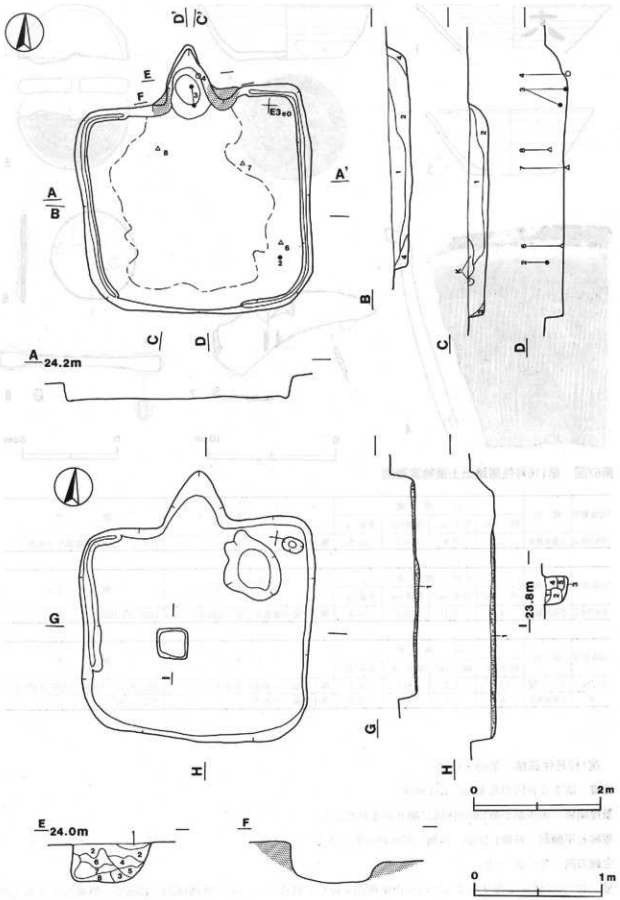
遺物　土師器片325点，須恵器片203点，土製品1点（紡錘車），金属製品3点（手鎌・不明鉄製品2）が出土している。第67図1の須恵器坏は覆土中から出土している。体部外面に「十八」と墨書されている。2の須恵器坏は，南東コーナー部の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。3の須恵器坏は，竈内から出土している。4の須恵器鉢は，竈内から出土したもので，外面に縦位の平行叩きが施され，雲母を多量に含んでいる。5の土製紡錘車は覆土中から出土したもので，土師器坏の底部を転用している。6の不明鉄製品は南東コーナー部の床面から出土している。7の手鎌は中央部北東寄り床下土層から，須恵器の坏及び甕とともに出土している。本跡に伴うものかどうかは不明である。8の不明鉄製品は中央部北寄りの覆土中層から出土している。

所見　本跡は，床下の土層から，手鎌，須恵器の坏及び甕が出土している。本跡に伴うものかどうかは不明であるが，住居構築時に祭祀的な意味からこれらの遺物が埋設された可能性も考えられる。当遺跡からは，第121号住居跡の掘り方からも灰釉陶器椀，土師器坏及び須恵器甕等が出土している。本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。

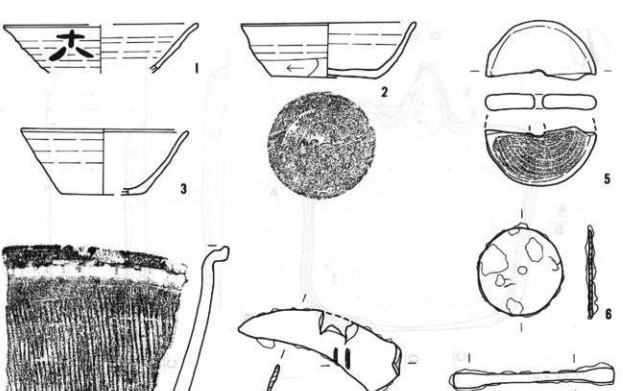
第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 1	坏 須恵器	A［15.2］ B（3.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい黄色 普通	10% P106 PL70 体部外面墨書「十八」 覆土中
2	坏 須恵器	A 13.6 B 4.4 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい黄色 普通	95% P104 PL70 底部ヘラ記号［＋］ 覆土上層 （南東コーナー部）
3	坏 須恵器	A 13.2 B 5.1 C 6.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 橙色 普通	60% P105 PL70 竈内

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第67図 4	鉢 須恵器	体部 ～ 口縁部	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。内面横ナデ。	TP9　二次焼成 竈内 黄灰色



第66図　第116号住居跡実測図



第67図　第116号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種　別	計測値 径（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第67図5	土製紡錘車	5.8	0.8	0.8	(16.6)	覆土中	DP12　土師器坏底部片を転用

図版番号	種　別	計測値 径（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第67図6	不明鉄製品	4.6	0.1	0.1	16.2	覆土下層（南東コーナー部付近）	M20　PL109

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第67図7	手　鎌	13.1	4.2	0.4	30.1	覆土下層（中央部北東寄り）	M21　PL103　刃身部一部欠損　木質付着
8	不明鉄製品	8.7	1.3	0.4	12.3	覆土中層（中央部）	M22　PL107

第117号住居跡（第68・69図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4b9区。

重複関係　南西部が第130号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸4.07mの方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　第130号住居に掘り込まれている南壁西部を除いて残存している。壁高は30～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下を除いて巡っている。上幅20～26cm，下幅３～12cm，深さ４cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ10cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，両袖幅140cmである。両袖部は良好に遺存している。火床部は径58cmの円形で，深さ10cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	粘土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
2	黒褐色	粘土粒子中量，砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
3	にぶい褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，粘土粒子微量
4	極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
5	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　３か所（P1～P3）。P1は，南壁中央の雌際から20cmほど内側に位置し，径60cmの円形，深さ9cmで，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は，南東コーナー部に位置し，長径57cm，短径46cmの楕円形，深さ14cmである。P3は，南西コーナー部に位置し，長径50cm，短径38cmの楕円形，深さ17cmである。P2・P3ともに性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

P1	1	褐　色	焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック微量
	3	明褐色	ローム中ブロック中量
P2	1	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
	3	褐　色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
P3	1	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
	2	褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量
	3	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
	4	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量

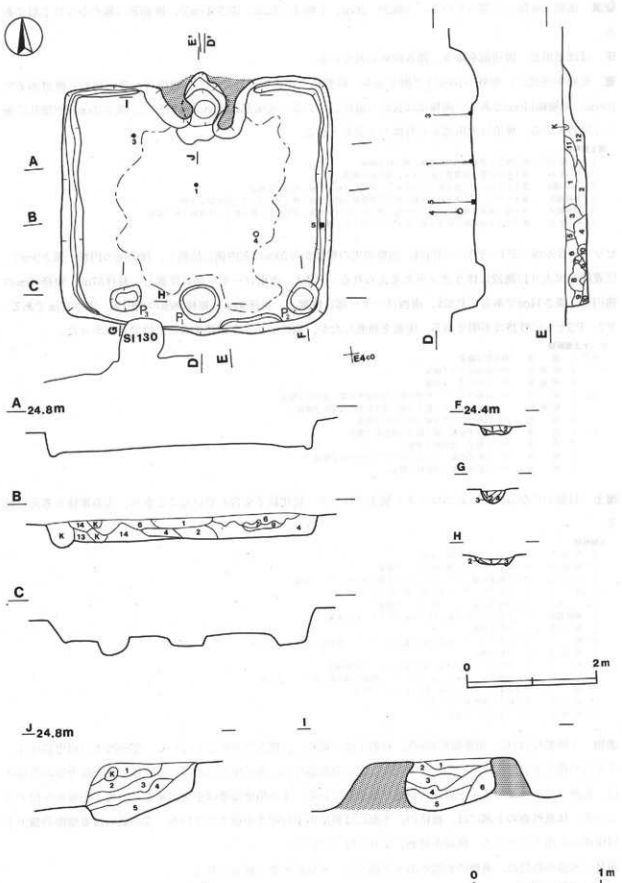
覆土　14層からなる。ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

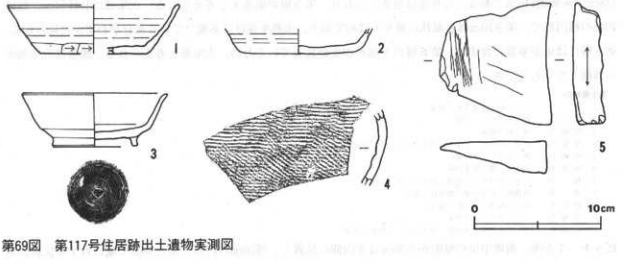
1	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
4	褐　色	ローム中ブロック・粒子中量，焼土小ブロック少量
5	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6	極暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量
7	褐　色	ローム粒子少量
8	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土大ブロック少量
9	暗褐色	ローム粒子微量
10	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
11	褐　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土小ブロック少量
12	褐　色	砂質粘土大ブロック中量，焼土小ブロック少量
13	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
14	明褐色	ローム小ブロック中量

遺物　土師器片143点，須恵器片138点，石器１点（砥石），礫３点が出土している。第69図１の須恵器坏は，中央部の覆土下層から正位で出土している。２の須恵器坏は，覆土中から出土している。３の須恵器高台付坏は，北西コーナー部の覆土下層から斜位で出土している。４の須恵器甕は中央部東寄りの覆土中層から出土している。体部外面の上部には，横位の，下部には斜位の平行叩きが施されている。５の砥石は東壁際の覆土下層床面から出土している。側面が研磨によりくぼんでいる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀後葉と推定される。



第68図　第117号住居跡実測図



第69図　第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 1	坏 須恵器	A [13.4] B 3.8 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 明黄褐色 普通	30% P109 覆土下層 (中央部)
2	坏 須恵器	B (2.0) C 9.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り離し。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア にぶい黄色 普通	25% P110 覆土中
3	高台付坏 須恵器	A 11.4 B 4.3 D 6.4 E 0.7	口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部周転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 黄灰色 普通	90% P111 PL79 火襷痕 覆土下層 (北西コーナー部)

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第69図 4	甕 須恵器	体部	外面横位の平行叩き。一部斜位の平行叩き。内面横ナデ。	TP10 黄灰色 覆土中層（中央部東寄り）

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅〈cm〉	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第69図 5	砥石	(9.4)	8.9	2.5	(216.4)	凝灰岩	覆土下層（東壁際）	Q10 PL95

第118号住居跡（第70・71図）

位置　調査ⅡB区の西部，E3f8区。

重複関係　南東部で第110号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.15mの長方形である。南東コーナーだけは丸みをおびている。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西コーナー部の壁下にL字状に認められ，上幅12～20cm，下幅6～10cm，深さ4cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

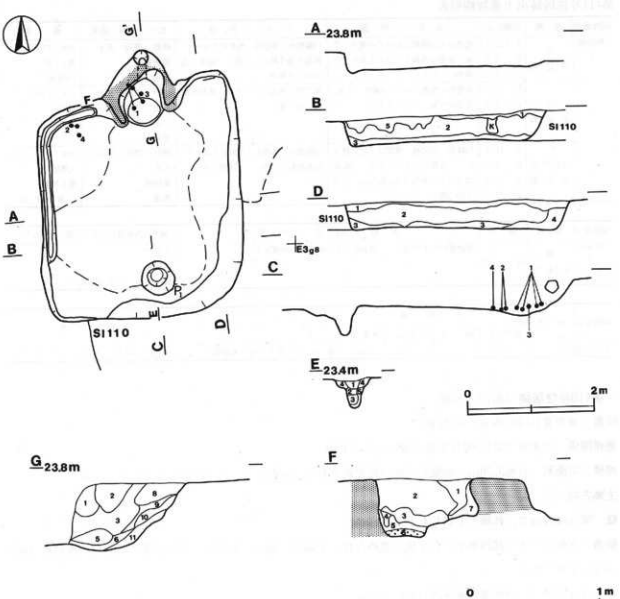
竈　北壁中央部に，壁外へ60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで

118cm，両袖幅116cmである。天井部は崩落しており，第５層が崩落土と考えられる。火床部は長径54cm，短径40cmの楕円形で，深さ10cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。第６層には灰が多量に含まれ，第６層の下部が赤変硬化しているため，火床面と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	明褐色	焼土小ブロック少量
3	暗褐色	焼土粒子微量
4	明褐色	ローム中ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物少量
5	暗褐色	焼土中ブロック中量
6	灰褐色	灰多量，焼土粒子中量
7	褐　色	ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
8	褐　色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
10	黒褐色	ローム中ブロック中量
11	明褐色	ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　１か所。南壁中央の壁際から30cmほど内側に位置し，径50cmの円形，深さ38cmで竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。



第70図　第118号住居跡実測図

ピット土層解説

1 暗褐色　砂質粘土粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
2 褐　色　粘土中ブロック中量，焼土小ブロック微量
3 暗褐色　粘土小ブロック少量
4 褐　色　ローム小ブロック中量
5 暗褐色　ローム中ブロック中量，粘土中ブロック少量

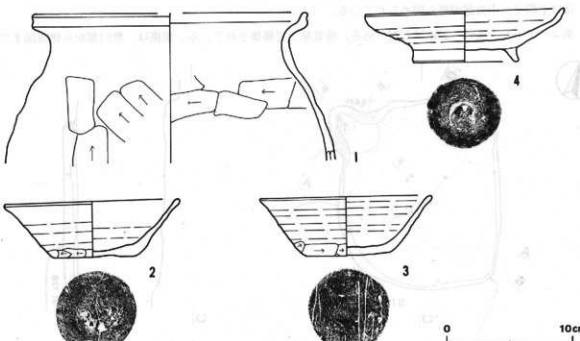
覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3 暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片145点，須恵器片209点，金属製品1点（不明鉄製品）が出土している。第71図1の土師器甕は竈内から出土した破片4点が接合したものである。2の須恵器坏と4の須恵器蓋は，いずれも北西コーナー部の床面から出土したものである。3の須恵器坏は竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀中葉と推定される。



第71図　第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	甕 土師器	A [21.2] B (11.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部最位のヘラナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 橙色 普通	10%　P115 竈内
2	坏 須恵器	A 13.6 B 4.5 C 6.3	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 暗灰黄色 普通	80%　P112　PL70 床面直上 （北西コーナー部）
3	坏 須恵器	A 13.6 B 4.6 C 6.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい黄色 普通	80%　P113　PL70 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 4	壺 須恵器	A 15.6 B 4.2 D 8.4 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して外方へ開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 灰黄色 普通	70% P114 床面直上 (北西コーナー部)

第119号住居跡（第72・73図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4d9区。

重複関係　南部で第128号住居跡を掘り込んでいる。

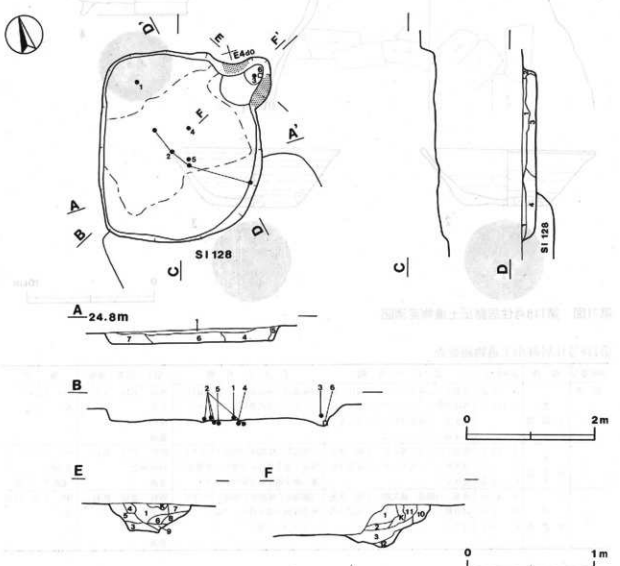
規模と平面形　長軸2.75m，短軸2.55mの方形である。

主軸方向　N－60°－E

壁　壁高は20～24cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東コーナーに，壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで96



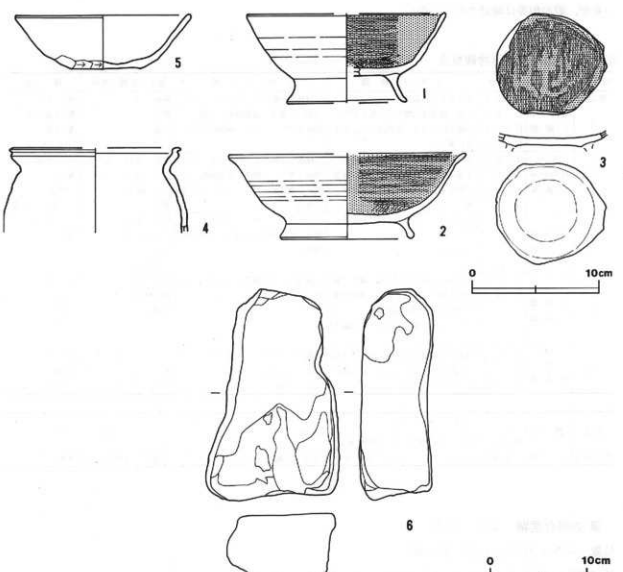
第72図　第119号住居跡実測図

cm，両袖幅90cmである。両袖部は壁を利用し，壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は長径34cm，短径24cmの楕円形で，深さ14cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。第3層には，灰が多量に含まれ，第3層の下面が赤変しているため，火床面と考えられる。火床部中央のやや煙道寄りからは，雲母片岩と土師器高台付坏がセットの支脚が出土している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

覆土断面説

1	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2	にぶい赤色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
3	灰褐色	灰多量
4	明褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
5	暗赤褐色	焼土中ブロック中量，砂質粘土中ブロック少量
6	暗褐色	焼土粒子中量
7	明褐色	ローム粒子少量
8	暗褐色	焼土粒子多量，砂質粘土小ブロック中量
9	暗褐色	焼土小ブロック・粒子多量，灰中量
10	黄褐色	砂質粘土中ブロック中量・焼土小ブロック・粘土小ブロック・炭化物少量
11	明褐色	砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック微量
12	褐色	灰少量

覆土　7層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。



第73図　第119号住居跡出土遺物実測図

土層解説
1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐 色 ローム小ブロック・粒子多量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
5 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
6 暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物 土師器片283点，須恵器片225点，石製1点（雲母片岩），礫6点，鉄滓1点が出土している。第73図1の土師器高台付坏は，北コーナー部の覆土下層と竈前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2の土師器高台付坏は，中央部から南コーナー部にわたって出土した破片が接合したものである。3の土師器高台付坏と6の雲母片岩は，竈内火床部中央のやや燃道寄りから出土している。6が立位で，3はその上に伏せられた状態で出土している。4の土師器小形甕は中央部床面から正位の状態で出土している。5の須恵器坏は中央部床面から正位で出土している。覆土中から出土している鉄滓は，くすんだ緑色を呈し，気泡が小さく「あばた状」に発泡している。遺物は覆土上・中層を中心に多量に出土したが，他の住居跡の土器と比べると，細片が多い傾向にある。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

第119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	高台付坏 土師器	A [15.6] B 6.9 D [9.4] E 2.1	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 スコリア 橙色 普通	40% P117 覆土中層(電柱) 覆土下層 (北コーナー部)
2	高台付坏 土師器	A [18.6] B 6.7 D 10.6 E 1.7	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア にぶい橙色 普通	55% P118 覆土中 (中央部～ 南コーナー部)
3	高台付坏 土師器	B (1.2)	底部の破片。高台貼り付けの痕跡有り。	内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削りの後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒 雲母 にぶい褐色 普通 二次焼成	10% P119 竈内
4	小形甕 土師器	A [13.0] B (6.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，胴部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 雲母 スコリア 明赤褐色 普通	10% P120 床面直上 (中央部)
5	坏 須恵器	A 13.6 B 4.3 C 5.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	雲母 長石 スコリア 橙色 普通	90% P116 P170 床面直上 (中央部)

図版番号	種別	計測値 高さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第73図 6	石	(21.8)	13.8	7.5	(3490.8)	雲母片岩	竈内	Q11 支脚転用 被熱痕

第120号住居跡（第74・75図）

位置 調査ⅡB区の南西部，F3e0区。

重複関係 西部が第91号住居に掘り込まれている。

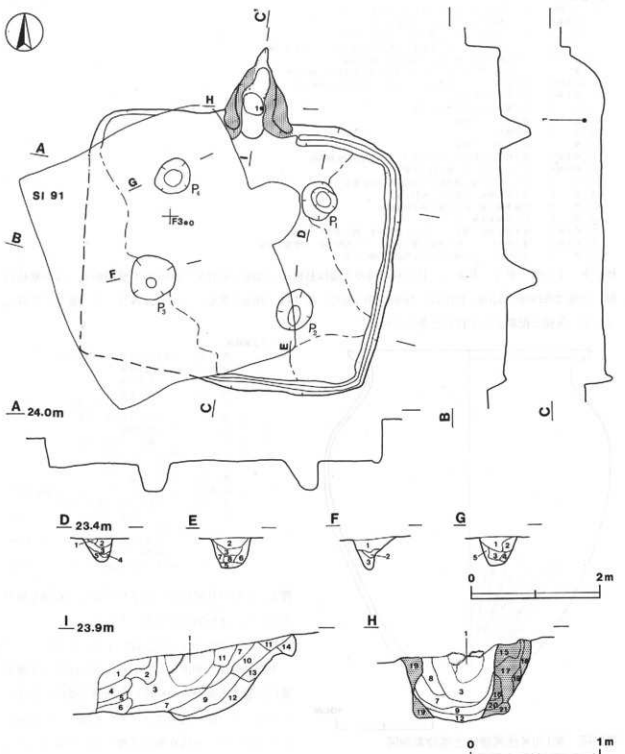
規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.20mの長方形である。

主軸方向　N－8°－E

壁　第91号住居に掘り込まれている西壁を除き残存している。壁高は28～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第91号住居に掘り込まれている西壁を除いて巡っている。上幅12～35cm，下幅５～11cm，深さ６cmで，断面形はU字形である。

床　全面的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。



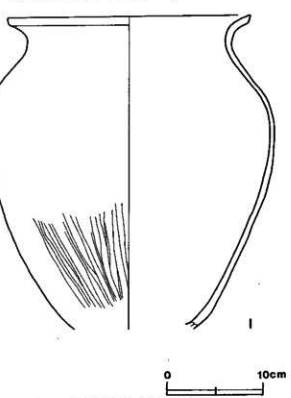
第74図　第120号住居跡実測図

竈　北壁中央部に，壁外へ54cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで114cm，両袖幅92cmである。天井部は崩落している。袖部は，地山のロームに，砂質粘土を10～15cmほどの厚さで貼り付け構築している。両袖部の内側は火を受けて赤変硬化し，長期間使用したことが推定される。土層断面図中，第15層～21層が袖部の土層である。第12層の下面は赤変しており，火床面と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3	褐　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒中量
8	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量
9	褐　色	砂粒多量，粘土中ブロック中量
10	褐　色	焼土中ブロック中量
11	褐　色	砂粒微量
12	褐　色	焼土中ブロック中量
13	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
14	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土粒子中量
15	褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
16	褐　色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
17	褐　色	砂粒多量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
18	褐　色	ローム粒子少量
19	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，焼土中ブロック微量
20	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量
21	褐　色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット　4か所（P1～P4）。P1からP4の上端は長径56～72cm，短径52～66cmの不整円形または不整楕円形，下端は長径16～32cm，短径12～24cmの楕円形で，深さ44～54cmである。いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。



第75図　第120号住居跡出土遺物実測図

ピット土層解説

P1-2	1	黄褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子中量
	2	暗褐色	ローム粒子少量
	3	褐　色	ローム粒子中量
	4	褐　色	ローム粒子多量
	5	褐　色	ローム小ブロック・粒子多量
	6	褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量
	7	褐　色	ローム粒子微量
	8	暗　色	ローム粒子・炭化粒子少量
P3	1	暗褐色	焼土中ブロック少量
	2	褐　色	焼土小ブロック多量
	3	暗　色	炭化粒子微量
P4	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
	2	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
	3	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
	4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
	5	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量

覆土　第91号住居に掘り込まれているため調査範囲が小さく，堆積状況は判断できなかった。

遺物　土師器片29点，須恵器片4点，金属製品1点（不明鉄製品）が出土している。第75図1の土師器甕は，竈火床部からやや浮いた状態で横位で出土している。その他の遺物は，いずれも細片のため図示できなかった。不明鉄製品は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，8世紀中葉と推定される。

第120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	甕 土師器	A 25.0 B (32.3)	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，胴部で強く屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部縦位のヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒 長石 石英 スコリア 橙色 普通 二次焼成	80% P121 PLTI 覆内 (火床部)

第121号住居跡（第76・77図）

位置 調査ⅡB区の北部，E3c0区。

重複関係 南東部を第122号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.25m，短軸3.18mの方形である。

主軸方向 N－8°－W

壁 第122号住居に掘り込まれている東壁を除き残存している。壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 第122号住居に掘り込まれている部分を除いて確認された。上幅11～30cm，下幅2～8cm，深さ3cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。全面ローム土主体の貼床で，厚さは2～6cmである。掘り方は，北西コーナー部に長径82cm，短径69cmの楕円形，深さ16cmの掘り込みが確認された。性格は不明である。

貼床土層解説
1 褐 色 ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

掘り方土層解説
1 明褐色 ローム大ブロック多量
2 褐 色 焼土粒子・炭化物少量
3 灰褐色 灰中量
4 褐 色 焼土粒子・炭化物微量
5 黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐 色 炭化粒子微量

竈 北壁中央部に，壁外へ70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで137cm，両袖幅［98］cmである。東袖部の遺存状況は悪く，わずかに袖部の痕跡が確認されただけである。西袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築していることが確認された。火床部は長径35cm，短径26cmの楕円形で，深さ9cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。第4層から多量の土師器片が出土している。

竈土層解説
1 褐 色 ローム粒子中量
2 明褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量
3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック微量
4 暗褐色 粘土中ブロック中量，焼土小ブロック微量
5 極暗褐色 炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量

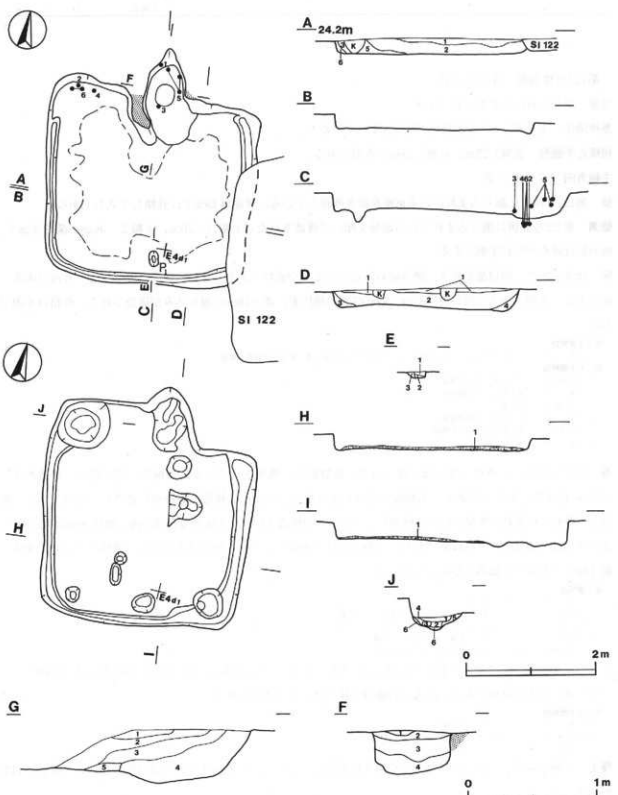
ピット 1か所。南壁中央の壁際から22cmほど内側に位置し，長径24cm，短径15cmの楕円形，深さ10cmのピットで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1 褐 色 ローム小ブロック中量
2 暗褐色 ローム小ブロック少量
3 明褐色 ローム中ブロック中量

覆土 6層からなる。ロームブロックや焼土粒子を含んでいるが，堆積状況からは自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

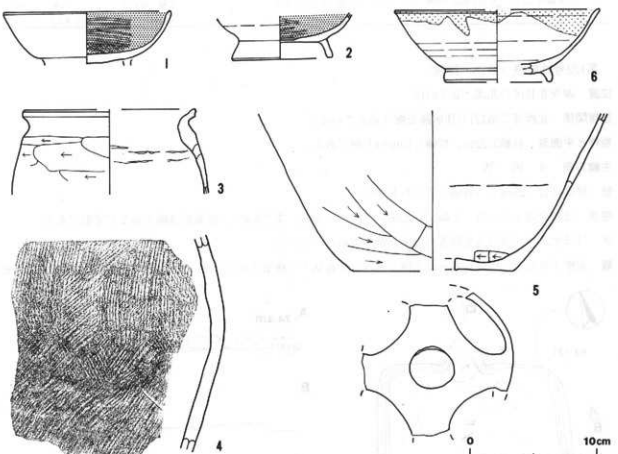
1 褐　色　ローム粒子多量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3 暗褐色　ローム大・中ブロック中量
4 暗褐色　焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子少量
5 褐　色　ローム大ブロック中量
6 暗褐色　ローム粒子微量



第76図　第121号住居跡実測図

遺物　土師器片188点，須恵器片79点，灰釉陶器細片１点，礫２点が出土している。第77図１の土師器高台付坏は竈内から出土している。２の土師器高台付坏，４の須恵器甕，６の東濃産灰釉陶器椀，雲母片岩は，床下土層から出土している。３の土師器小形甕と５の須恵器瓶は，竈内から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡は，床下の土層から，灰釉陶器椀，土師器高台付坏，須恵器甕，雲母片岩が出土している。本跡に伴うものかどうかは不明であるが，住居構築時に祭祀的な意味からこれらの遺物が埋設された可能性も考えられる。当遺跡からは，第116号住居跡の掘り方からも鉄製手鎌，須恵器坏及び甕が出土している。本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀後葉と推定される。



第77図　第121号住居跡出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	高台付坏 土師器	A　13.2 B（4.1）	体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい橙色 普通	70%　P122　PL71 竈内
2	高台付坏 土師器	B（3.5） D　7.8 E　1.5	高台部から体部下半部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	雲母　長石 にぶい黄橙色 普通	20%　P123 床下土層 （北西コーナー部）
3	小形甕 土師器	A［13.4］ B（6.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 スコリア 橙色 普通 二次焼成	10%　P124 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 4	甕 須恵器	B (16.9)	体部の破片。体部はわずかに内彎する。	体部外面上半部斜位の平行叩き。外面下半部縦位の平行叩き後，斜位の平行叩き。内面横ナデ。当て具痕。	砂粒　雲母　長石 石英 灰色 普通	5％　P125 床下土壙 (北西コーナー部)
5	瓶 須恵器	B (12.5) C [12.6]	底部から体部下位にかけての破片。五孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。一部ヘラナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒　石英 にぶい黄橙色 普通 二次焼成	20％　P126 覆内
6	椀 灰釉陶器	A [16.0] B　5.7 D [8.0] E　1.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台は三角状で「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け，ロクロナデ。釉は付け掛け。	砂粒 灰白色 釉　灰白色 良好	20％　P127 床下土壙 (北西コーナー部) 重複著

第122号住居跡（第78・79図）

位置　調査ⅡB区の北部，E4c1区。

重複関係　北西部で第121号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.22m，短軸3.10mの方形である。

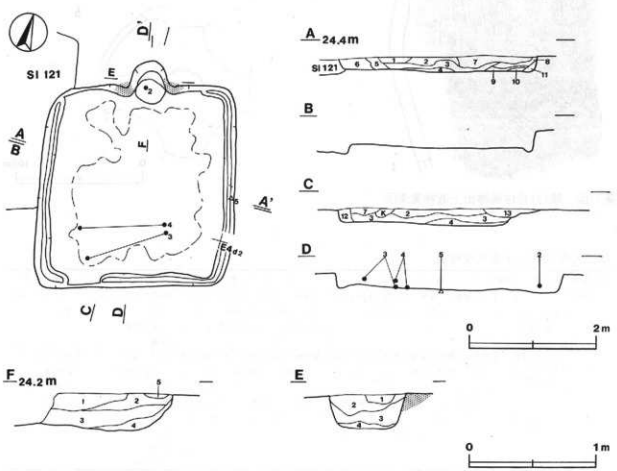
主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は17～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　ほぼ全周している。上幅12～22cm，下幅2～10cm，深さ3cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，周辺部を除き，全面が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ34cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで82



第78図　第122号住居跡実測図

cm，両袖幅100cmである。天井部は崩落しており，第３層が崩落土と考えられる。両袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築しており，袖部内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は長径46cm，短径39cmの楕円形で，深さ6cmほど皿状に掘りくぼめている。第４層の下面が赤変硬化しているため，火床面と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

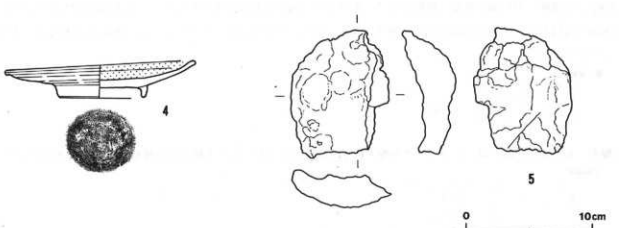
竈土層解説
1 褐　色　焼土粒子少量
2 褐　色　焼土小ブロック少量
3 褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
4 暗褐色　焼土粒子中量
5 にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

覆土　13層からなる。ロームブロックや焼土粒子を含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 褐　色　焼土粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3 褐　色　ローム中ブロック・粒子少量
4 暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 明褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
6 褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
7 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
8 褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
9 褐　色　ローム小ブロック少量
10 褐　色　ローム中ブロック中量
11 褐　色　ローム大ブロック中量
12 褐　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
13 明褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片84点，須恵器片65点，灰釉陶器片１点，金属製品１点（刀子），鉄滓２点が出土している。第79図１の土師器坏は覆土中から出土している。２の土師器小形甕は竈火床部の覆土下層から出土している。３の須恵器坏は，中央部南東コーナー部寄りと南西コーナー部のいずれも覆土中層から出土した破片が接合したものである。４の灰釉陶器高台付皿は，中央部やや西寄りの床面と，南西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。黒笹90号窯式期の猿投窯産である。５は椀状滓で，東壁際の覆土下層から出土している。気泡が大きく，あばた状を呈している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀末葉から10世紀初頭と推定される。椀状滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。



第79図　第122号住居跡出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図1	坏 土師器	A [14.8] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 にぶい黄褐色 普通	15% P130 覆土中
2	小形甕 土師器	A [10.6] B (4.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 雲母 スコリア 橙色 普通 二次焼成	5% P131 竈内 (火床部)
3	坏 須恵器	A 13.4 B 4.6 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。一方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 黄灰色 普通	65% P129 覆土中層 (中央部～ 南西コーナー部)
4	高台付皿 灰釉陶器	A 14.8 B 3.0 D 6.8 E 1.0	口縁部一部欠損。体部は内彎して外方に開き，口縁端は外反する。高台は角状でほぼ垂下する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒 灰白色 良好	95% P133 床面直上(中央部) 覆土中層 (南西コーナー部) 猿投窯産 (黒笹90号窯式)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第79図5	紡錘	10.2	7.7	4.1	318.2	覆土下層(東壁際)	M108

第123号住居跡（第80・81図）

位置 調査ⅡB区の北部，E4b1区。

重複関係 西部で第124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.05m，短軸2.90mの方形である。

主軸方向 N－24°－W

壁 壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から南壁下にかけて確認された。上幅10～22cm，下幅2～9cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に，壁外へ37cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖幅（90）cmである。攪乱を受けて東袖部の一部と西袖部が壊されている。火床部は長径28cm，短径26cmの楕円形で，深さ8cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

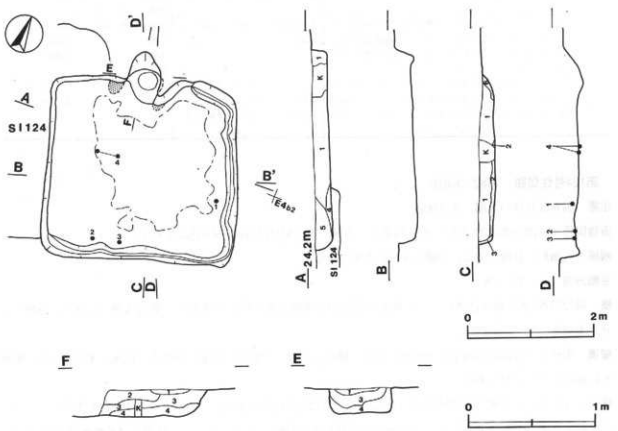
竈土層解説
1 明褐色 焼土粒子少量
2 黄褐色 焼土粒子微量
3 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐 色 焼土中ブロック中量

覆土 6層からなる。ロームブロックや焼土粒子を含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

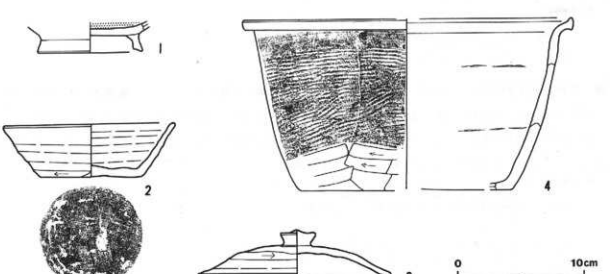
土層解説
1 明褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2 褐 色 ローム小ブロック少量
3 褐 色 ローム中ブロック中量
4 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
5 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
6 褐 色 ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量，砂質粘土小ブロック微量

遺物　土師器片84点，須恵器片103点，灰釉陶器片１点が出土している。第81図１の土師器高台付坏は東壁際の覆土下層から出土している。２の須恵器坏，３の須恵器蓋は，南壁際床面からいずれも逆位で出土している。４の須恵器鉢は，中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。体部外面に横位の平行叩きが施されている。覆土中から灰釉陶器片が出土しているが，細片のため器種等は不明である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀前葉と推定される。



第80図　第123号住居跡実測図



第81図　第123号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	高台付坏 土師器	B (2.4) D 8.2 E 1.5	高台部から底部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 スコリア 明褐褐色 普通	20% P136 覆土下層 (東壁際)
2	坏 須恵器	A 13.3 B 4.2 C 7.8	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 褐灰色 普通	100% P135 PL71 床面直上 (南壁際)
3	蓋 須恵器	A 15.2 B 4.1 F 2.7 G 1.2	完形。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは扁高のボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒 雲母 長石 石英 灰色 普通	100% P137 PL71 床面直上 (南壁際)
4	鉢 須恵器	A [26.0] B 13.5 C [16.8]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部で強く屈曲する。口縁部は上下に突出させている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面上半回転ヘラ削り。下半部横位のヘラ削り。内面輪積み痕。	砂粒 長石 灰色 普通	20% P138 覆土下層 (中央部)

第124号住居跡（第82・83図）

位置　調査ⅡB区の北部，E 3 b0区。

重複関係　東部が第123号住居に掘り込まれ，西部で第125号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　第123号住居に掘り込まれている東壁中央部から南壁東部を除いて残存し，壁高は38～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下中央部から西壁下中央部にかけて確認された。上幅14～22cm，下幅3～12cm，深さ3cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。第125号住居跡の床面と同じ高さの平坦面を使用している。中央部やや南西寄りの床面から，長径180cm，短径140cmの焼土が確認されたが，床面には被熱痕は認められず，投棄されたものと考えられる。

焼土土層解説
1　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　焼土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

竈　北壁中央部東壁寄りに，壁外へ37cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで（90）cm，同袖幅（120）cmである。天井部は崩落している。両袖部は撹乱を受けて壊されており，わずかに袖部の痕跡が残存しているだけである。第4層の下面は赤変しており火床面と考えられるが，あまり硬化はしていない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　明褐色　砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック・粒子少量
2　明褐色　砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　明褐色　粘土中ブロック中量
4　暗褐色　灰中量，焼土小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　黄褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
8　にぶい褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9　にぶい褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は，南壁中央の壁際から8㎝ほど内側に位置し，長径28㎝，短径22㎝の不整楕円形，深さ15㎝で竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は，北東コーナー部に位置する径65㎝の円形，深さ14㎝で，性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

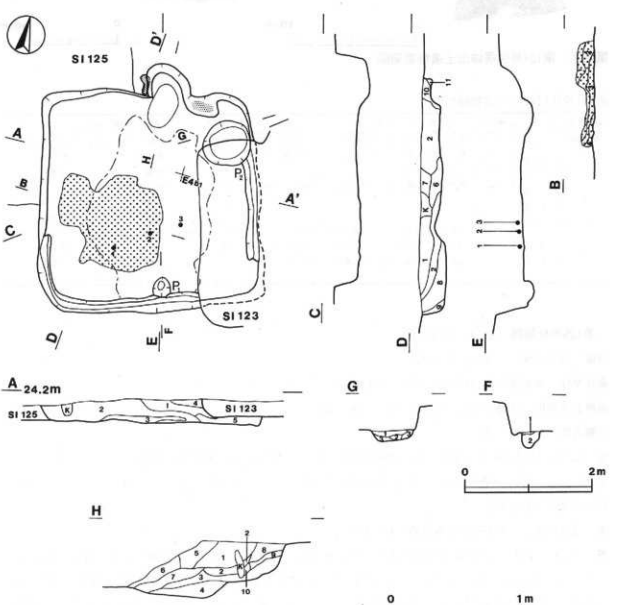
ピット土層解説

P1	1	暗褐色	ローム中ブロック中量
	2	黄褐色	ローム中ブロック多量
P2	1	褐　色	焼土中ブロック中量，ローム中ブロック少量
	2	極暗褐色	ローム小ブロック少量
	3	暗褐色	ローム中ブロック少量

覆土　11層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	赤褐色		焼土粒子中量，炭化物少量
3	極暗褐色		炭化物多量，焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
4	褐	色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
5	褐	色	ローム大ブロック少量，焼土粒子微量

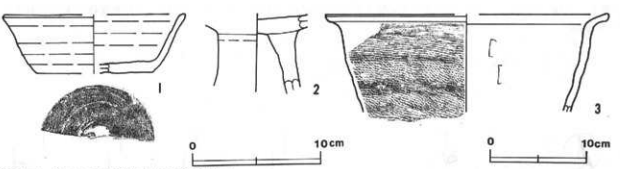


第82図　第124号住居跡実測図

6　暗褐色　ローム中ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
8　褐　色　ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量
9　褐　色　ローム中ブロック中量
10　明褐色　砂質粘土粒子多量，焼土小ブロック少量
11　赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量

遺物　土師器片314点，須恵器片278点，金属製品２点（刀子），陶器細片１点が出土している。第83図１の須恵器坏・２の須恵器高盤・３の須恵器鉢は，中央部の覆土下層から出土している。覆土中から刀子２点が出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，８世紀後葉と推定される。



第83図　第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	坏 須恵器	A［14.4］ B　4.6 C［9.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒　赤斑　長石 黄灰色 普通	50%　P139 覆土下層 (中央部)
2	高盤 須恵器	B（6.2）	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒　雲母 黄灰色 普通	10%　P140 覆土下層 (中央部)
3	鉢 須恵器	A［29.0］ B（10.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部で屈曲する。口縁部は，中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。一部縦位のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 灰色 普通	5%　P141 覆土下層 (中央部)

第125号住居跡（第84・85図）

位置　調査ⅡＢ区の北部，Ｅ３a0区。

重複関係　南東部が第124号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.95m，短軸3.55mの方形である。

主軸方向　Ｎ－24°－Ｗ

壁　第124号住居に掘り込まれている部分を除いて残存し，壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第124号住居に掘り込まれている部分を除いて巡っている。上幅11～22cm，下幅４～８cm，深さ２cmで，断面形は逆台形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北東壁中央部に，壁外へ60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで（120）cm，両袖幅（160）cmである。竈の遺存状況は悪く，東袖部は撹乱を受けているため確認できなかった。西袖部は，壁面に砂質粘土を貼り付けて構築していることが確認された。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道は火床面からやや西寄りに外傾して立ち上がる。

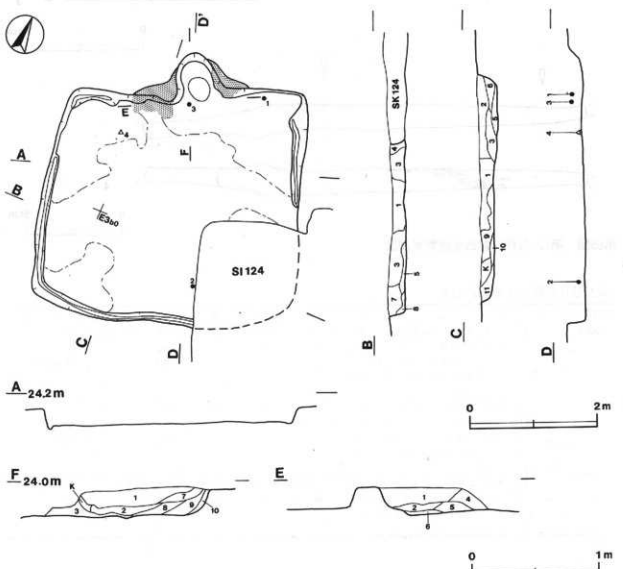
竪土層解説

1	褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2	褐	色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3	褐	色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐	色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
6	暗 褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗 褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
8	にぶい赤褐		焼土粒子多量，炭化粒子中量
9	赤 褐	色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
10	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　11層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

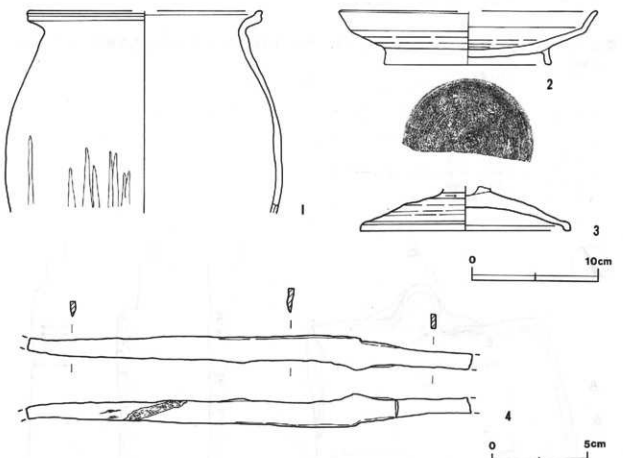
1	褐	色	ローム粒子微量
2	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3	褐	色	ローム中ブロック・粒子中量
4	褐	色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐	色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック微量
6	褐	色	ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
7	暗 褐	色	ローム大・中ブロック少量
8	明 褐	色	ローム大ブロック中量
9	褐	色	ローム中ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
10	暗 褐	色	ローム中ブロック微量
11	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量



第84図　第125号住居跡実測図

遺物　土師器片45点，須恵器片61点，金属製品１点（短刀）が出土している。第85図１の土師器甕は，竈東袖部外側の覆土中層から出土している。２の須恵器盤は，南壁付近やや東寄りの覆土下層から出土している。３の須恵器蓋は竈内から出土している。４の短刀は竈西袖部外側の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，８世紀中葉と推定される。



第85図　第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	甕 土師器	A［18.4］ B（15.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒　雲母　長石 明赤褐色 普通	10%　P145 覆土中層 （竈東袖部外側）
2	盤 須恵器	A［20.0］ B　4.3 D　13.0 E　1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒　雲母　長石 灰色 普通	30%　P143 覆土下層 （南壁付近）
3	蓋 須恵器	A　16.4 B（3.5）	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒　雲母 黄灰色 普通	40%　P144 竈内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第85図4	短刀	(23.2)	1.8	0.3	(22.2)	床面直上(竈西袖部外側)	M23 錆先，茎部一部欠損 PL101

第126号住居跡（第86・87図）

位置 調査ⅡB区の北部，E4b3区。

重複関係 北部が第127号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.65m，短軸3.32mの方形である。

主軸方向 N－12°－E

壁 第127号住居に掘り込まれている北壁を除いて残存し，壁高は54～64cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下中央部から西壁下にかけて確認された。上幅6～17cm，下幅2～10cm，深さ2cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部東寄りに，壁外へ（24）cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで（110）cm，両袖幅148cmである。第127号住居によって煙道部上面が掘り込まれている。両袖部は，地山のロームを一部掘り残し，砂質粘土を貼り付けて構築している。両袖部の内側は火熱を受けて赤変硬化している。第3層の下面が赤変しているため，火床面と考えられる。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

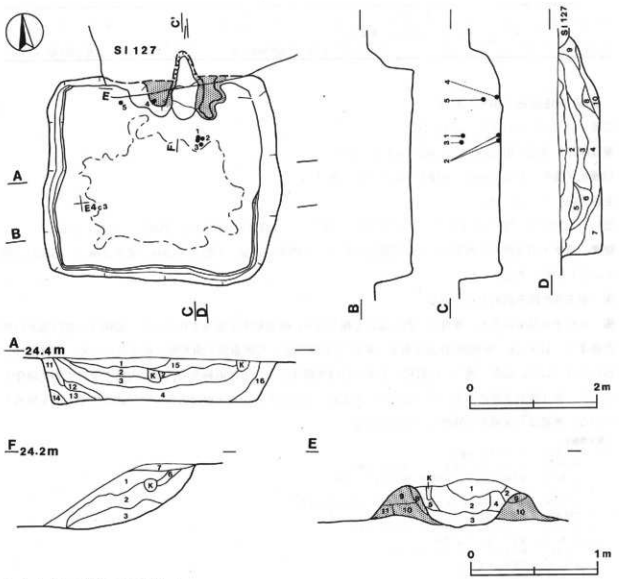
1	にぶい黄褐色	焼土中ブロック微量
2	黄褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3	暗褐色	焼土小ブロック・炭化物中量，焼土中ブロック少量
4	褐色	焼土小ブロック中量
5	暗褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6	明黄褐色	ローム粒子多量
7	黄褐色	ローム中ブロック多量，ローム小ブロック中量
8	赤褐色	焼土中・小ブロック多量
9	にぶい褐色	焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
10	褐色	砂質粘土粒子多量
11	暗褐色	砂質粘土粒子少量

覆土 16層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

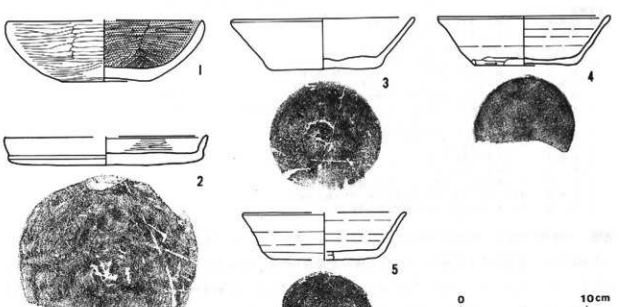
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
4	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6	暗褐色	炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9	褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
11	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
13	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
14	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
15	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
16	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物 土師器片223点，須恵器片88点が出土している。遺物の多くが，覆土上層から出土している。第87図1の土師器坏は，竈前の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2の土師器盤は，竈前の覆土下層から出土している。3・4・5の土器はいずれも須恵器坏である。3は竈前の覆土上層から，4は竈西袖部内から出土している。5は，竈西袖部外側の覆土中層から出土している。



第86図　第126号住居跡実測図



第87図　第126号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀中葉と推定される。

第126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	坏 土師器	A［15.4］ B 4.8 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面丁寧なヘラ磨き。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 明赤褐色 普通	40%　P149 覆土上層 (竈前)
2	甕 土師器	A［15.8］ B 2.2 C 14.4	底部から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾して立ち上がる。底部と口縁部の境に，明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラ削き。底部不定方向のヘラ削り後，ヘラ磨き。	砂粒　雲母　長石 明赤褐色 普通	50%　P150 覆土下層 (竈前)
3	坏 須恵器	A 14.2 B 4.0 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外反気味に外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 灰黄褐色 普通	80%　P146 覆土上層 (竈前)
4	坏 須恵器	A 13.6 B 3.9 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 黄灰色 普通	60%　P147 竈内 (西袖部内)
5	坏 須恵器	A［12.8］ B 3.7 C［8.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 石英 灰黄色 普通	45%　P148 覆土中層 (竈西袖部外側)

第127号住居跡（第88・89図）

位置　調査ⅡＢ区の北部，Ｅ４b3区。

重複関係　南部で第126号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.55mの長方形で，北東コーナーだけが丸みをおびている。

主軸方向　Ｎ－11°－Ｗ

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

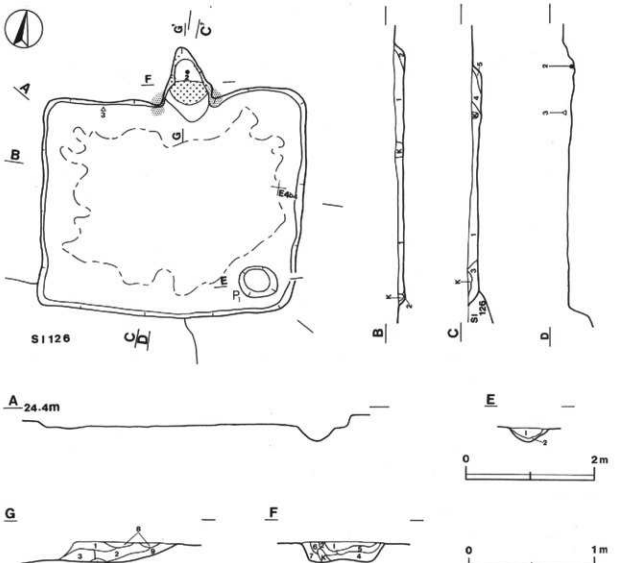
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，わずかに高くなっている。

竈　北壁中央部に，壁外へ80cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，両袖幅109cmである。両袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は長径54cm，短径30cmの不整楕円形で，深さ３cmほど皿状に掘りくぼめている。第４層は，焼土・灰を含んだ締まりの弱い土層で，下面に赤変硬化している焼土ブロックが確認されたため火床部と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　明褐色　焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
2　明褐色　ローム粒子微量
3　明褐色　焼土中ブロック・灰中量，焼土粒子少量
4　褐　色　焼土粒子中量
5　暗褐色　焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量
6　明赤褐色　焼土粒子中量
7　明赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　１か所。南東コーナー部に位置する長径60cm，短径48cmの楕円形，深さ25cmのピットで，性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



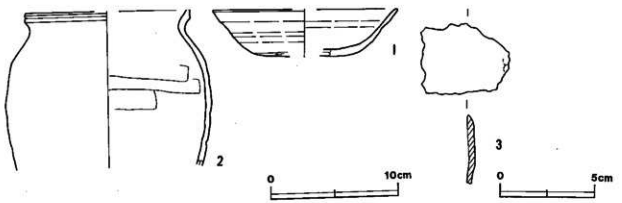
第88図　第127号住居跡実測図

覆土　5層からなる。ロームブロックを含んでいるが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
3　黒　　色　ローム中ブロック中量
4　明　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　黄　褐　色　砂質粘土粒子多量

遺物　土師器片153点，須恵器片70点，金属製品１点（不明鉄製品），石塊１点（雲母片岩），陶器細片３点が出土している。第89図１の土師器坏は覆土中から，２の土師器小形甕は竈内から出土している。３の不明鉄製品は北壁際西寄りの覆土中層から出土している。雲母片岩が中央部やや東寄りの覆土中から出土している。火熱を受けて赤変している。陶器細片は後世の撹乱により混入したものと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀中葉と推定される。



第89図　第127号住居跡出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	坏 土師器	A [14.5] B 3.6 C [8.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 石英 橙色 普通	30% P151 覆土中
2	小形甕 土師器	A [12.8] B (12.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 明赤褐色 普通	10% P152 竈内

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第89図 3	不明鉄製品	(4.6)	3.6	0.4	(19.4)	覆土中層(北西コーナー部)	M24

第128号住居跡（第90・91図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4d9区。

重複関係　北部が第119号住居に，西部が第44号掘立柱建物のP6に掘り込まれている。南部で第129号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸[3.25]mの方形と推定される。

主軸方向　N－73°－E

壁　第119号住居に掘り込まれている北壁と，撹乱により確認できなかった南東コーナー部を除き残存し，壁高は42～52cmで，外傾して立ち上がる。

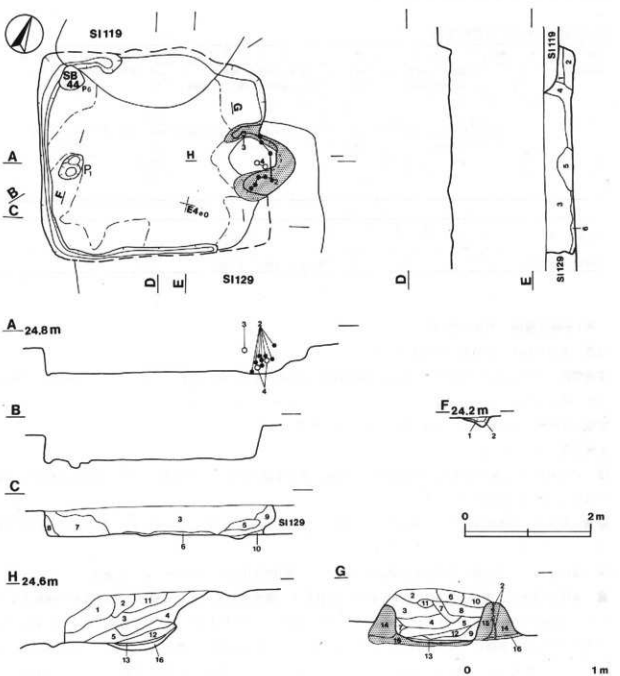
壁溝　南壁下から西壁下にかけて確認され，上幅9～20cm，下幅4～12cm，深さ4cmで，断面形は逆台形である。

床　ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。第129号住居跡とほぼ同じ高さである。

竈　東壁中央部に，壁外へ37cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖幅122cmである。天井部は崩落している。第5～9層が天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており，補強材として両袖部に須恵器鉢片を貼り付け，砂質粘土で構築している。火床部は長径26cm，短径23cmの不整楕円形で，深さ4cmほど皿状に掘りくぼめており，全面に薄く灰が堆積している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。覆土中からは多量の土師器片が出土している。

覆土層解説

1	褐　色	砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，砂質粘土大ブロック・炭化物微量
2	褐　色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
3	暗 褐 色	砂質粘土小ブロック・粒子少量
4	暗 褐 色	焼土小ブロック少量，砂質粘土小ブロック微量
5	黄 褐 色	砂質粘土大ブロック多量，焼土中ブロック少量
6	暗 褐 色	砂質粘土大ブロック少量，砂質粘土粒子微量
7	黄 褐 色	砂質粘土中ブロック中量
8	暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量
9	明黄褐色	砂質粘土中ブロック多量，焼土粒子少量
10	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量
11	褐　色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
12	橙　色	焼土粒子多量，炭化材中量
13	灰 褐 色	灰多量
14	黄 褐 色	砂質粘土中ブロック中量
15	褐　色	砂質粘土中ブロック少量
16	暗 褐 色	砂質粘土中ブロック中量



第90図　第128号住居跡実測図

ピット　1か所。西壁中央の壁際から23cmほど内側に位置し，長径49cm，短径30cmの不整楕円形，深さ4cmのピットで竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

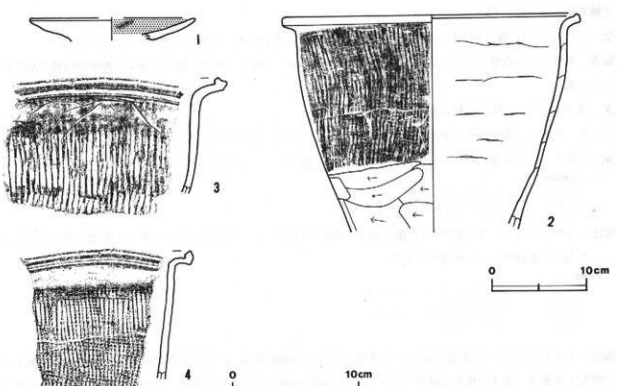
ピット土層解説
1 暗 褐 色　ローム小ブロック・炭化物少量
2 明 褐 色　ローム中ブロック多量

覆土　10層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化物少量
2 褐　　色　ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量
3 褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4 暗 赤 色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5 褐　　色　焼土粒子・砂質粘土大ブロック中量，炭化物少量
6 暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
7 極暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
8 暗 褐 色　ローム中ブロック中量
9 極暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，砂質粘土粒子微量
10 明 褐 色　ローム中ブロック多量

遺物　土師器片115点，須恵器片18点が出土している。第91図1の土師器高台付皿は覆土中から出土している。2の須恵器鉢は竈内から出土した破片が接合したものである。3の須恵器鉢は，竈北袖部内から出土している。いずれも袖部の補強材として使用されたものと思われる。4の須恵器鉢は，竈内から出土している。3は体部外面に縦位の平行叩きが，4は体部外面に格子叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第91図　第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	高台付皿 土師器	A [13.0] B (1.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外方に開き，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 雲母 石英 橙色 普通	10% P153 覆土中 (南部)
2	鉢 須恵器	A 30.4 B (22.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は強く屈曲し，外方へ短く開く。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。ド端横位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア にぶい褐色 普通	70% P154 PL71 竈内

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第91図 3	鉢 須恵器	体部～口縁部	口縁部に篦状工具による円線を巡らす。体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。当て具痕有り。	TP12 竈内（北袖部内） 灰白色
4	鉢 須恵器	体部～口縁部	口縁部に篦状工具による四線を巡らす。体部外面格子の平行叩き。内面ナデ。	TP13 竈内 二次焼成 黄褐色

第129号住居跡（第92・93図）

位置 調査ⅡB区の北東部，E4e0区。

重複関係 北部が第128号住居に掘り込まれ，西部の一部が第44号掘立柱建物のP7に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.75m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N－16°－W

壁 第128号住居に掘り込まれている部分を除いて残存し，壁高は40～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から南壁下にかけて確認され，上幅20～36cm，下幅3～10cm，深さ2cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

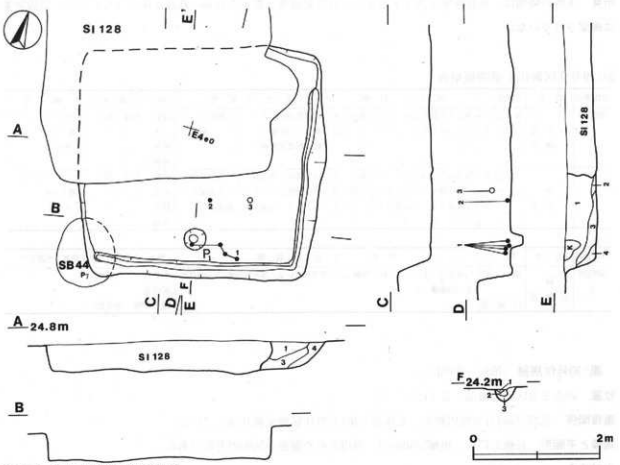
ピット 1か所。南壁中央の壁際から32cmほど内側に位置し，径32cmの円形，深さ23cmのピットで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説
1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

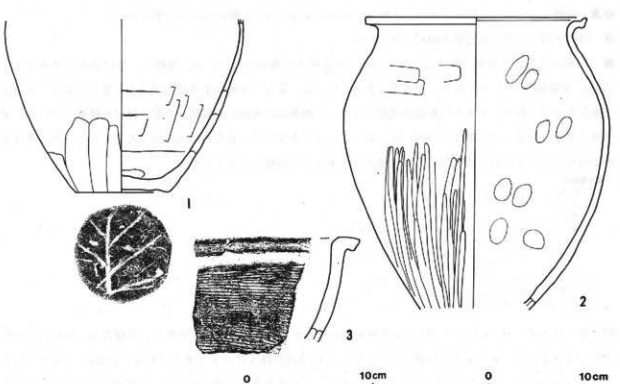
覆土 4層からなる。第128号住居に掘り込まれ明確ではないが，各層にロームブロックを含んでいることから，人為的に埋め戻された可能性がある。

土層解説
1 褐 色 ローム中・小ブロック中量，焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム中ブロック少量
3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4 明褐色 ローム中ブロック多量

遺物 土師器片161点，須恵器片82点，金属製品1点（不明鉄製品），鉄滓1点が出土している。第93図1の土師器小形甕は，南部の覆土下層から出土している破片が接合したものである。2の土師器甕は中央部の覆土下層から出土している。3の須恵器鉢は，中央部東寄りの覆土中層から出土している。体部外面に横位の平行叩きが施され，二次焼成を受けて赤変している。鉄滓は，覆土中から出土している。細かい気泡を持っている。



第92図　第129号住居跡実測図



第93図　第129号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，重複関係と出土土器から，９世紀前葉と推定される。鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 1	小形甕 土師器	B (13.5) C 7.4	体部中位以上欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位でやや内彎する。	体部外面中位ナデ。下位横位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ，輪積み痕。底部木葉痕。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 橙色 普通	30% P155 覆土下層 (南部)
2	甕 土師器	A 22.8 B (30.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部横位のヘラナデ。下半部縦位のヘラ磨き。内面ナデ，指頭痕。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 橙色 普通	65% P156 PL71 覆土下層 (中央部)

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（白抜番号，出土位置，色調など）
第93図 3	鉢 須恵器	体部～口縁部	口縁部はつまみ上げられ，外側に折り返されている。体部外面横位の平行叩き。内面横ナデ。	TP14　二次焼成 灰白色 覆土中層（中央部）

第130号住居跡（第94・95図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E４c9区。

重複関係　北部で第117号住居跡を，北西部で第131号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.75m，短軸3.60mの，南辺がやや胴張り気味の方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は40～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅８～20cm，下幅４～８cm，深さ５cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

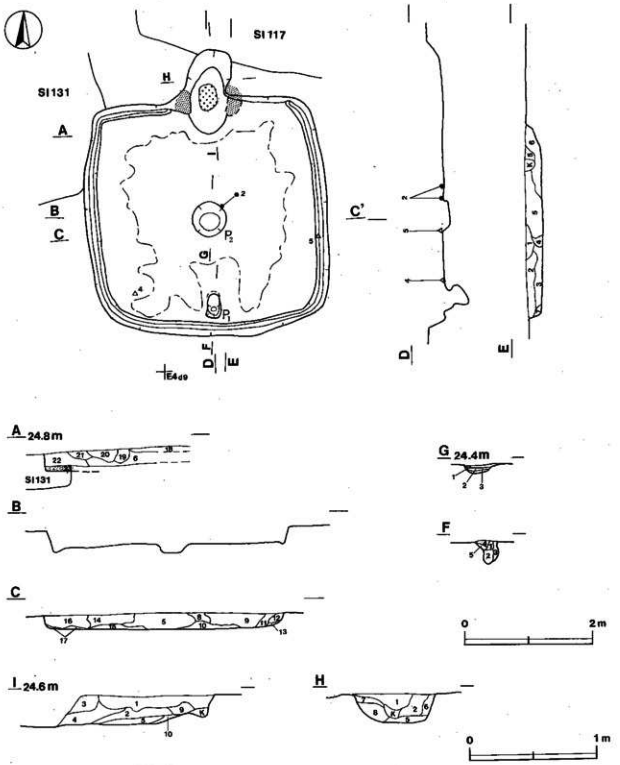
竈　北壁中央部に，壁外へ68cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで132cm，両袖幅（120）cmである。天井部は崩落している。第８・９層が天井部の崩落土と考えられる。東袖部は撹乱を受けており，わずかに基部が残存している。西袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。第５層は焼土や灰混じりの締まりの弱い層である。下面が赤変しているため，火床面と考えられる。火床面は床面と同じ高さの平坦面を使用している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　明褐色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　焼土中ブロック中量
3　明黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・灰中量，焼土小ブロック微量
6　黄褐色　ローム中ブロック多量，焼土小ブロック微量
7　黄褐色　ローム中ブロック多量
8　赤褐色　焼土大ブロック多量
9　暗褐色　焼土大ブロック中量
10　褐　色　ローム粒子多量

ピット　２か所（P1・P2）。P1は，南壁中央の壁際から17cmほど内側に位置し，長径27cm，短径21cmの楕円形，深さ32cmで，竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は，中央部に位置し，径54cmの円形，深さ12cmで，性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

P1	1	褐　色	ローム小ブロック微量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
	3	褐　色	ローム中ブロック中量
	4	褐　色	焼土粒子微量
	5	明褐色	ローム中ブロック多量
P2	1	暗褐色	焼土粒子微量
	2	褐　色	焼土小ブロック微量
	3	明黄褐色	砂質粘土粒子多量



第94図　第130号住居跡実測図

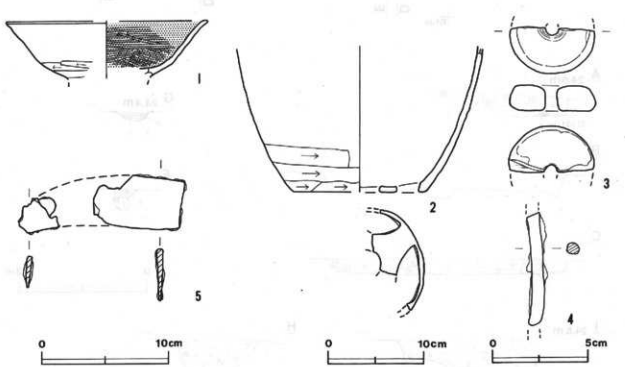
覆土　暗褐色土主体の23層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んでおり，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
6	褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量
7	褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	黒　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10	黒　色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
12	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
13	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
17	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
20	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
21	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
22	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
23	褐　色	ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片383点，須恵器片164点，石製品１点（紡錘車），金属製品２点（釘１・手鎌１），鉄滓１点，礫３点が出土している。第95図１の土師器高台付坏，３の石製紡錘車は，覆土中から出土している。２の須恵器甑は中央部床面から出土している。体部下位に横位のヘラ削りが認められる。４の釘は南西コーナー部の覆土下層から，５の手鎌は東壁際の覆土下層から出土している。鉄滓が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀後葉と推定される。鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。



第95図　第130号住居跡出土遺物実測図

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	高台付坏 土師器	A [15.8] B (4.5)	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台貼り付けの痕跡を残す。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	雲母 長石 橙色 普通	5% P157 覆土中
2	甕 須恵器	B (15.2) C [13.2]	底部から体部にかけての破片。平底。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい黄橙色 普通	10% P158 床面直上 (中央部)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第95図 3	石製紡錘車	4.5	1.4	0.6	(20.4)	滑石	覆土中	Q13

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第95図 4	釘	(5.9)	0.7	0.6	(6.1)	覆土下層(南西コーナー部)	M25 PL105
5	手鎌	(13.2)	4.2	0.5	(36.4)	覆土下層 (東壁際)	M26 PL103 刀身部一部欠損

第131号住居跡（第96・97図）

位置 調査ⅡB区の北東部，E 4 b8区。

重複関係 南東部が第130号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.40m，短軸3.25mの，東辺に比べ，やや西辺が長い方形である。

主軸方向 N－17°－W

壁 第130号住居に掘り込まれている南東壁を除いて残存し，壁高は32～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅11～29cm，下幅3～18cm，深さ5cmで，断面形は逆台形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部の床面から，長径46cm，短径28cmの不整楕円形状の焼土の分布が確認された。床面には被熱痕は認められず，投棄されたものと考えられる。

竈 北壁中央部やや東寄りに，壁外へ26cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，両袖幅142cmである。天井部は崩落しており，第6層が崩落土と考えられる。火床部は長径72cm，短径57cmの楕円形で，深さ7cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分が見られる。第10層の下面が赤変硬化しているため，火床面と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
2 明黄褐色 砂質粘土大ブロック中量
3 明黄褐色 砂質粘土大ブロック多量，焼土小ブロック中量
4 黒褐色 炭化物多量，焼土小ブロック中量
5 明褐色 焼土中ブロック中量
6 明赤褐色 焼土中ブロック多量
7 暗褐色 焼土中ブロック中量，砂質粘土小ブロック微量
8 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
10 明赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
11 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12 明赤褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
13 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
14 暗赤褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量

焼土土層解説

1 赤褐色 焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 明褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6 明赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

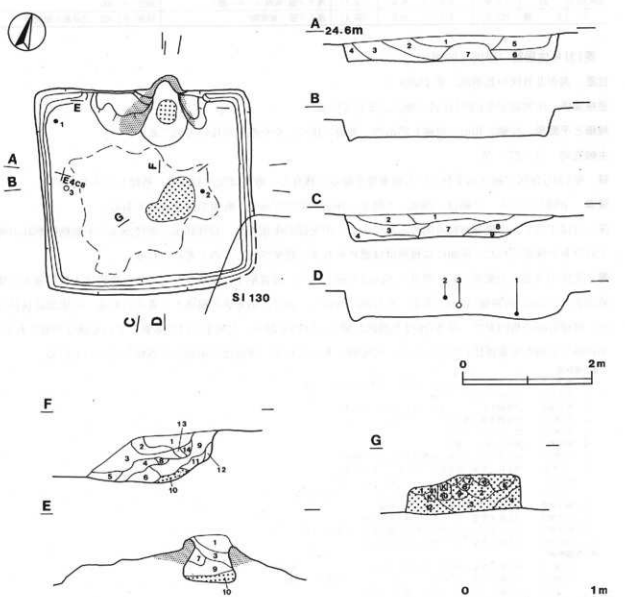
7　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
8　明赤褐色　焼土中ブロック・粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　褐　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
12　にぶい褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　9層からなる。ロームブロックを含んでいるが，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

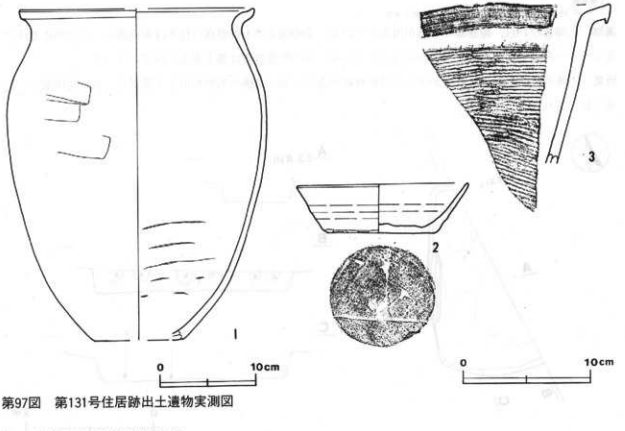
1　極暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　黒褐褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量
3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム中・小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム中ブロック・粒子少量
7　極暗褐色　焼土中ブロック中量，砂質粘土小ブロック少量
8　暗 褐 色　砂質粘土大ブロック中量
9　褐暗褐色　焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量

遺物　土師器片288点，須恵器片124点が出土している。第97図1の土師器甕は北西コーナー部の覆土下層から出土している。2の須恵器坏は中央部やや東寄りの覆土中層から出土している。3の須恵器鉢は西壁付近の覆土中層から出土している。体部外面に横位の平行叩きが施されている。



第96図　第131号住居跡実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀後葉と推定される。



第97図　第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	甕 主体器	A [24.4] B 34.3 C [9.4]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部で外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部位のヘラナデ。内面横ナデ。輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい黄橙色 普通	60%　P150 覆土下層 (北西コーナー部)
2	坏 須恵器	A 13.3 B 3.9 C 8.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 灰黄色 普通	95%　P159　PL71 覆土中層 (中央部)

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第97図 3	鉢 須恵器	体部～口縁部	口縁部は上下に突出させている。口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の手行叩き。内面横ナデ。	TP15 灰白色 覆土中層（西壁付近）

第132号住居跡（第98・99図）

位置　調査ⅡB区の西部，E３f5区。

規模と平面形　南西部分が調査区域外に延びており，規模や平面形は明確ではないが，調査できた部分での規模は，北東辺2.85m，南東辺（1.50）mである。

主軸方向　［N－43°－W］

壁　北東壁から南東壁だけ残存し，壁高は32～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部の調査区域外が不明であるが，北東壁下中央部で確認され，上幅16～19cm，下幅４～９cm，深さ２cmで，断面形は逆台形である。

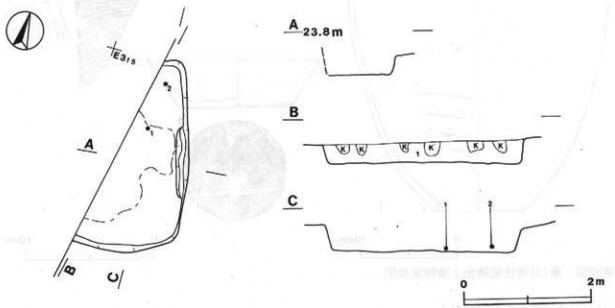
床　調査できた範囲は，ほぼ平坦で，北コーナー部及び東コーナー部を除いて踏み固められている。

覆土　単一層である。覆土が薄いため堆積状況は判断できなかった。

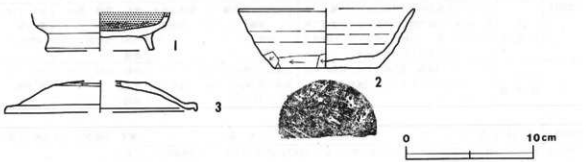
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片13点，須恵器片44点が出土している。第99図１の土師器高台付坏は中央部の，２の須恵器坏は北コーナー部のいずれも覆土下層から出土している。３の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく判断材料が乏しいが，遺構の形態や出土土器から，８世紀中葉から後葉と推定される。



第98図　第132号住居跡実測図



第99図　第132号住居跡出土遺物実測図

第132号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	高台付坏 土師器	B〔 3.1〕 D〔 8.2〕 E 1.4	高台部から体部にかけての破片。体部は下位に稜を有する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 黄褐色 普通	20%　P162 床面直上 (中央部)
2	坏 須恵器	A〔13.8〕 B 4.2 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 石英 灰オリーブ色 普通	30%　P161 床面直上 (北東コーナー部)
3	蓋 須恵器	A〔15.0〕 B〔 2.4〕	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒　長石 黄灰色 普通	30%　P163 覆土中

第133号住居跡（第100・101図）

位置　調査ⅡB区の西部，E3d5区。

重複関係　北東部で第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　西部が調査区域外に延びており明確ではないが，残存する床や壁や柱穴から，長軸2.90m，短軸（2.85m）の方形と推定される。

主軸方向　N－19°－W

壁　調査区域外及び第134号住居跡との重複部分を除き確認できた。壁高は26～36cmで，外傾して立ち上がる。

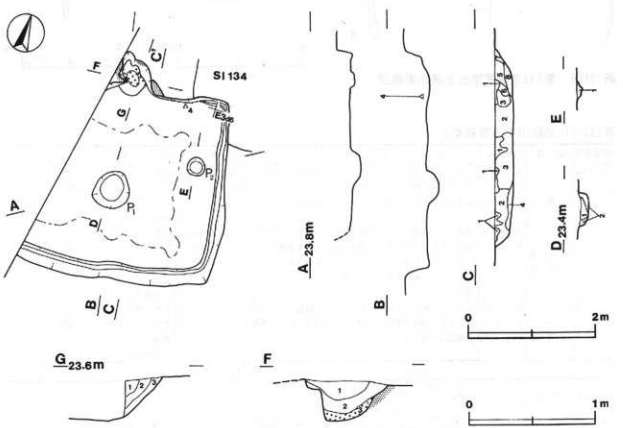
壁溝　調査区域外は確認できないが，その他はほぼ巡っている。上幅16～28cm，下幅3～8cm，深さ3cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ64cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで68cm，両袖幅（90）cmである。天井部は崩落している。西袖部の一部は調査区域外のため確認できなかったが，東袖部は，壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。両袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は長径22cm，短径18cmの楕円形で，深さ2cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　焼土中ブロック少量
2　暗褐色　焼土小ブロック少量
3　暗褐色　焼土粒子中量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は中央部に位置し，長径58cm，短径32cmの楕円形，深さ16cmである。P2は東壁際に位置し，径26cmの円形，深さ8cmである。いずれも性格は不明である。



第100図　第133号住居跡実測図

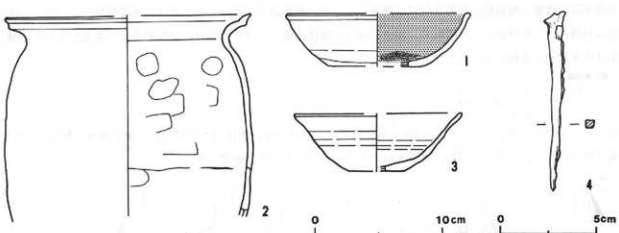
ピット土層解説
P1　1　極暗褐色　炭化物多量
　　2　暗褐色　炭化物少量
P2　1　褐　色　焼土粒子少量

覆土　8層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒　子少量
3　暗褐色　ローム大ブロック中量，焼土粒子少量
4　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子中量
6　暗褐色　焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
7　褐　色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
8　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片136点，須恵器片125点，金属製品２点（釘・不明鉄製品）が出土している。第101図１の土師器坏は北部の覆土中から出土している。２の土師器小形甕と３の須恵器坏は，竈内から出土している。いずれも二次焼成を受けて赤変している。４の釘は北壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀後葉と推定される。



第101図　第133号住居跡出土遺物実測図

第133号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 1	坏 土師器	A [14.4] B 4.1 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい褐色 普通	30%　P164 覆土中 (北部)
2	小形甕 土師器	A [19.2] B (15.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，胴部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ。指頭痕。輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 橙色 普通 二次焼成	10%　P166 竈内
3	坏 須恵器	A [13.2] B 4.5 C [4.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒　雲母　石英 橙色 普通 二次焼成	20%　P165 竈内

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第101図 4	釘	9.4	1.1	0.4	14.2	覆土下層（北壁際）	M27　PL105

第134号住居跡（第102・103図）

位置　調査ⅡB区の北西部，E３c6区。

重複関係　南西部が第133号住居に掘り込まれ，北東部で第137号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.85m，短軸3.80mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は30～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁下を除いてほぼ巡り，南東コーナー付近でやや幅広く張り出している。上幅12～33cm，下幅２～17cm，深さ４cmで，断面は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ78cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで152cm，両袖幅162cmである。天井部は崩落しており，第７層が崩落土と考えられる。両袖の先端部は，攪乱を受けているため確認できなかった。火床部は長径38cm，短径31cmの楕円形で，深さ5cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

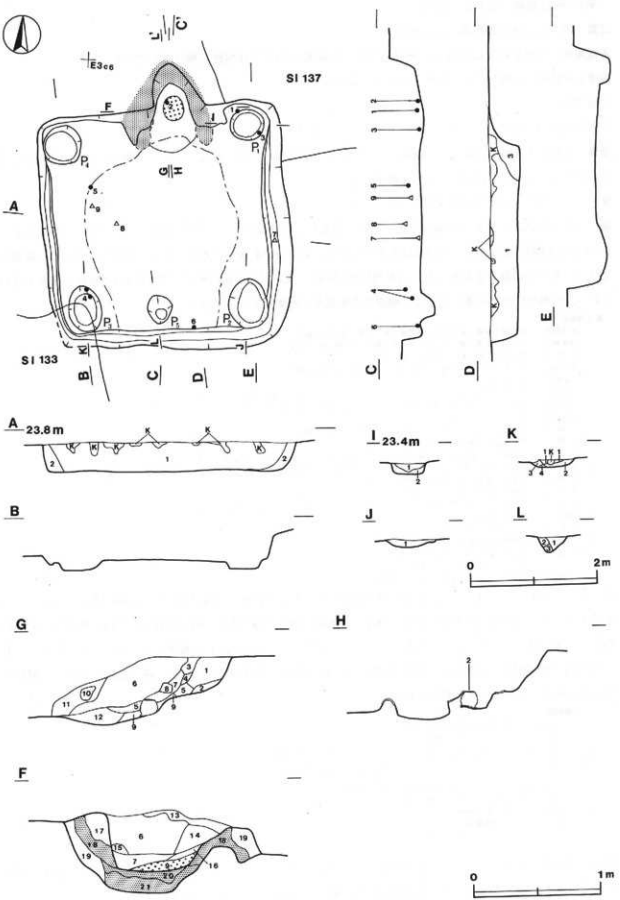
1	暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂質粘土粒子少量
3	黒 褐 色	焼土粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗黒褐色	焼土粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土大ブロック多量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂質粘土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子多量，焼土大ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
8	暗赤褐色	焼土大ブロック中量
9	暗 褐 色	焼土粒子・粘土粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
10	黒 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
11	黒 褐 色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
12	暗 褐 色	炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
13	黒 褐 色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量
14	黄 褐 色	砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
15	赤 褐 色	焼土大ブロック・粒子中量
16	極暗褐色	焼土粒子中量
17	暗 褐 色	ローム粒子・砂粒少量
18	明黄褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子中量
19	明 褐 色	砂質粘土粒子・炭化粒子少量
20	褐　　色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量
21	暗 褐 色	焼土粒子少量，砂質粘土小ブロック微量

ピット　５か所（P1～P5）。P1・P4の上端は径54～76cmの円形，下端は48～50cmの楕円形で，深さ11～18cmである。P２・P３の上端は長径72～76cm，短径36～48cmの楕円形，下端は長径49～52cm，短径36～42cmの楕円形で深さ14cmである。いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁中央の雌際から29cmほど内側に位置する。長径42cm，短径39cmの楕円形，深さ22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

P1	1	暗 褐 色	焼土粒子少量，炭化物微量
	2	褐　　色	ローム小ブロック微量
P2	1	暗 褐 色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
P3	1	褐　　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
	2	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
	3	暗 褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
	4	褐　　色	ローム小ブロック・粒子中量
P5	1	暗 褐 色	焼土粒子微量
	2	褐　　色	炭化物微量
	3	褐　　色	ローム中ブロック微量

覆土　３層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいるが，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第３層の焼土や砂質粘土は，竈からの流れによるものである。



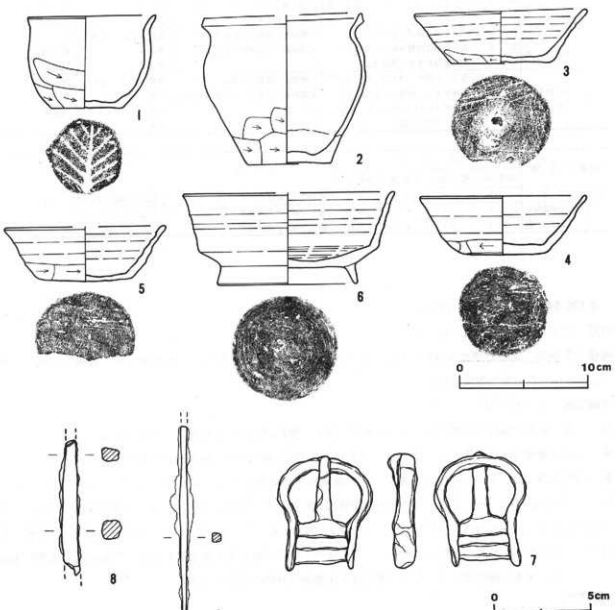
第102図　第134号住居跡実測図

土層解説
1 褐　色　焼土粒子中量，炭化物少量，焼土小ブロック微量
2 暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
3 黄褐色　砂質粘土大ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片443点，須恵器片510点，金属製品４点（帯金具・刀子・鉄鏃・不明鉄製品）が出土している。

第103図１の土師器小形甕は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。２の土師器小形甕は，竈の火床面から逆位で出土している。３～５は須恵器の坏である。３は北東コーナー部の覆土下層から，４は南西コーナー部の覆土中層から，５は北西部の覆土中層から出土している。６の須恵器高台付坏は，南壁際の覆土下層から正位で出土している。７の帯金具は，東壁際の床面から出土している。８の不明鉄製品と９の鉄鏃は，中央部西寄りの覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀中葉と推定される。



第103図　第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 1	小形甕 土師器	A 10.0 B 7.3 C 5.6	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ，下半部横位のヘラ削り。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい橙色 普通	100% P171 PL71 床面直上 (北東コーナー部)
2	小形甕 土師器	A [12.4] B 11.8 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位で内彎し，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ。下位横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 橙色 普通	70% P172 PL72 竈内(火床部)
3	坏 須恵器	A 13.4 B 4.1 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 灰オリーブ色 普通	65% P167 PL72 覆土下層 (北東コーナー部)
4	坏 須恵器	A [12.8] B 4.6 C 7.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 黄灰色 普通	80% P168 PL72 覆土中層 (南西コーナー部)
5	坏 須恵器	A [12.6] B 4.3 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り，高台貼り付け，ナデ。	砂粒 長石 石英 黄灰色 普通	50% P169 覆土中層 (北西部)
6	高台付坏 須恵器	A [16.3] B 7.2 D 10.8 E 1.5	体部・口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台は，「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り，高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 灰色 普通	70% P170 覆土下層 (南側部)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第103図 7	雷金具	6.0	4.8	1.3	39.3	床面直上(東壁際)	M29 鉄具 PL104
8	不明鉄製品	(7.1)	0.9	0.9	(17.4)	覆土中層(中央部西寄り)	M32 PL107
9	鉄 鏃	(10.1)	0.5	0.5	(9.1)	覆土中層(中央部西寄り)	M30 PL106

第135号住居跡（第104・105図）

位置 調査ⅡB区の北東部，D3j8区。

規模と平面形 北部が調査区域外に延びており，明確ではないが，残存する床や壁から，長軸2.70m，短軸(2.05) mの長方形と推定される。

主軸方向 N－90°－W

壁 北部の調査区域外が不明であるほかは確認できた。壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

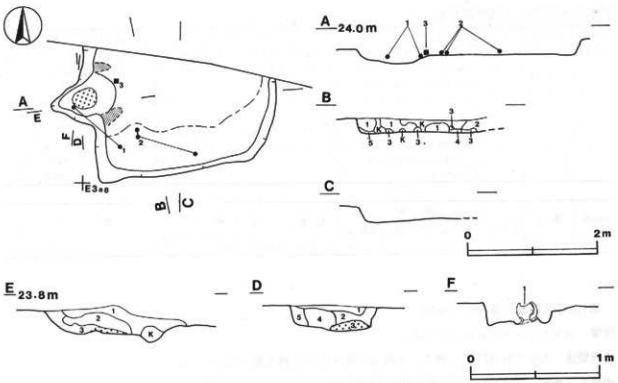
床 北部の調査区域外は確認できないが，ほぼ平坦で，周辺部を除いて踏み固められている。

竈 西壁中央部に，壁外へ65cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，両袖幅（100）cmである。天井部及び両袖部は崩落しているが，わずかに袖の基部が残存している。火床部は長径36cm，短径31cmの楕円形で，深さ8cmほど皿状に掘りくぼめている。第3層の下面から，支脚に転用された土師器の小形甕が逆位で出土していることから，この面が火床面と思われる。火床面は全体的に赤変しているが，あまり硬化はしていない。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

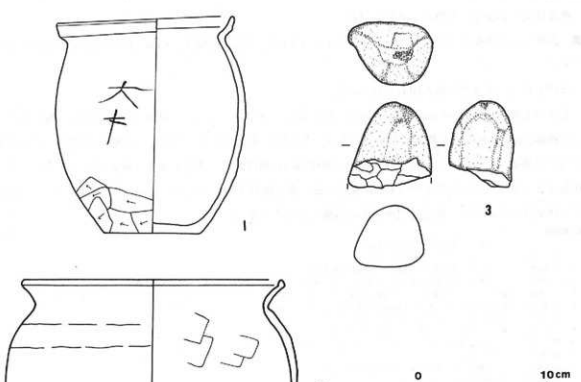
竈土層解説
1 暗褐色 焼土小ブロック・粒子少量
2 褐 色 焼土小ブロック少量
3 褐 色 焼土小ブロック・粒子中量，砂質粘土粒子少量
4 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量

覆土　5層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　褐暗褐色　焼土粒子少量
3　明褐色　ローム大ブロック多量
4　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック多量，焼土粒子微量



第104図　第135号住居跡実測図



第105図　第135号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片174点，須恵器片110点，石器１点（磨石），金属製品２点（釘・不明鉄製品），礫１点が出土している。第105図１の土師器小形甕は，竈内と南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。二次焼成の痕跡が認められる。２の土師器甕は竈南袖部付近と南壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。３の磨石は竈前の床面から出土している。鉄製品２点は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀中葉と推定される。

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	小形甕 土師器	A 13.8 B 17.1 C 7.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横ナデ。下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。底部ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 橙色 普通 二次焼成	95%　P173　PL72 別巻「大口」 竈内 覆土下層 (南西コーナー部)
2	甕 土師器	A [20.0] B (9.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ。輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 にぶい橙色 普通	20%　P174 覆土下層 (南西コーナー部，南壁際)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第105図3	磨石	(6.6)	5.5	4.8	(224.8)	安山岩	床面直上（竈前）	Q14

第136号住居跡（第106～108図）

位置　調査ⅡＢ区の北東部，Ｅ３a7区。

重複関係　南部で第137号住居跡を，北西部で第144号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.45m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　Ｎ－6°－Ｗ

壁　壁高は32～46cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下から西壁下中央部を除いて確認され，上幅12～29cm，下幅５～13cm，深さ４cmで，断面形は逆台形である。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ64cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで97cm，両袖幅105cmである。天井部は崩落しており，第４層が崩落土と考えられる。両袖部は整面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は長径20cm，短径18cmの楕円形で，深さ８cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。第７層の下面が赤変しているため火床面と考えられるが，あまり硬化はしていない。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
6　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
7　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
10　明褐色　炭化粒子微量
11　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
12　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
13　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

14 暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
15 黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

ピット　2か所（P1・P2）。いずれも南西コーナー部に位置する径23～46cmの円形，深さ36cmのピットで，性格は不明である。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

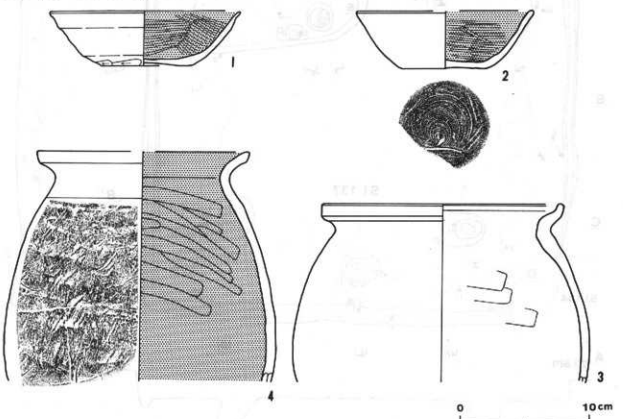
ピット土層解説
1 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子少量

覆土　2層からなる。焼土や炭化物を含むことから，人為堆積と思われる。

土層解説
1 黒褐褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片346点，須恵器片398点，灰釉陶器細片1点，礫1点が出土している。第106図1の土師器坏は竈内から，2の土師器坏は，竈内と北東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の土師器甕は，南壁際やや西寄りの覆土下層から出土している。4の土師器甕は，南部の覆土下層と竈内の破片が接合したものである。灰釉陶器細片は，覆土中から出土している。細片のため器形等は不明である。

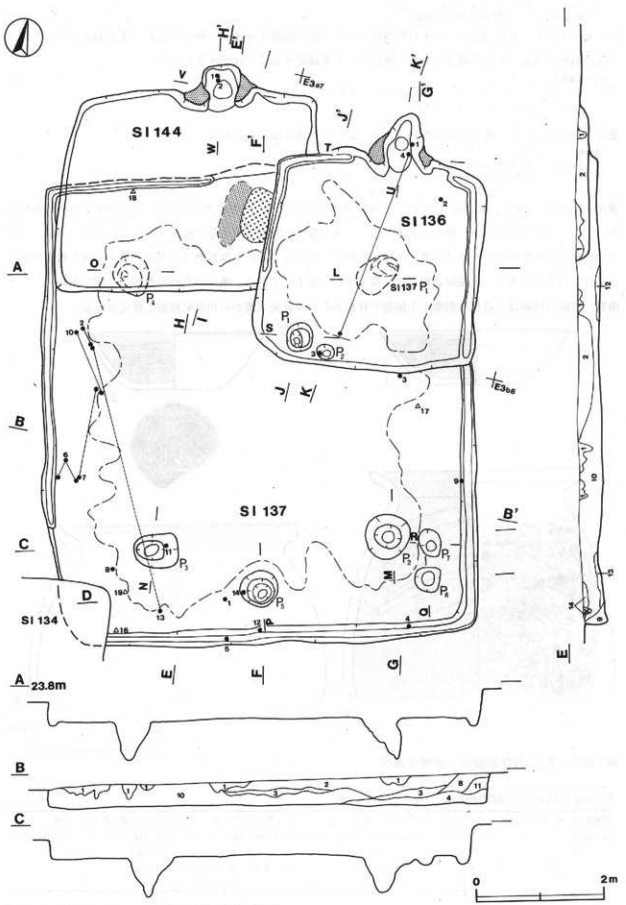
所見　本跡の時期は，遺構の形態や土師器の様相から，9世紀末葉から10世紀初頭と推定される。



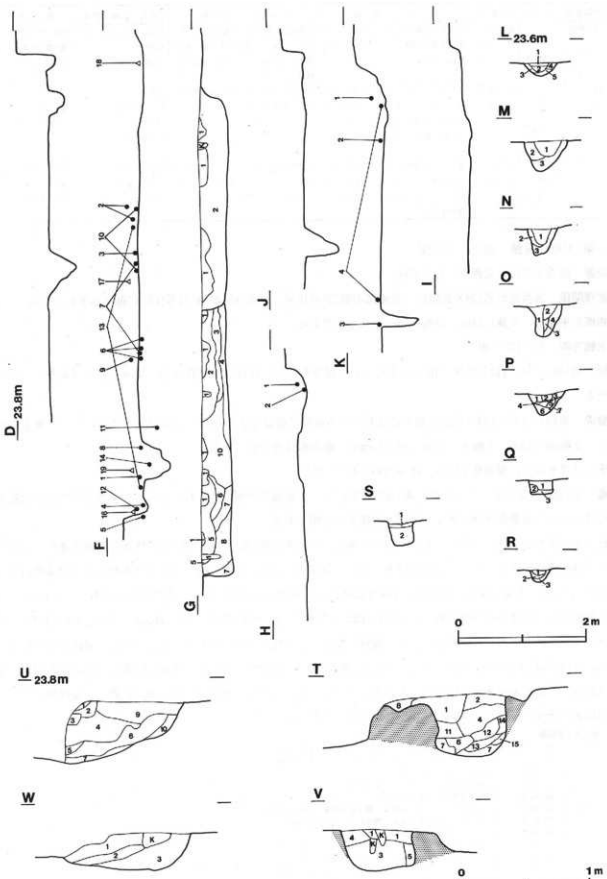
第106図　第136号住居跡出土遺物実測図

第136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	坏 土師器	A 14.8 B 4.2 C 6.8	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。内面黒色処理。	雲母 長石 スコリア にぶい褐色 普通	20% P175 PL72 竈内



第107図　第136・137・144号住居跡実測図(1)



第108図　第136・137・144号住居跡実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 2	坏 土師器	A [13.6] B 4.5 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部糸切り離し後を残す平定方向のヘラナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 スコリア 橙色 普通	40% P176 竈内覆土下層 (北東コーナー部)
3	甕 土師器	A 19.0 B (14.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通 二次焼成	30% P177 覆土下層 (南壁際やや西寄り)
4	甕 土師器	A [16.6] B (18.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して口縁部は外反する。中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 雲母 にぶい橙色 普通	20% P178 竈内 覆土下層(南部)

第137号住居跡（第107～110図）

位置　調査ⅡB区の北西部，E 3 b7区。

重複関係　南西部が第134号住居に，北東部が第136号住居に，北西部が第144号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.34m，短軸6.65mの長方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　第134・136・144号住居に掘り込まれている部分を除いて残存し，壁高は28～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第134・136・144号住居に掘り込まれている部分は確認できないが，ほぼ全周していたものと推定される。上幅16～32cm，下幅 8 ～17cm，深さ10cmで，断面形は逆台形である。

床　ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。

竈　第144号住居によって上部が，第136号住居によって東袖部が掘り込まれており，西袖部と火床部は攪乱を受けているため遺存状況は悪く，形状・規模等は不明である。

ピット　7か所（P1～P7）。P1・P4の上面は，それぞれ第136号住居，第144号住居に掘り込まれているため上端は確認できないが，下端は長径30～40cm，短径34～36cm，深さ（61～67）cmの不整円形または楕円形である。P2は，上端が径70cmの円形，下端が長径24cm，短径18cmの楕円形で，深さは60cmである。P3は，上端が長径70cm，短径58cmの楕円形，下端が長径22cm，短径17cmの楕円形で，深さは62cmである。P1～P4は，いずれも各コーナー寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P2・P3の土層断面及び底面から，柱の径は17cm以下と考えられる。P5は，南壁中央の壁際から30cmほど内側に位置し，径57cmの円形，深さ27cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は，南東コーナー部に位置し，長径48～53cm，短径30～38cmの楕円形，深さ20～27cmで，性格は不明である。

ピット土層断面

P1	1	褐　色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
	2	褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
	3	にぶい黄色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
	4	にぶい黄色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
	5	暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量
P2	1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
P3	1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
	3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
P4	1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量
	2	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
	3	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量
	4	褐　色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量

P5　1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
　　2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
　　3　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
　　4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼土粒子少量
　　5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
　　6　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量
　　7　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
P6　1　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
　　2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
　　3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
P7　1　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量
　　2　褐　色　ローム中ブロック多量
　　3　暗 褐 色　焼土粒子微量

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

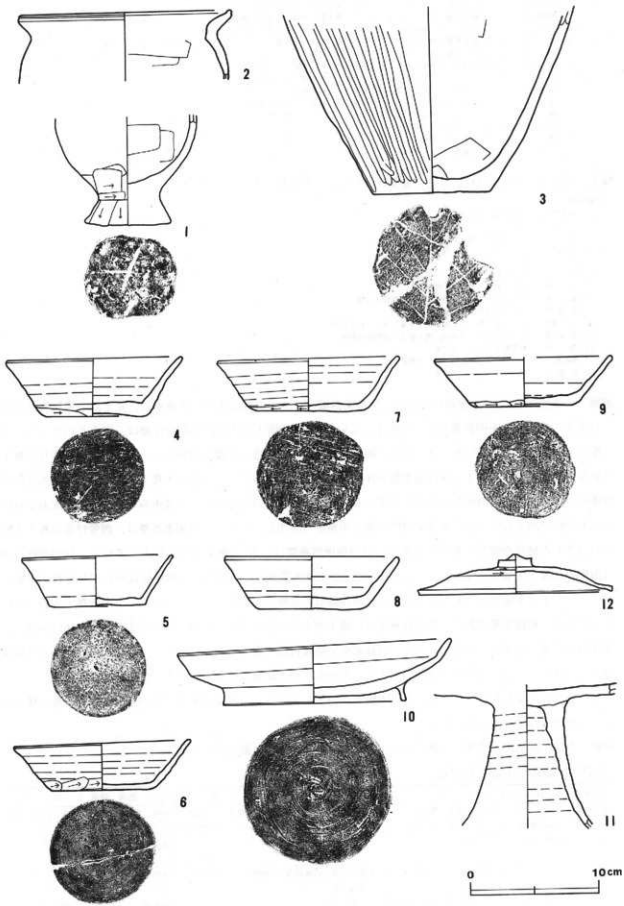
1	帆暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
2	にぶい褐色	焼土小ブロック少量
3	褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック少量
4	明褐色	ローム中ブロック・焼土粒子少量
5	褐　色	焼土粒子少量
6	褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
8	褐　色	ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9	暗褐色	ローム小ブロック少量
10	にぶい褐色	ローム中ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
11	暗褐色	ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12	褐　色	砂質粘土中ブロック中量
13	暗褐褐色	炭化材中量，焼土小ブロック微量
14	暗褐色	焼土中・小ブロック中量

遺物　土師器片694点，須恵器片1001点，灰釉陶器細片２点，土製品１点（紡錘車），瓦１点，金属製品５点（刀子３・鉄鏃１・不明鉄製品１）が出土している。第109図１の土師器小形台付甕は，出入り口ピット近くの覆土下層から出土している。２・３は土師器甕で，２は西壁近くの覆土中層から，３は中央部東寄りの覆土下層から出土している。４～９は須恵器の坏で，４は南壁際南東コーナー寄りの覆土下層から，５は南壁際の壁溝から，６は西壁際の床面から出土している。７は西壁付近の床面から，８は南西コーナー部の床面からいずれも正位で出土している。９は東壁際の覆土中層から出土している。10の須恵器盤は，西壁付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。11の須恵器高盤は，P３の覆土中から出土している。12の須恵器蓋は南壁際の覆土下層から出土している。第110図13の須恵器鉢は，西壁付近と南壁付近のいずれも覆土下層から出土した土器が接合したものである。14は灰釉陶器長頸瓶の頸部片で，出入り口ピット内の覆土中層から出土している。猿投窯産である。15の紡錘車は，覆土中から出土している。16～18は刀子である。16は茎部で，南壁西端の覆土中層から出土している。17は東壁中央部付近の覆土中層から出土している。刃部はかなり研ぎ減りしている。18は，北壁際の床面から出土している。19の鉄鏃は，南西コーナー部の覆土中層から出土している。20の平瓦は北西コーナー部の覆土下層から出土している。二次焼成を受けていることから，竈の構築材として使用されたものと思われる。

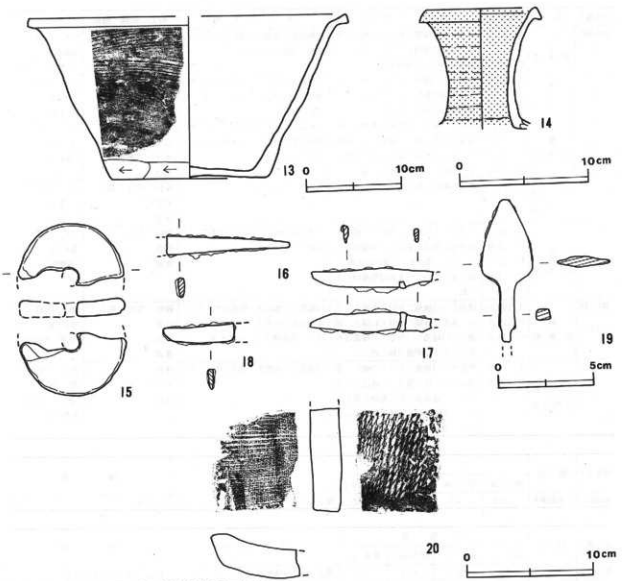
所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀後葉と推定される。

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	器高(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 1	小形台付甕 土　師　器	B（8.5） D　7.2	台部から体部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がる。台部は台形状。	体部外面ナデ。下端横位のヘラ削り。内面横位のヘラ削り。台部外面不定方向のヘラ削り。	砂粒　長石　石英 にぶい褐色 普通	30%　P189　PL73 底部ヘラ記号[＋] 覆土下層 （出入り口P付近）
2	甕 土　師　器	A　16.7 B（5.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 赤褐色 普通	10%　P190 覆土中層 （西壁付近）



第109図　第137号住居跡出土遺物実測図(1)



第110図　第137号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 3	甕 土師器	B (14.3) C 9.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。内面ナデ。一部横位のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 明褐色 普通	30% P181 覆土下層 (中央部東寄り)
4	坏 須恵器	A 13.6 B 4.6 C 7.9	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 オリーブ黄色 普通	100% P179 PL72 覆土下層 (南壁際南東コーナー寄り)
5	坏 須恵器	A 11.7 B 3.9 C 7.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す，不定方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア オリーブ黄色 普通	95% P180 PL72 壁溝 (南壁際)
6	坏 須恵器	A 13.8 B 3.8 C 7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 灰黄色 普通	90% P181 PL72 床面直上 (西壁際)
7	坏 須恵器	A 14.2 B 4.3 C 8.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 灰色 普通	75% P182 PL72 床面直上 (西壁付近)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 8	坏 須恵器	A 13.5 B 4.1 C 8.2	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 黄灰色 普通	60% P183 床面直上 (南西コーナー部)
9	坏 須恵器	A [13.8] B 3.8 C 7.9	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 灰黄褐色 普通	50% P184 覆土中層 (重複部)
10	盤 須恵器	A 21.4 B 4.6 D 14.3 E 1.4	体部・口縁部一部欠損。体部は内彎気味に外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア オリーブ黄色 普通	70% P185 PL72 覆土下層 (西壁付近)
11	高盤 須恵器	B (11.3)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	35% P186 P3覆土中
12	壷 須恵器	A 15.3 B 3.0 F 2.7 G 1.0	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは扁高のボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒 長石 灰色 普通	65% P187 覆土下層 (南側部)
第110図 13	鉢 須恵器	A [32.8] B 16.7 C 16.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 灰色 普通	60% P188 覆土下層 (西壁・南壁付近)
14	長頸瓶 灰釉陶器	A 8.6 B (9.6)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はラッパ状に開き，口縁部は外反する。口縁部は中位に明瞭な稜を持ち，つまみ上げられ外側へ折り返されている。	口縁部から頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒 オリーブ色 良好	20% P192 覆土中層 (出入り口P内) 猿投窯産

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第110図15	土製紡錘車	5.6	0.9	1.0	(16.2)	覆土中	DP6

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第110図16	刀子	(6.6)	1.2	0.4	(6.3)	覆土中層 (南壁西端)	M33 PL101 刀身欠損
17	刀子	(6.4)	1.1	0.3	(6.1)	覆土中層 (東壁付近)	M34 PL101 茎部一部欠損
18	刀子	(3.8)	0.9	0.4	(4.1)	床面直上 (北壁際)	M38 PL101 錆部残存
19	鉄鏃	(7.5)	2.7	0.6	(15.4)	覆土中層 (南西コーナー際)	M35 PL106 茎部欠損

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	器形・寸法の特徴	備考(台帳番号，出土位置，色調など)
第110図 20	平瓦	(8.2)	(7.0)	2.3	(206.6)	凸面縄目叩き。 凹面布目痕。	T6 PL110 覆土下層(北西コーナー部) 灰褐色

第138号住居跡（第111・112図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4b7区。

重複関係　南東部が第139号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　第139号住居に掘り込まれている東壁中央部から南壁を除いて残存し，壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

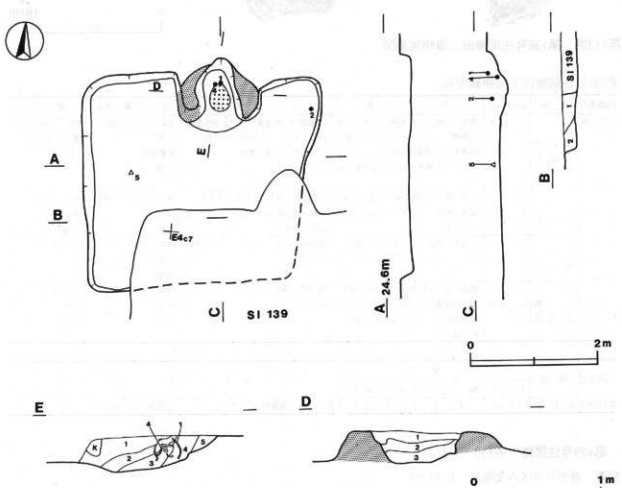
竈　北壁中央部に，壁外へ24cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，両袖幅130cmである。天井部は崩落している。両袖部は，地山のロームを一部掘り残して芯とし，砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は長径31cm，短径22cmの楕円形で，深さ12cmほど皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。第３層の下面が赤変硬化しており，土師器小形甕と須恵器高盤を転用した支脚が出土していることから，火床面と思われる。煙道は，火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5　にぶい褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック微量

覆土　２層からなる。覆土が薄いため堆積状況は判断できなかった。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　　色　炭化粒子少量

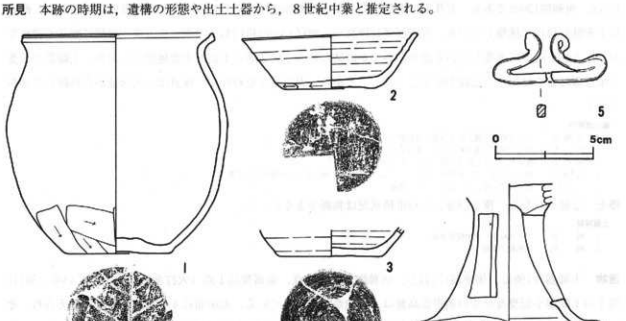
遺物　土師器片198点，須恵器片114点，灰釉陶器細片１点，金属製品１点（火打金）が出土している。第112図１の土師器小形甕及び４の須恵器高盤は，竈内から出土している。火床面に４の脚部が逆位で据えられ，その上に１が逆位で覆い被さるように重ねられていることから，支脚に転用されたものと思われる。２の須恵器



第111図　第138号住居跡実測図

坏は北東コーナー部の覆土上層から出土している。3の須恵器坏は覆土中から出土している。5の火打金は，西壁付近の覆土中層から出土している。覆土中から灰釉陶器が出土している。細片のため器種等は不明である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，8世紀中葉と推定される。



第112図　第138号住居跡出土遺物実測図

第138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	小形甕 土師器	A 14.8 B 18.2 C 8.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による四線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ。下位縦位のヘラ削り。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒　雲母　長石 石英 灰黄褐色 普通	80%　P196　PL73 竈内(火床部)
2	坏 須恵器	A 13.7 B 4.2 C 7.4	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒　長石　石英 灰色 普通	80%　P193 覆土上層 (北東コーナー部)
3	坏 須恵器	B (2.1) C 8.0	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒　雲母　長石 灰黄色 普通	20%　P194 覆土中
4	高盤 須恵器	B (11.4) D 14.5	脚部の破片。脚部はラッパ状に開き，裾部は屈曲して下方へ垂下する。接地面は完る。三方に長方形の透かし孔を有する。	脚部内・外面ロクロナデ。透かし孔はヘラ切り。	砂粒　長石　石英 灰色 普通	30%　P195 竈内 (火床部)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第112図5	火打金	[6.0]	3.1	0.4	(13.3)	覆土中層（西壁付近）	M39　PL104

第139号住居跡（第113・114図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4c7区。

重複関係　北西部で第138号住居跡を掘り込み，中央部が第140号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.60mの方形である。

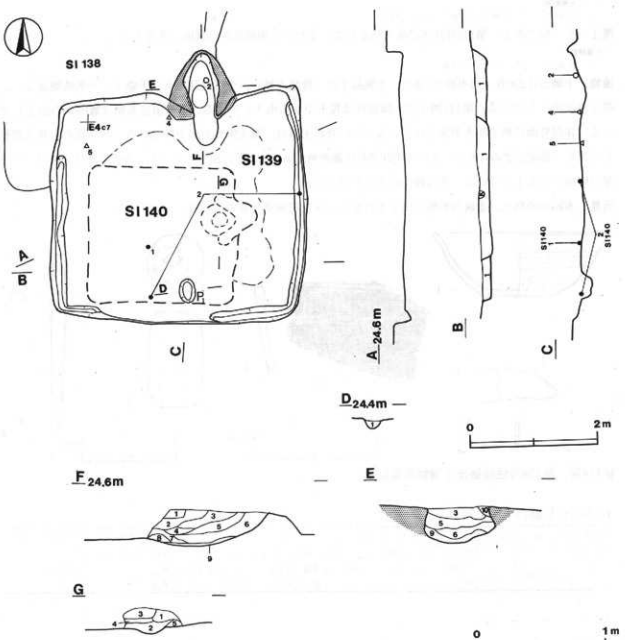
主軸方向　N－0°

壁　壁高は18～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁下と南壁下中央部を除いて巡っている。上幅11～26cm，下幅４～９cm，深さ３～９cmで，断面形はU字形及び逆台形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ64cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，両袖幅112cmである。天井部及び側壁は崩落しており，第１層から第５層までが崩落土と考えられる。両袖部は撹乱を受けているため，わずかに袖部の痕跡が認められるだけである。第９層は焼土や炭化粒子を多量に含んだ締まりの弱い層で，その下面が火床面と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。



第113図　第139・140号住居跡実測図

竈土層解説
1 にぶい褐色　粘土粒子・砂質粘土粒子中量。炭化粒子微量
2 暗 褐 色　粘土粒子・砂質粘土粒子中量。焼土粒子微量
3 暗 褐 色　粘土粒子・砂質粘土粒子中量。焼土粒子少量
4 暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子少量
5 暗赤褐色　焼土粒子多量。焼土小ブロック中量。炭化粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗 褐 色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子多量。焼土小ブロック中量。炭化粒子少量
7 暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量。炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量
8 暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量。ローム小ブロック少量。炭化粒子微量
9 暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量。焼土中ブロック・粘土粒子少量
10 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量。焼土粒子微量

ピット　1か所。南壁中央の壁際から30cmほど内側に位置し，長径38cm，短径26cmの楕円形，深さ12cmのピットで竈に対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

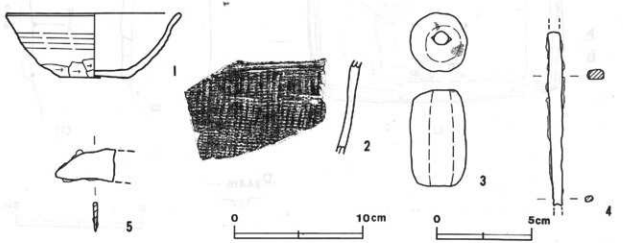
ピット土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　単一層である。第140号住居に掘り込まれているため，堆積状況は判断できなかった。

土層解説
1 明 褐 色　ローム中ブロック少量

遺物　土師器片220点，須恵器片150点，土製品1点（管状土錘），金属製品4点（手鎌1・不明鉄製品3），礫3点が出土している。第114図1の土師器坏は覆土中から出土している。2の須恵器甕は竈内から出土している。体部外面に格子叩きが施されている。3の管状土錘は，覆土中から出土している。ヘラ状の工具で調整している。指紋が認められた。4の不明鉄製品は竈西袖部前の床面から出土している。5の手鎌は北西コーナー部の床面から出土している。5は鋒部のみ残存している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀前葉と推定される。



第114図　第139号住居跡出土遺物実測図

第139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種		計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図	坏	A	13.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒　雲母　長石	90% P201 PL73
1	土師器	B	5.1	は内彎して立ち上がり，口縁部は外	体部下端手持ちヘラ削り。底部切り	橙色	覆土中層
		C	5.5	反する。	離し痕を残す。一方向のヘラナデ。	普通	

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第114図 2	甕 須恵器	体部	体部外面格子叩き。内面ナデ。	TP16 竈内 二次焼成 浅黄色

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第114図3	土錘	5.1	2.9	0.8	47.2	覆土中	DP7 PL98 指頭痕

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第114図4	不明鉄製品	(9.2)	0.8	0.53	(10.4)	床面直上（竈西袖部前）	M40 茎部残存
5	手鎌	(4.7)	2.6	0.25	(7.3)	床面直上（北西コーナー部）	M41 PL103 鋒部残存

第140号住居跡（第113・115図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4c7区。

重複関係　第139号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と平面形　明確ではないが，残存する床から，長軸［2.80m］，短軸［2.10m］の長方形と推定される。

主軸方向　N－90°－E

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

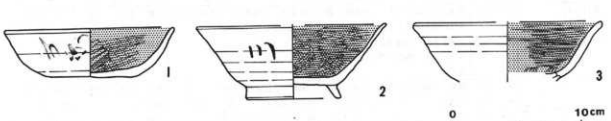
竈　東部で焼土と灰が堆積したわずかな皿状のくぼみを確認した。火床部と思われる。また，その周辺には，竈構築材として使用されたと思われる砂質粘土が堆積している。撹乱により竈の規模等は不明である。

竈土層解説
1　オリーブ褐色　ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　黄褐色　ローム粒子・灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　黄褐色　砂質粘土粒子多量，炭化粒子・粘土中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　灰オリーブ褐色　灰中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　オリーブ褐色　炭化粒子・灰中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量

覆土　単一層である。覆土が薄いため堆積状況は判断できなかった。竈構築材として使用されたと思われる砂質粘土が本跡の東部を中心に堆積している。

土層解説
1　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム中・小ブロック・粒子少量

遺物　土師器片52点，須恵器片67点，石塊2点（雲母片岩）が出土している。図示した土器はいずれも土師器である。第115図1の坏は，中央部の覆土下層から出土している。体部外面に墨書されているが，墨跡が薄く，判読不能である。2の高台付坏は，南壁際と第139号住居跡東壁際のいずれも覆土下層から出土した破片が接合したものである。体部外面に「川」と墨書されている。3の高台付坏は覆土中から出土している。



第115図　第140号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀後葉と推定される。

第140号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.9 C 6.8	口縁部～部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部～体部内面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　石英 にぶい黄橙色 普通	90%　P202　PL73 体部外面墨書・ 刻線不明 覆土下層(中央部)
2	高台付坏 土師器	A [14.9] B 5.8 D 7.4 E 1.1	体部～口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　スコリア 橙色 普通	70%　P203　PL73 体部外面墨書「川」 覆土下層(第139号住 沽跡東壁際，本跡南 隣付近)
3	高台付坏 土師器	A [14.6] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒　雲母　スコリア 明黄褐色 普通	30%　P204 覆土中

第141号住居跡（第116・117図）

位置　調査ⅡＢ区の北部，Ｅ４a6区。

規模と平面形　北部が調査区域外に延びており，規模も平面形も確認できなかった。確認できたのは，東辺（1.10）m，南辺（3.25）mである。

主軸方向　［Ｎ－8°－Ｅ］

壁　調査区域外に延びている部分以外は確認できた。壁高は37～40cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

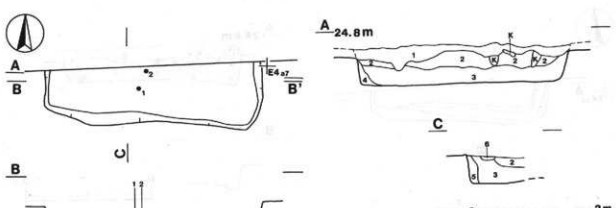
土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
6　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片33点，須恵器片31点が出土している。第117図１の土師器甕と２の須恵器坏は，中央部の覆土中層から出土している。３の須恵器甕は覆土中から出土している。体部外面に同心円状の叩きが施されている。

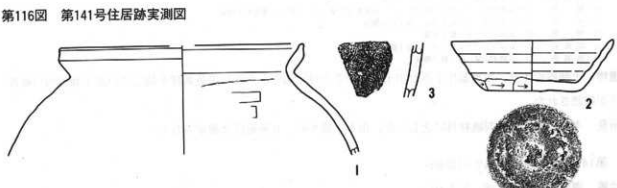
所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく判断が難しいが，出土土器から，８世紀後葉と推定される。

第141号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	甕 土師器	A [18.8] B (8.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒　長石　石英 にぶい褐色 普通	5%　P207 覆土中層 (中央部)
2	坏 須恵器	A 12.6 B 4.1 C 8.5	体部～口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラナデ。	砂粒　長石　石英 褐灰色 普通	80%　P206 覆土中層 (中央部)



第116図　第141号住居跡実測図



第117図　第141号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第117図 3	甕 須恵器	体部	外面同心円状の叩き。内面ナデ。	TP17 覆土中 黄灰色

第142号住居跡（第118図）

位置　調査ⅡB区の北東部，E4a7区。

規模と平面形　北部が調査区域外に延びており，規模も平面形も確認できなかった。確認できたのは，西辺（0.62）m，南辺2.85mである。

主軸方向　［N－0°］

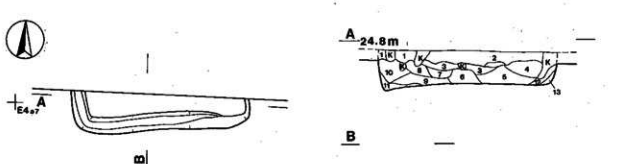
壁　調査区域外に延びている部分以外は確認できた。壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　調査区域外が不明であるほかは巡り，上幅11～19cm，下幅3～12cm，深さ5cmで，断面形は逆台形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

覆土　13層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量



第118図　第142号住居跡実測図

8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
9　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
10　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子微量
11　褐　色　ローム大ブロック・粒子多量
12　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物　土師器片4点，須恵器片1点が出土しているだけである。内面に黒色処理を施している土師器の口縁部片が確認された。

所見　本跡の時期は，判断材料に乏しいが，出土土器から，9世紀代と推定される。

第143号住居跡（第119・120図）

位置　調査ⅡB区の北部，E4a1区。

規模と平面形　北部から東部が調査区域外に延びており，規模も平面形も不明である。西辺（1.95）m，南辺3.30mである。

主軸方向　［N－9°－E］

壁　調査区域外が不明であるほかは確認できた。壁高は26～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　調査区域外が不明であるほかは巡り，上幅11～24cm，下幅2～10cm，深さ2cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，周辺部を除いて，踏み固められている。

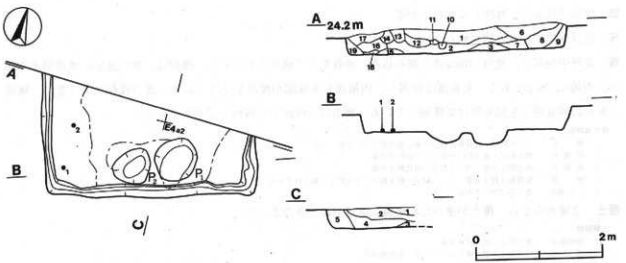
ピット　2か所（P1・P2）。P1・P2は南壁中央部付近に位置し，長径62～70cm，短径50～62cmの楕円形，深さ16～20cmで，性格は不明である。

覆土　19層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

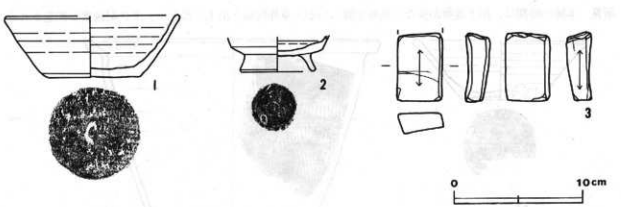
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐褐色　焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
10　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
11　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
12　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
13　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
14　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
15　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
16　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
17　暗褐色　ローム粒子中量
18　褐　色　ローム大ブロック多量
19　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片33点，須恵器片55点，石器１点（砥石），石製２点（雲母片岩）が出土している。第120図１の須恵器坏は南西コーナー部の床面から，２の須恵器高台付坏は西壁付近の覆土下層から出土している。３の砥石は，覆土中から出土している。大半を欠損しているが，研磨による窪みが認められる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀前葉と推定される。



第119図　第143号住居跡実測図



第120図　第143号住居跡出土遺物実測図

第143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	坏 須恵器	A［14.0］ B 4.8 C 7.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 黄灰色 普通	70% P206 PL73 床面直上 （南西コーナー部）
2	高台付坏 須恵器	B（2.8） D 6.0 E 1.4	高台部から体部下半部にかけての破片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 長石 黄灰色 普通	50% P209 覆土下層 （西壁付近）

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第120図3	砥石	（5.3）	3.5	1.6	(51.2)	安山岩	覆土中	Q15

第144号住居跡（第107・108・121図）

位置　調査ⅡB区の北西部，E3a6区。

重複関係　南東部が第136号住居に掘り込まれ，南部で第137号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.96m，短軸3.20mの，北辺に比べ南辺のやや長い長方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的に軟らかい。

竈　北壁中央部に，壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで76cm，両袖幅126cmである。天井部は崩落し，両袖部も先端部が撹乱を受けており，竈の残存状況は悪い。袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

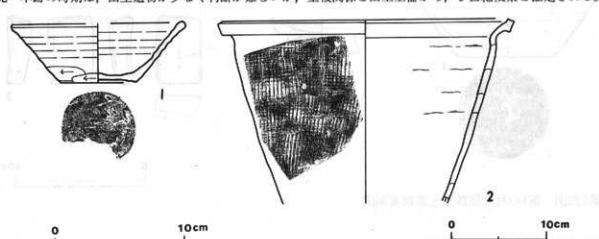
竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
3　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5　にぶい褐色　焼土小ブロック少量

覆土　2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は判断できなかった。

土層解説
1　黒暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片31点，須恵器片26点が出土している。第121図1の須恵器坏及び2の須恵器鉢は，竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく判断が難しいが，重複関係と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第121図　第144号住居跡出土遺物実測図

第144号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	坏 須恵器	A［13.2］ B　4.6 C　5.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒　雲母　長石 石英 灰黄褐色 普通　二次焼成	30%　P210 竈内
2	鉢 須恵器	A［29.6］ B［13.9］	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く屈曲し，外方へ短く開き，上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部格子叩き。内面ナデ。輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 黄灰色 普通 二次焼成	10%　P211 竈内

第145号住居跡（第122～124図）

位置　調査Ⅴ区の南部，Ｈ９b8区。

規模と平面形　長軸3.55m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　Ｎ－23°－Ｗ

壁　壁高は35～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　ほぼ全周している。上幅22～40cm，下幅３～８cm，深さ７cmで，断面形は緩やかなＵ字形である。

床　ほぼ平坦で，全体に３～８cmほどの厚さで貼床が施されている。覆土第９層が貼床部の土層である。

竈　北西壁中央部に，壁外へ48cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで106cm，両袖幅190cmである。煙道部・天井部は崩落している。両袖部の内面は，火熱を受けて赤変硬化している。内面に，補強材として土師器甕片を貼り付けている。土層断面図中，第７～13層が袖部の土層である。火床部は長径60cm，短径58cmの円形で，皿状に深さ10cmほど掘りくぼめている。煙道は，火床部から外傾して立ち上がる。北西袖部外側の床面に，焼土が確認された。床面に被熱痕は認められないことから，火床部の焼土や灰を掻き出したものと考えられる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
3　黄　褐　色　砂質粘土粒子多量
4　黒　褐　色　砂質粘土粒子少量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6　褐　色　砂質中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・砂粒・砂質粘土粒子微量
8　暗　褐　色　炭化粒子・砂粒・砂質粘土粒子中量，ローム中・小ブロック・粒子少量
9　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック少量，炭化粒子・砂粒・砂質粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　砂粒・砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
12　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，焼土粒子・砂粒・砂質粘土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
13　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
焼土土層解説
1　赤　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・灰少量
2　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・灰少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，灰微量

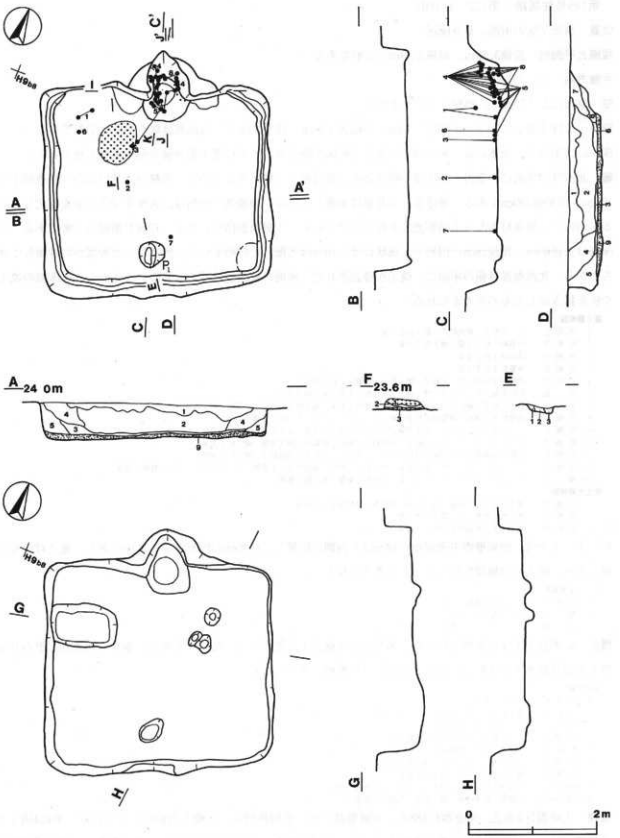
ピット　１か所。南東壁際中央部から42cmほど内側に位置し，径40cmの円形，深さ８cmである。竈と対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム大ブロック多量
3　褐　色　ローム小ブロック多量

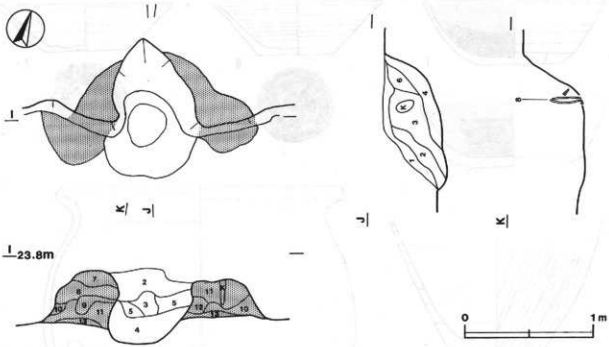
覆土　暗褐色土主体の９層からなる。第５層は壁崩落土と思われる。第７・８層に，竈からの流れと思われる焼土や砂質粘土が含まれていることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
5　暗　褐　色　ローム大ブロック中量
6　暗　褐　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
9　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片405点，須恵器片188点，金属製品２点（不明鉄製品），礫１点が出土している。第124図１の土師器坏は，西コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。２の土師器高台付坏は，中央部の覆土下層から正位で出土している。３～５は土師器甕である。３は，焼土内から逆位で出土している。４は，竈の火床部から土圧で押し潰されたような状態で出土している。５は，竈内から出土した破片が接合したものである。６・７は須恵器坏である。６は，西コーナー部の覆土下層から正位で出土している。



第122図　第145号住居跡実測図(1)



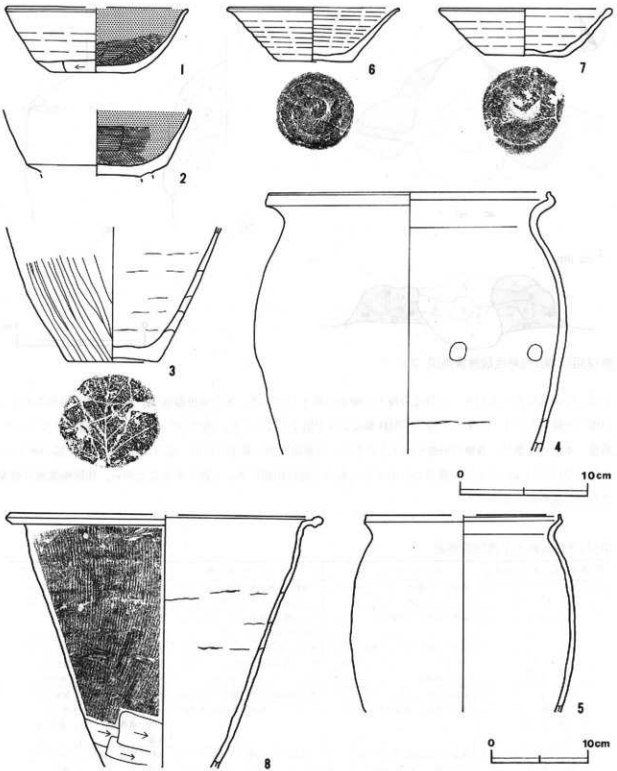
第123図　第145号住居跡実測図（2）

7は，中央部の出入り口ピット付近の覆土下層から出土している。8の須恵器甑は，竈内と覆土中から出土した破片が接合したものである。他に不明鉄製品2点が出土しているが，細片のため，形状は確認できなかった。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀後葉と推定される。竈内から出土した土器の多くは，火熱を受けていないことと，竈外から出土したものと接合関係にある土器もあることから，住居廃絶後に投棄された可能性がある。

第145号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	坏 土師器	A［14.0］ B　5.2 C　6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア 明褐色 二次焼成	40%　P228 覆土中・下層
2	高台付坏 土師器	B（5.3）	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。高台部貼り付けの痕跡有り。	体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒　長石　スコリア 橙色 普通	50%　P239 覆土下層 （中央部）
3	甕 土師器	B（10.5） C　7.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ，輪積み痕。底部木葉痕。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい黄橙色 普通	30%　P242 焼土内 （覆土下層）
4	甕 土師器	A　22.0 B（20.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，擬状工具による押縁を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面指頭による押さえ痕，輪積み痕。	砂粒　雲母　長石 石英 にぶい褐色 普通	50%　P243 竈内 （火床部）



第124図　第145号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 5	甕 土師器	A〔20.0〕 B〔20.5〕	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，中位に明瞭な稜を持ち，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒　雲母　長石 石英　スコリア にぶい橙色 普通	30%　P244 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 6	坏 須恵器	A 13.4 B 4.3 C 5.9	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外反気味に外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 石英 スコリア にぶい黄褐色 普通	90% P240 覆土下層 (西コーナー部)
7	坏 須恵器	A 13.7 B 3.8 C 6.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反した後，丸く収めている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒 石英 灰黄褐色 普通	70% P241 覆土下層 (中央部)
8	瓶 須恵器	A [31.4] B (26.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，頸部で強く屈曲して口縁部外方へ延く開く。口縁部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。下端横位のヘラ削り。内面横ナデ，輪積み痕。	砂粒 雲母 長石 褐灰色 普通	30% P245 PL73 竈内，覆土中

第146号住居跡（第125・126図）

位置 調査V区の南部，G 9 i6区。

重複関係 南西コーナー部を第488号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.07m，短軸2.72mの長方形である。

主軸方向 N－13°－E

壁 壁高は8～16cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に，壁外へ42cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで62cm，両袖幅［124］cmである。天井部は崩落している。東袖部は，撹乱を受けているため確認できなかった。西袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。第3層の下面が火床面で，赤変硬化している部分が見られる。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。煙道のかけ上がり部から，土師器小形甕が逆位で出土している。二次焼成を受けていることから，支脚に転用されたものと思われる。

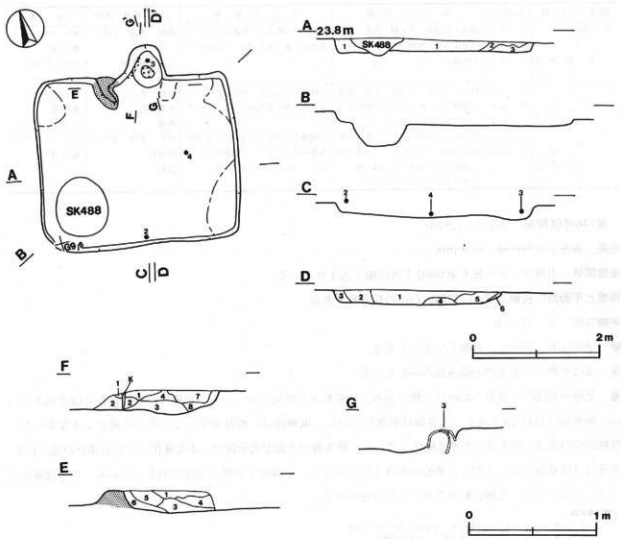
竈土層解説
1 褐 色 ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量
4 にぶい赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
5 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7 褐 色 ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物中量
8 褐 色 ローム大ブロック多量，焼土粒子少量

覆土 6層からなる。各層にロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 褐 色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2 明褐色 ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
3 褐 色 ローム小ブロック中量
4 褐 色 ローム小ブロック多量
5 暗褐色 ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
6 暗褐色 砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量

遺物 土師器片134点，須恵器片73点，灰釉陶器細片1点，炭化物が出土している。第126図1の土師器坏は，覆土中から，2の土師器耳皿は竈壁際の覆土上層から出土している。3の土師器小形甕は，竈煙道のかけ上がり部から逆位で出土している。二次焼成の痕跡があることから，支脚に転用されたものと思われる。3が埋設された部分からは，炭化物が少量確認された。4の須恵器鉢は，中央部やや東寄りの覆土下層から出土している。5の灰釉陶器椀は，覆土中から出土している。尾北窯産のものである。

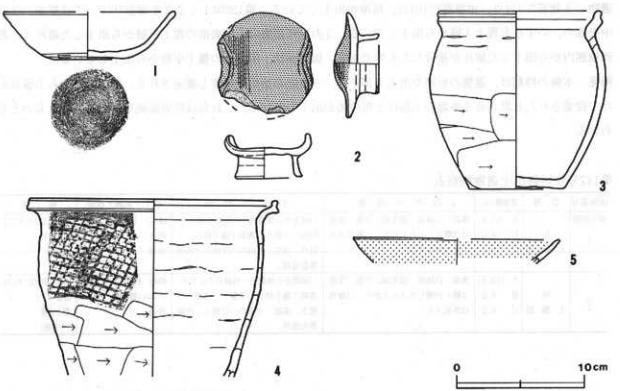
所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第125図　第146号住居跡実測図

第146号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	坏 土師器	A [13.2] B 3.7 C 5.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒 雲母 スコリア 橙色 普通	50% P246 覆土中
2	耳皿 土師器	A [8.4] B 3.5 D 4.8 E 1.6	高台部・口縁部一部欠損。体部は二小所が内傾に丸く折り曲げられている。高台部は「ハ」の字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部外面回転ヘラ削りの後，高台貼り付け，ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 にぶい橙色 普通	90% P247 PL73 覆土上層 (東壁際)
3	小形甕 土師器	A 12.5 B 14.0 C 7.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部横位のヘラ削り。輪積み痕。内面横位のヘラナデ。底部内面ナデ。	砂粒 雲母 長石 明赤褐色 普通 二次焼成	80% P249 竈内 (燃焼部)
4	鉢 須恵器	A 19.4 B (13.9)	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，頸部で強く屈曲して口縁部外方へ短く開く。口縁部は外反し，つまみ上げられ，棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部格子叩き。下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 長石 灰黄褐色 普通	70% P248 覆土下層 (中央部)



第126図　第146号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 5	椀 灰釉陶器	A［16.4］ B（2.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯し，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 浅黄色 良好	5% P250 覆土中 居北混成

第147号住居跡（第127・128図）

位置　調査V区の北部，F 9 d1区。

規模と平面形　長軸2.74m，短軸2.48mの方形である。

主軸方向　N－32°－E

壁　壁高は25～33cmで，外傾して立ち上がる。南壁はほぼ垂直である。

床　ほぼ平坦で，中央部と南コーナー部の一部が，よく踏み固められている。

竈　北東壁中央部に，壁外へ64cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで102cm，両袖幅124cmである。煙道部・天井部は崩落し，残存状況は悪い。袖部は良好に遺存しており，両袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。第3層の下面が火床面で，赤変硬化している。火床部は長径40cm，短径28cmの楕円形で，皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック・炭化粒子多量
2　黒褐色　焼土大ブロック多量，炭化物中量
3　暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量

覆土　6層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

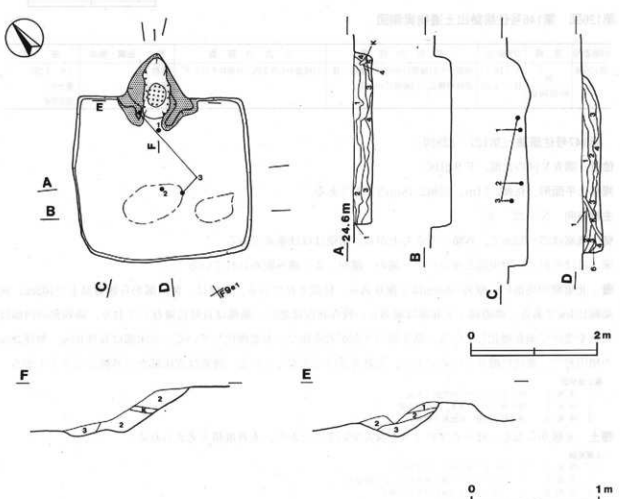
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム中ブロック多量
5　褐　色　ローム大ブロック多量
6　暗褐色　ローム小ブロック微量

遺物　土師器片111点，須恵器片104点，馬歯が出土している。第128図１と２は土師器坏で，１は竈前，２は中央部の，いずれも覆土下層から出土している。３の須恵器甕は，中央部の覆土下層から出土した破片と，北西袖部内から出土した破片が接合したものである。馬の歯は，中央部の覆土中層から出土している。

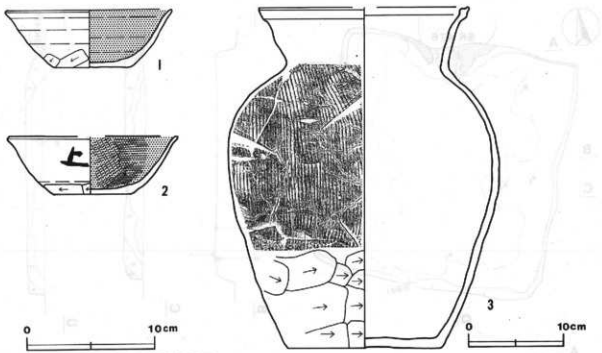
所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，９世紀中葉から後葉と推定される。覆土中層から上層にかけて投棄されたと思われる多数の土器片と馬の歯が出土している。これらは住居廃絶後に投棄されたものと思われる。

第147号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	土師器 坏	A 13.4 B 4.0 C 6.1	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　長石 橙色 普通	70% P251 PL74 覆土下層 (竈前)
2	土師器 坏	A [13.4] B 4.5 C 6.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は軽く内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒　石英　スコリア にぶい黄褐色 普通	70% P252 PL74 墨書「上」 覆土下層 (中央部)



第127図　第147号住居跡実測図



128図　第147号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 3	須恵器 素	A〔21.5〕 B 35.2 C 16.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面最位の平行叩き。下端横位のヘラ削り。底部ナデ。	砂粒　長石 灰色 普通	70% P253 覆内(北西隅掘内) 覆土下層 (中央部)

第148号住居跡（第129・130図）

位置　調査V区の北部，F 8 c0区。

重複関係　北部を第476号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.94m，短軸3.58mの長方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は30～34cmで，外傾して立ち上がる。

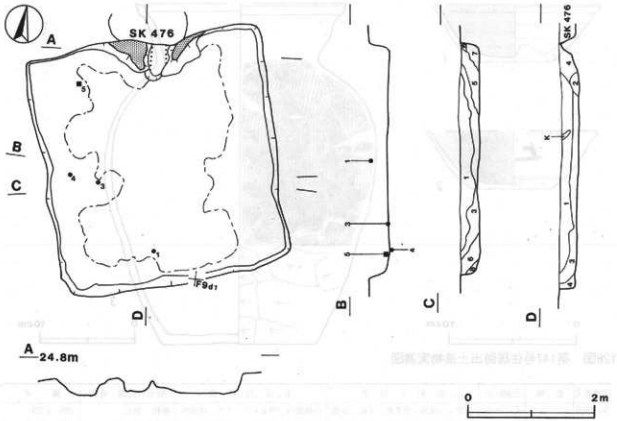
床　ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。

竈　北壁中央部に，砂質粘土で構築されている。第476号土坑に火床部の一部と煙道部が掘り込まれており，火床部は，撹乱を受けているため，残存状況は非常に悪い。重複と撹乱により規模は不明である。両袖部の内面には，火熱を受けて赤変硬化している部分が認められる。竈手前の床面から粘土塊は確認できず，袖部が張り出していたかどうかは不明である。

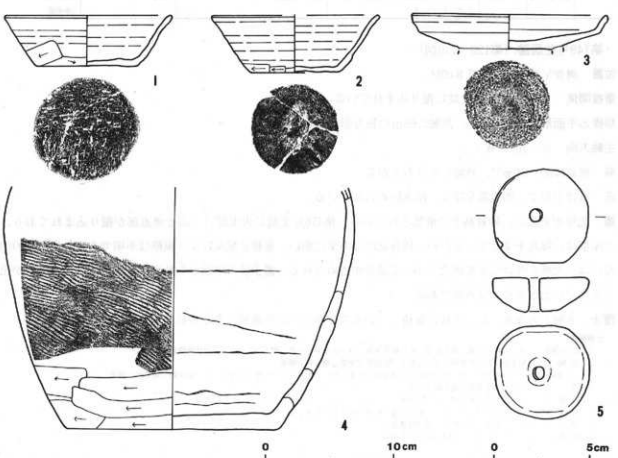
覆土　8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
2　灰褐色　粘土中ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　にぶい褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土中ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8　暗褐色　ローム大ブロック中量，焼土粒子微量



第129図　第148号住居跡実測図



第130図　第148号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片152点，須恵器片174点，石製品１点（紡錘車），灰釉陶器細片２点，陶器細片１点が出土している。出土した土器は，他の住居と比較すると，破砕の度合いが強い傾向にある。図示した土器は，いずれも須恵器である。第130図１の坏は，南壁中央付近の覆土中層から出土している。２の坏は，覆土中から出土している。３の盤は，中央部やや西寄りの覆土下層から正位で出土している。４の甕は，西壁中央付近の覆土下層から正位で出土している。灰釉陶器細片２点は覆土中から出土しているが，細片のため図示できなかった。器種等は不明である。５の石製紡錘車は，北西コーナー部の覆土下層から出土している。全面に，入念な磨きが施されている。陶器細片は，混入と思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，８世紀後葉と推定される。竈内から出土した土器の多くは，火熱を受けていないことと，竈外から出土したものと接合関係にある土器もあることから，住居廃絶後に投棄された可能性がある。

第148号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 4.0 C 7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒 長石 スコリア 灰黄色 普通	70% P254 覆土中層 (前壁中央部付近)
2	坏 須恵器	A [13.1] B 4.5 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 暗灰黄色 普通	50% P255 覆土中
3	盤 須恵器	A 15.2 B (2.7)	高台部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台貼り付けの痕跡有り。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	80% P256 PL74 覆土下層 (中央部西寄り)
4	甕 須恵器	B (19.1) C 16.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き。下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 灰黄褐色 普通	40% P257 覆土下層 (西壁中央部付近)

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第130図 5	石製紡錘車	5.0	1.8	0.6	(49.3)	緑灰岩	覆土下層(北西コーナー部)	Q25 PL94

第149号住居跡（第131・132図）

位置　調査Ｖ区の南部，Ｇ９g5区。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸3.07mの，東辺に比べやや西辺の長い方形である。北壁西部が北壁東部よりやや北に張り出している。

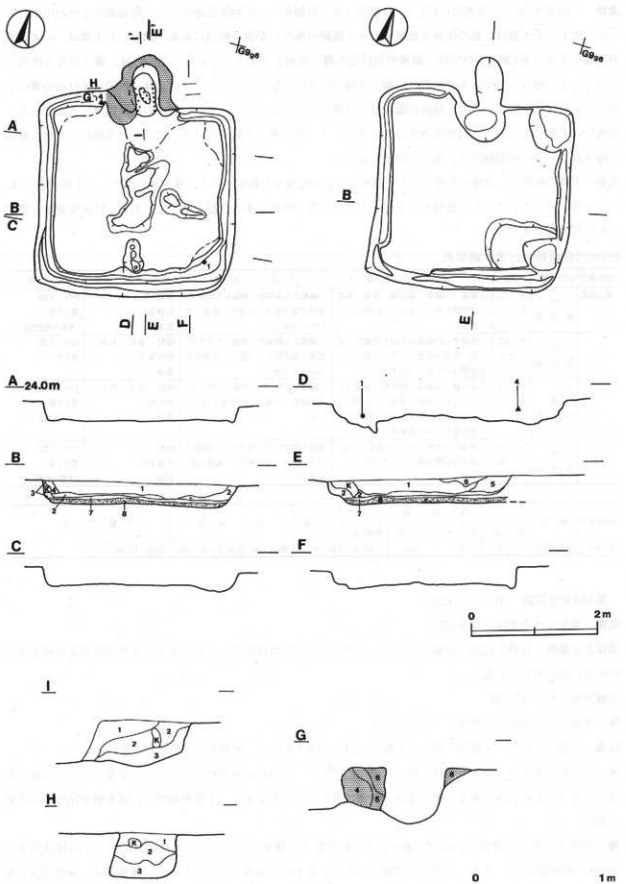
主軸方向　Ｎ－14°－Ｗ

壁　壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅20～42cm，下幅４～21cm，深さ８cmで，断面形は逆台形である。

床　中央部にわずかな高まりを持つが，ほぼ平坦である。全面が踏み固められている。全面ローム土主体の貼床で，厚さは７～11cmである。掘り方は，全体に著しい凸凹を呈する。土層断面図中，第８層が貼床部の土層である。

竈　北壁中央部に，壁外へ70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで152cm，両袖幅110cmである。天井部は崩落しており，第２層が崩落土と考えられる。西袖部は，東袖部より長く張り出すように構築されている。北壁西部が北壁東部よりやや北に張り出しているため，両袖部を揃える意図があったと推測される。西袖部は，青灰色粘土を芯にし，砂質粘土を多量に貼り付け構築している。東袖部



第131図　第149号住居跡実測図

は砂質粘土を薄く貼り付け構築している。両袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。土層断面図中，第4－6層が袖部の土壌である。火床部は長径54cm，短径40cmの楕円形で，皿状に掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

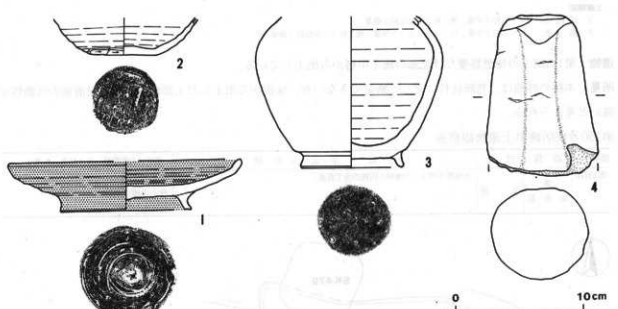
竈土層解説
1 黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒 褐 色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 黒 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
4 灰白～乍色　粘土大ブロック多量
5 暗 褐 色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　8層からなる。ロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
2 褐　色　ローム中ブロック中量
3 褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
4 暗 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
5 暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
6 極暗褐色　炭化物少量
7 褐　色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐　色　ローム大・中ブロック多量，炭化粒子微量

遺物　土師器片189点，須恵器片91点，土製品1点（支脚），礫1点，陶器細片2点が出土している。第132図1の土師器盤は，南東コーナー部の覆土下層から正位で出土している。2の須恵器坏と3の須恵器長頸瓶は，覆土中から出土している。4の土製支脚は，竈西袖部付近の覆土中層から出土している。陶器細片は，撹乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器から，9世紀前葉と推定される。



第132図　第149号住居跡出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	盤 土師器	A［18.2］ B 3.9 D 10.4 E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒　雲母　長石　石英　普通	60%　P260　覆土下層（南東コーナー部）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 2	坏 須恵器	B (2.9) C 5.1	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 石英 浅黄色 普通	60% P258 覆土中
3	長頸瓶 須恵器	B (11.9) D 8.0 E 1.2	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は球形を呈する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	砂粒 雲母 長石 スコリア 暗灰黄色 普通	45% P261 覆土中

図版番号	種別	計測値 高さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第132図 4	土製支脚	(12.7)	(7.2)	(4.5)	(634.4)	覆土下層(竈西袖付近)	DP9 PL100 火熱痕

第150号住居跡（第133・134図）

位置　調査V区の南端部，H9f0区。

重複関係　第479・480・490号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　床面と思われる硬化面だけ確認し住居跡と判断したが，本跡の中央部以南が調査区域外に延びており，第479・480・490号土坑に掘り込まれ，覆土も浅いため，規模も平面形も確認できなかった。

床　調査区域外と重複している部分は不明であるが，平坦であると推定される。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含んでいるが，覆土が薄く，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

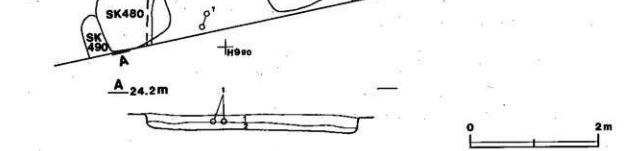
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　第134図1の須恵器甕だけ北部の覆土中層から出土している。

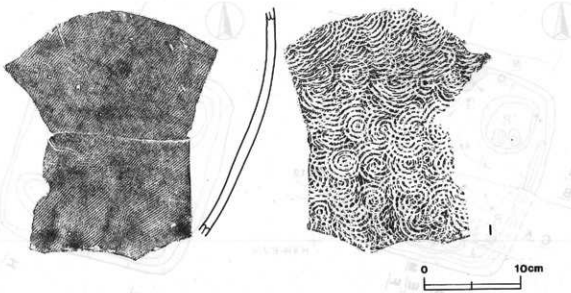
所見　本跡の時期は，判断材料に乏しく断定できないが，床面から出土した土器から，9世紀前葉の可能性が高いと考えられる。

第150号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第134図 1	甕 須恵器	体部	外面格子叩き。内面同心円状の当て具痕。	TP22 覆土中層(北部) 黄灰色



第133図　第150号住居跡実測図



第134図　第150号住居跡出土遺物実測図

第151号住居跡（第135・136図）

位置　調査Ⅳ区の南部，H 9 h3区。

重複関係　本跡は第12・13号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.25m，短軸2.92mの長方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は40～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁周辺を除き巡っている。上幅12～16cm，下幅5～8cm，深さ3cmで，断面形はU字形である。

床　全面が平坦で，3～18cmの褐色土により，全体に貼床が施されている。中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部やや東寄りに，壁外へ12cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで112cm，両袖幅98cmである。火床部は，床面をほとんど掘りくぼめていない。火床面は火熱を受けて，赤変し，中央の一部が硬化している。煙道は垂直に立ち上がる。竈の覆土は4層(第1～4層)，袖部の土層は6層(第1～6層)に分けられた。

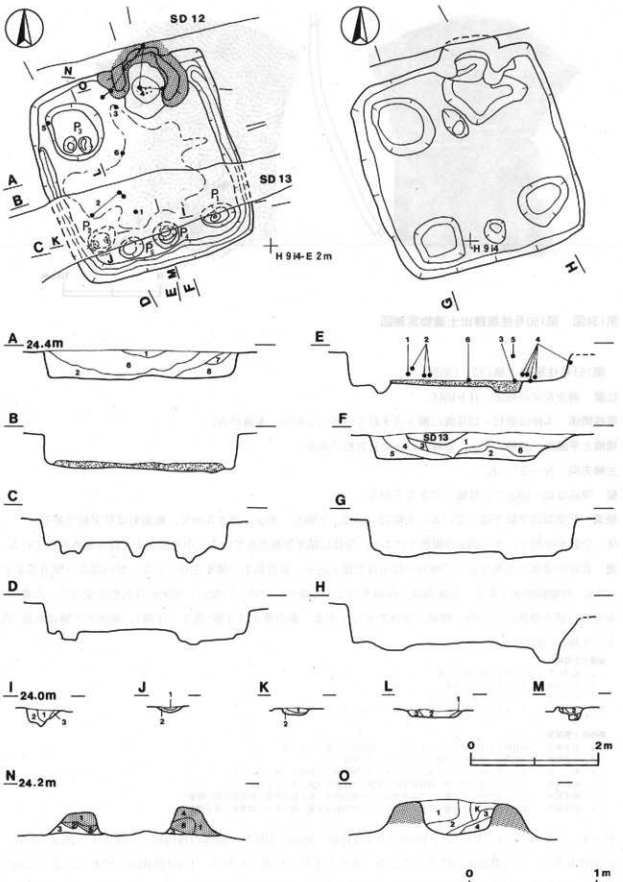
竈覆土土層解説

1	黄 褐 色	炭化粒子・焼土粒子少量
2	にぶい黄色	ローム小ブロック少量
3	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量
4	褐　　色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・粘土中ブロック中量

竈袖部土層解説

1	暗赤褐色	砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
3	褐　　色	ローム中・小ブロック多量，ローム大ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子少量
4	暗赤褐色	ローム中・小ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5	暗赤褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
6	暗赤褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量

ピット　5か所（P1～P5）。P1からP3は長径40～96cm，短径31～84cmの楕円形で，深さ4～25cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置していることから主柱穴と考えられる。P4は径40cmの円形で，深さ22cmである。南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は長径90cm，短径78cmの楕円形で，深さ8cmである。南西コーナー部に位置しており，性格不明である。

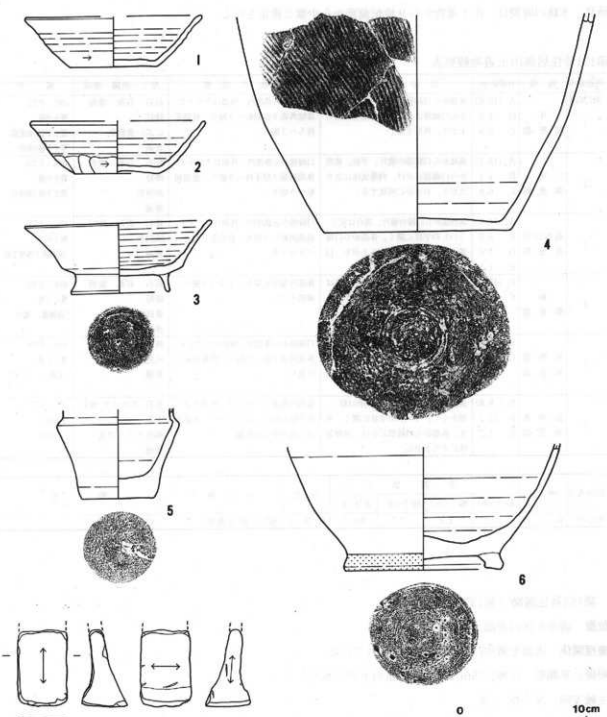


第135図　第151号住居跡実測図

ピット土層解説
1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3 褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子少量

覆土　8層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思わる。

土層解説
1 褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子・焼土粒子少量
3 灰 褐 色　ローム粒子少量
4 暗褐褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子微量
5 褐　色　焼土粒子中量



第136図　第151号住居跡出土遺物実測図

6 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7 褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
8 褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器片209点，須恵器片216点，土製品１点（不明土製品），石器１点（砥石），金属製品１点（刀子）が出土している。遺物は住居跡の南部を中心に，覆土上層から下層まで平均的に出土している。第136図１の須恵器坏は南部の覆土中層から下層にかけて，２の須恵器坏は南西部の覆土中層から下層にかけて，３の須恵器高台付坏は竈西袖手前の床面直上から，４の須恵器鉢は竈内と竈西袖脇の覆土下層から，６の須恵器長頸瓶は中央部の床面直上から，７の砥石は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀前葉から中葉と推定される。

第151号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	坏 須恵器	A [13.6] B 4.0 C 6.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	50% P752 覆土中層～覆土下層(南東部) 覆土下層(南部)
2	坏 須恵器	A [13.7] B 4.1 C 6.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	40% P753 覆土中層～覆土下層(南西部)
3	高台付坏 須恵器	A 14.4 B 5.5 D 7.6 E 1.5	高台部から口縁の破片。高台は長く，「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ，直線的に立ち上がり，口縁部は強く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け，ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	60% P754 覆土中 (床面直上西袖手前)
4	鉢 須恵器	B (17.0) C 14.6	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き，下位ヘラ削り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	40% P755 覆土下層 (西袖脇) 竈内
5	短頸壺 須恵器	B (7.0) C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がり，上位に最大径を有する。口縁部は直立する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	30% P756 覆土上層 (北西コーナー部)
6	長頸瓶 須恵器	B (9.8) D 12.2 E 1.2	高台部から体部の破片。高台は厚く，張かくて，「ハ」の字状に開く。平底。体部から口縁部にかけ，内彎気味に立ち上がる。	体部内外面ロクロナデ。底部ナデ。高台貼り付け，ロクロナデ。底部内面と高台部に自然釉。	長石 スコリア 砂粒 灰色 粘灰オリーブ色 普通	30% P757 床面直上 (中央部)

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第136図 7	砥石	(6.0)	4.1	3.7	(84.2)	凝灰岩	覆土下層(北東部)	Q112 PL.96

第152号住居跡（第137・138図）

位置　調査Ｖ区の南部，Ｇ９h8区。

重複関係　南部を第507号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.55m，短軸2.53mの方形である。

主軸方向　Ｎ－18°－Ｗ

壁　壁高は４～６cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナー付近で確認された。上幅12～20cm，下幅２～６cm，深さ２cmで，断面形は緩やかなＵ字形

である。

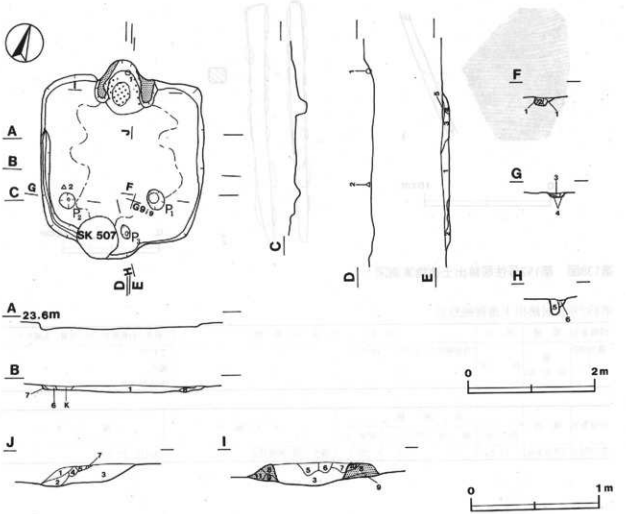
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に，壁外へ24cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで84cm，両袖幅92cmである。天井部は崩落しているが，両袖部及び火床部は良好に遺存している。両袖部は，ローム土を芯材とし，その上に砂質粘土を貼り付け構築している。両袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。土層断面図中，第8～11層が袖部の土層である。火床部は長径38cm，短径28cmの楕円形で，皿状に深さ8cmほど掘りくぼめている。第3層の下面が火床面で，赤変硬化している部分が見られる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
4	褐　色	ローム中・小ブロック・粒子多量，砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量
8	褐　色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9	褐　色	ローム中・小ブロック・粒子中量
10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2の上端は径26cmの円形，下端は径4～18cmの円形，深さ8～12cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は南壁際中央部か



第137図　第152号住居跡実測図

ら26cmほど内側に位置し，長径14cm，短径10cmの楕円形，深さ23cmである。竈と対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが，他にピットを確認することはできなかった。

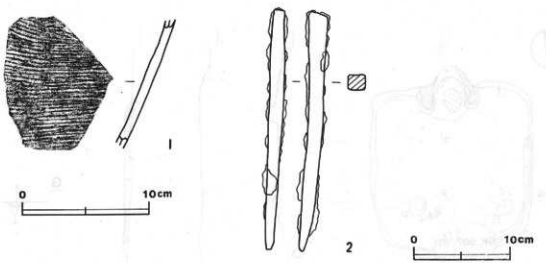
ピット土層解説
1 暗褐色 ローム中ブロック多量
2 褐 色 ローム小ブロック中量
3 黒褐色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム中ブロック中量
5 褐 色 ローム中ブロック多量
6 褐 色 ローム大ブロック多量

覆土 8層からなる。第4・5層に竈からの流れと思われる焼土や砂質粘土が含まれていることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
2 褐 色 ローム小ブロック・粒子中量
3 暗褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6 褐 色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
7 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
8 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物 土師器片6点，須恵器片1点，金属製品1点（不明鉄製品）が出土している。第138図1の須恵器甕は，竈内から出土している。2の不明鉄製品は，西壁付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器が少なく，判断材料に乏しいが，8世紀中葉から後葉と推定される。



第138図 第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考（台帳番号，出土位置，色調など）
第138図 1	須恵器	体部	外面横位の平行叩き。内面ナデ。	TP23 竈内 灰白色

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第138図 2	不明鉄製品	12.8	1.1	0.8	39.4	覆土下層(西壁付近)	M111 PL107

第153号住居跡（第139～142図）

位置　調査V区の中央部，G９f7区。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸4.38mの長方形である。

主軸方向　N－5°W

壁　壁高は25～30cmで，西壁が垂直であるほかは，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅14～24cm，下幅３～10cm，深さ８cmで，断面形は緩やかなU字形である。

床　ほぼ平坦で，周辺部を除き，踏み固められている。全面ローム主体の貼床で，厚さは５～18cmである。掘り方は，各コーナー部が掘りくぼめられ全体に著しい凸凹を呈する。土層断面図中の第４層が貼床部の土層である。

竈　北壁中央部に，壁外へ20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖幅168cmである。天井部は崩落している。両袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。土層断面図中，第９～17層が袖部の土層である。火床面は，第３層の下面と思われる。赤変しているが，あまり硬化していない。床面と同じ平坦面を使用している。石製支脚が，竈の中軸線上の火床部と煙道の境目から確認された。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

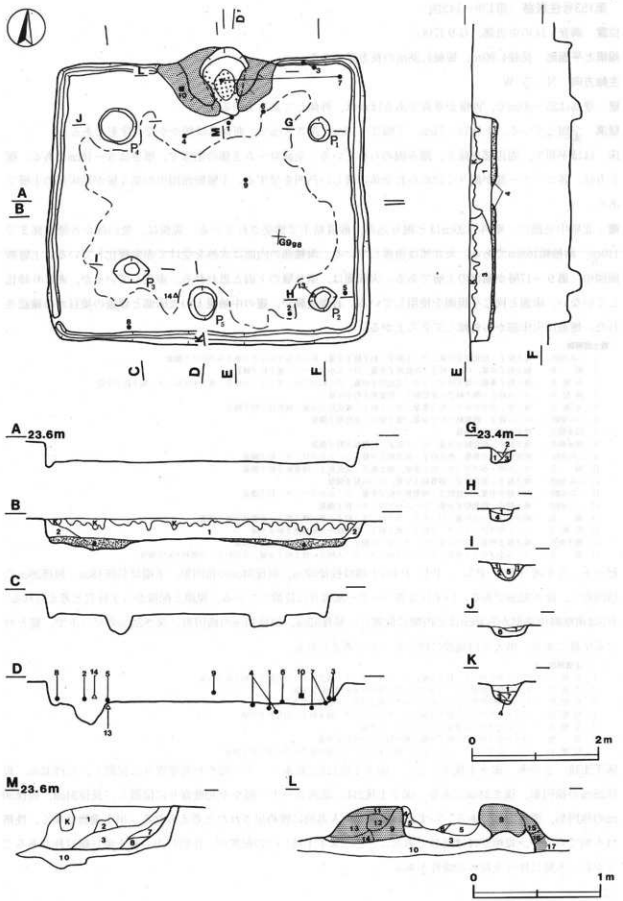
1	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
2	褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3	赤 褐 色	焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
4	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5	赤 褐 色	焼土中・小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
6	にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土中ブロック中量
8	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
9	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
10	褐　色	ローム中・小ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘七少量，ローム粒子微量
12	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
13	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
14	褐　色	粘土中ブロック中量，ローム中・小ブロック・粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
15	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
16	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
17	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット　５か所（P1～P5）。P1～P4の上端は長径52cm，短径34cmの楕円形，下端は長径48cm，短径26cmの楕円形で，深さ32cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部から40cmほど内側に位置し，長径52cm，短径40cmの楕円形，深さ32cmのピットで，竈と対する位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

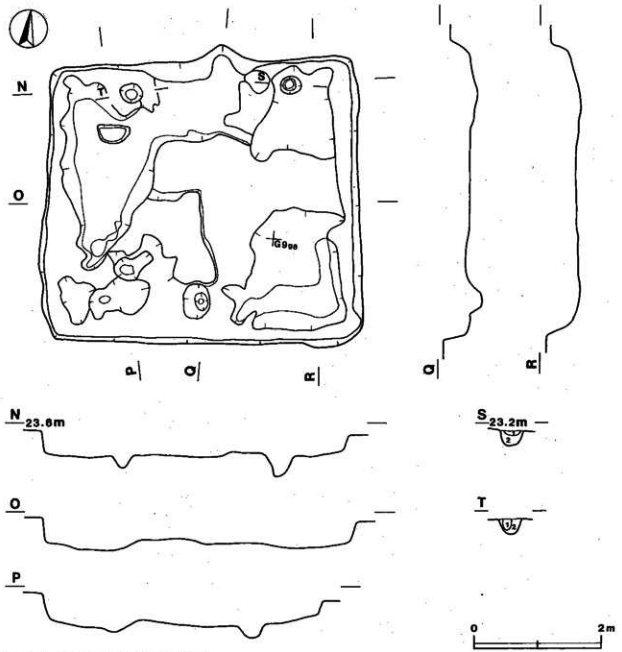
ピット土層解説

1	暗 褐 色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	黒 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗 褐 色	ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗 褐 色	ローム大ブロック多量，焼土小ブロック少量
6	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

床下土坑　２か所（床下土坑１・２）。床下土坑1は，北東コーナー部やや北壁寄りに位置し，長径32cm，短径28cmの楕円形，深さ24cmである。床下土坑2は，北西コーナー部やや北壁寄りに位置し，長径34cm，短径30cmの楕円形，深さ24cmである。いずれの覆土も，人為的に埋め戻されたと考えられる。出土遺物はなく，性格は不明であるが，規模がほぼ同じであることと，床下土坑1・2の配置が，住居の中心線を境に線対称であることから，本跡に伴う土坑の可能性がある。



第139図　第153号住居跡実測図（1）



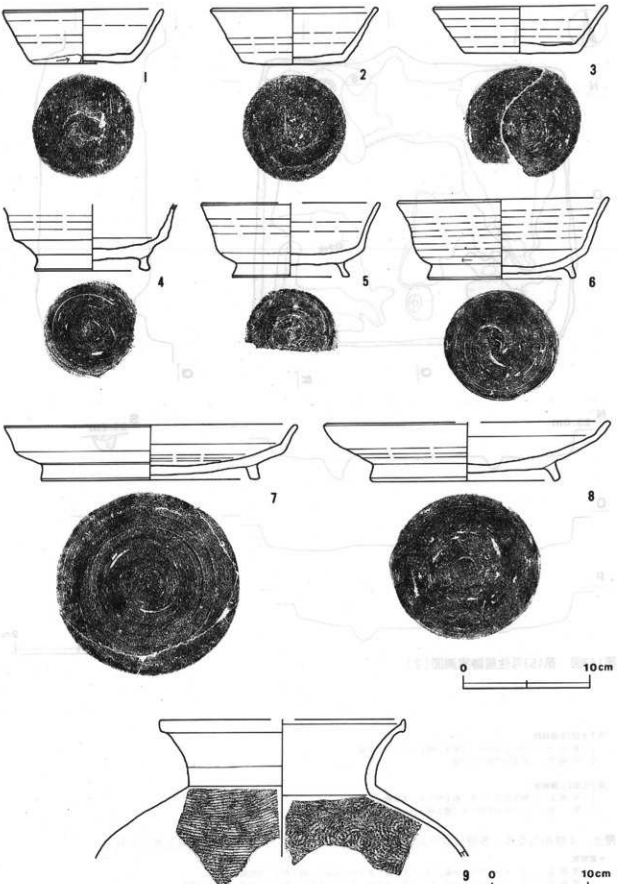
第140図　第153号住居跡実測図(2)

床下土坑1土層解説
1　黄 褐 色　ローム大ブロック多量，焼土小ブロック少量
2　暗 褐 色　粘土小ブロック少量

床下土坑2土層解説
1　黒 褐 色　焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・粘土中ブロック中量

覆土　4層からなる。各層にロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム大ブロック中量，ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量



第141図　第153号住居跡出土遺物実測図(1)